

A工区地質記載シート

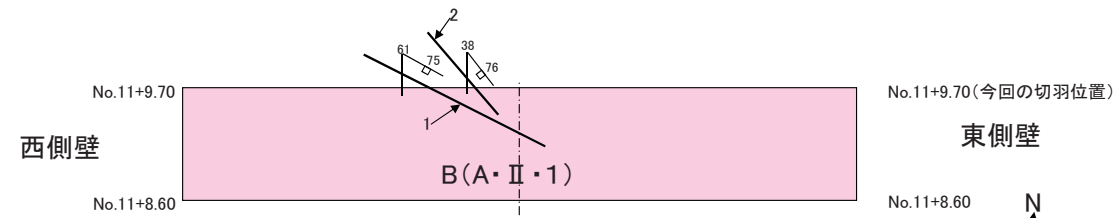
A5-請負-計測工(地質)-130711

シート番号	500mアクセス北坑道79	日時	2013/7/11 17:30~19:00	位置・深度	500mアクセス北坑道79 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

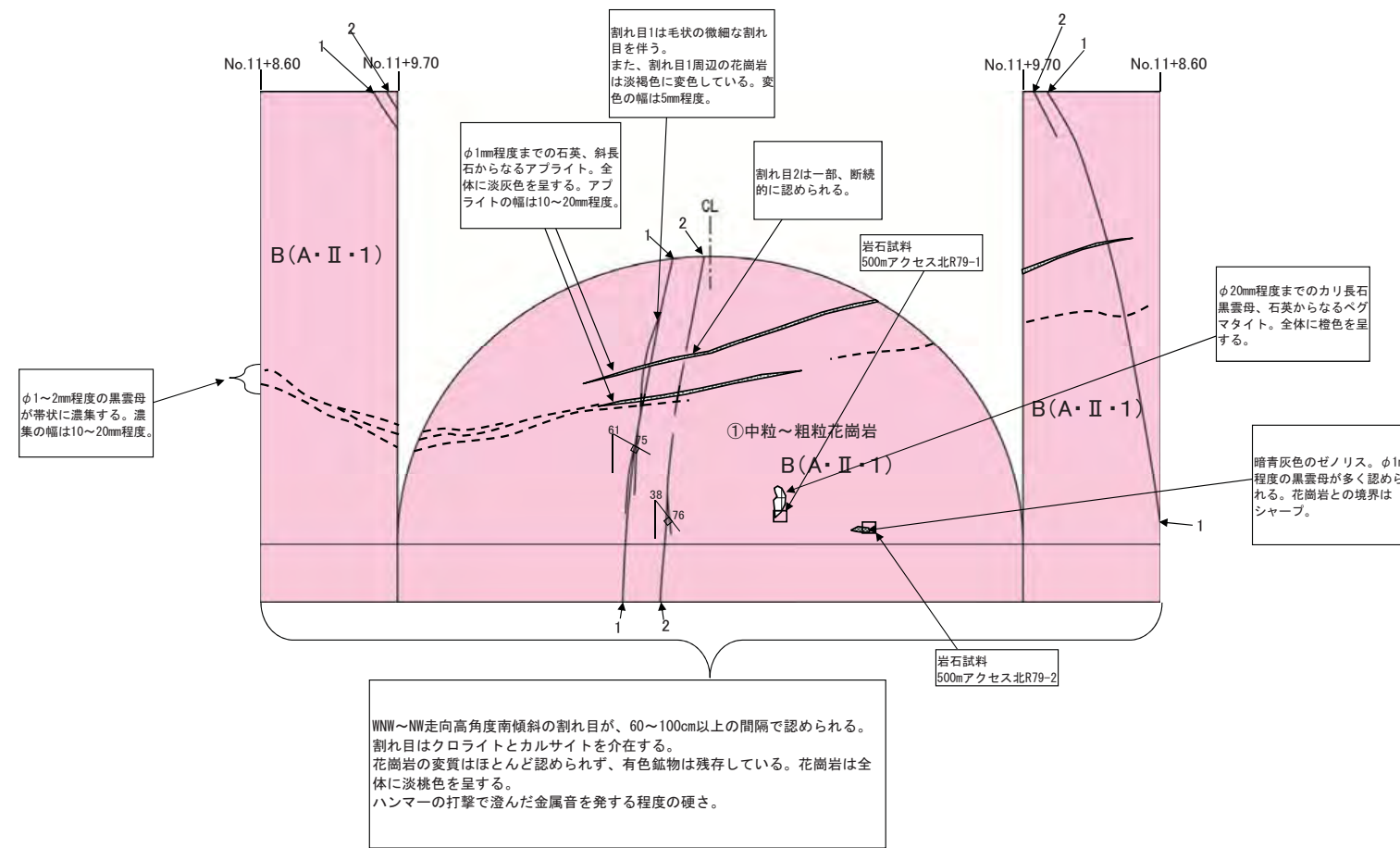
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

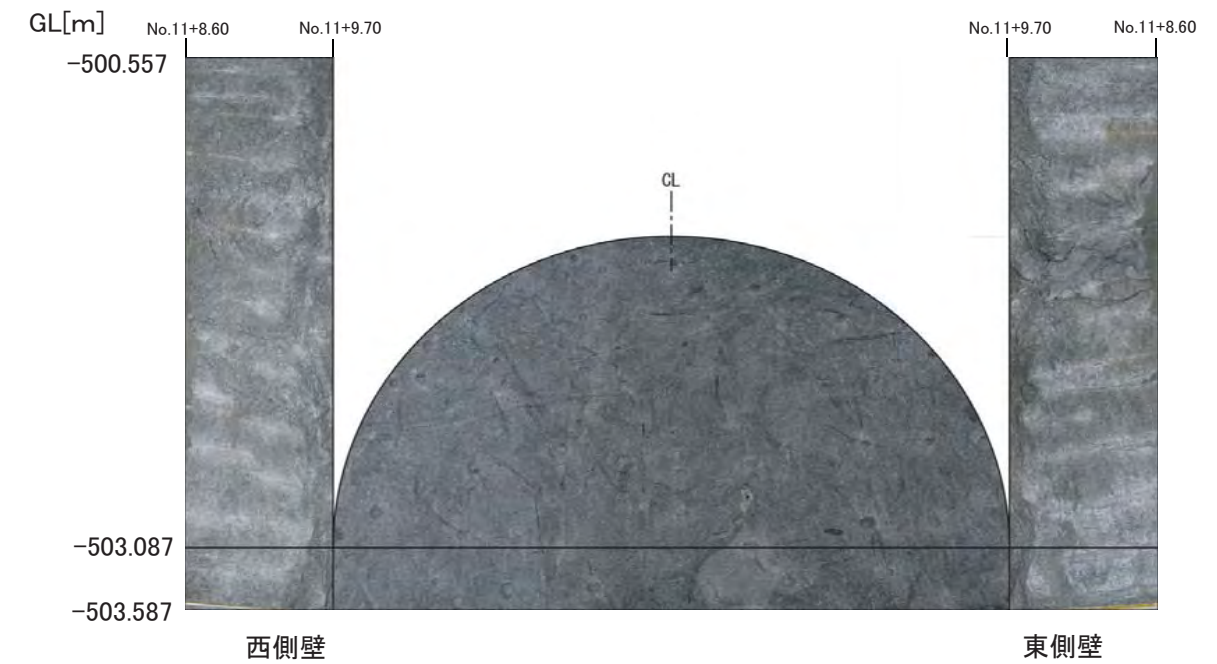
- 凡例
- 花崗岩
 - 割れ目
 - 79 割れ目の走向傾斜
 - 岩級区分境界
 - 湧水
 - 黒雲母の濃集
 - アブライト
 - ペグマタイト



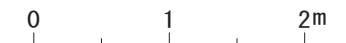
スライス断面図



スケッチ



可視画像



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	B B	特記事項 当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.1m離れた場所より目視観察を実施した。 岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。鏡中央付近には、φ20mm程度までの石英、カリ長石、斜長石、黒雲母からなるペグマタイトが認められた。また、鏡中央付近から東側壁にかけては、φ1mm程度までの石英、斜長石からなるアブライトが帯状に認められた。 花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡褐色を呈する。割れ目4周辺の花崗岩は、カリ長石が淡褐色に変色している。 割れ目の走向傾斜は、WNW~NW走向高角度南傾斜が認められた。 割れ目の介在物は、カルサイトとクロライトが認められる。 湧水は認められなかった。 岩級区分は、割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡褐色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	90 90	
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R79-1(花崗岩), 500mアクセス北R79-2(花崗岩)		
変質	1~2	採水試料番号	-		
湧水	無し				

A工区地質記載シート

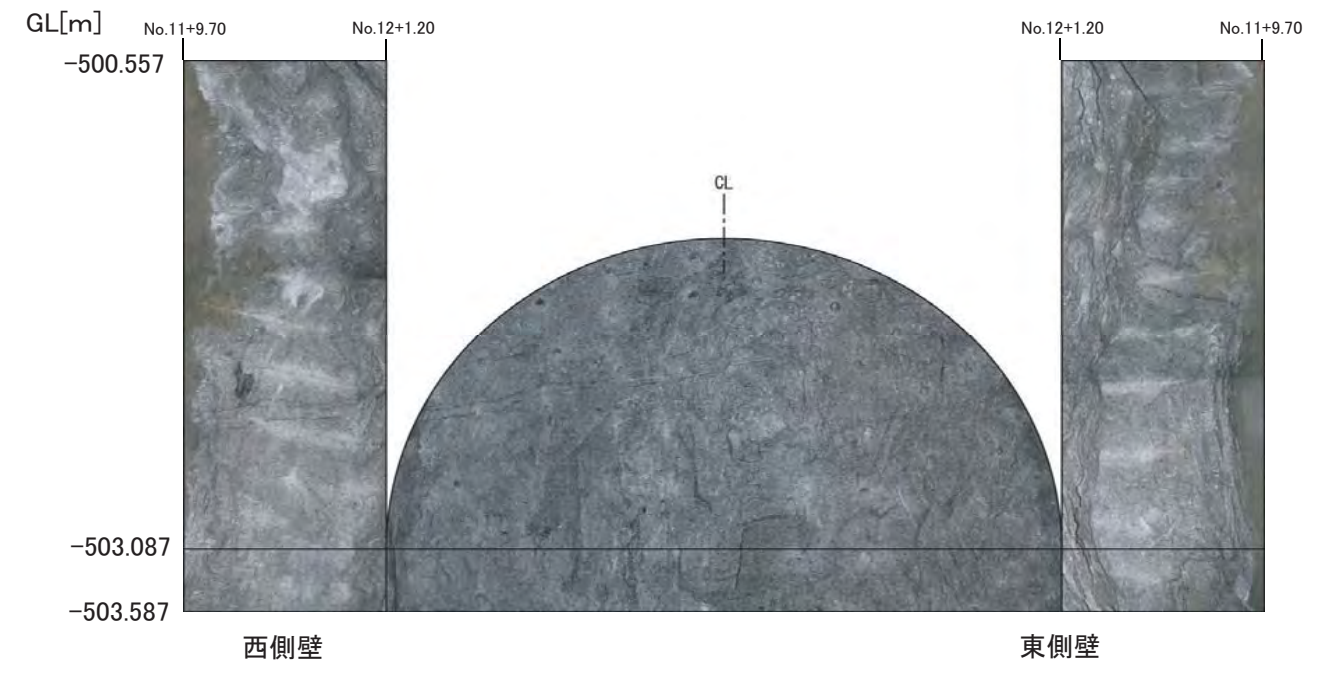
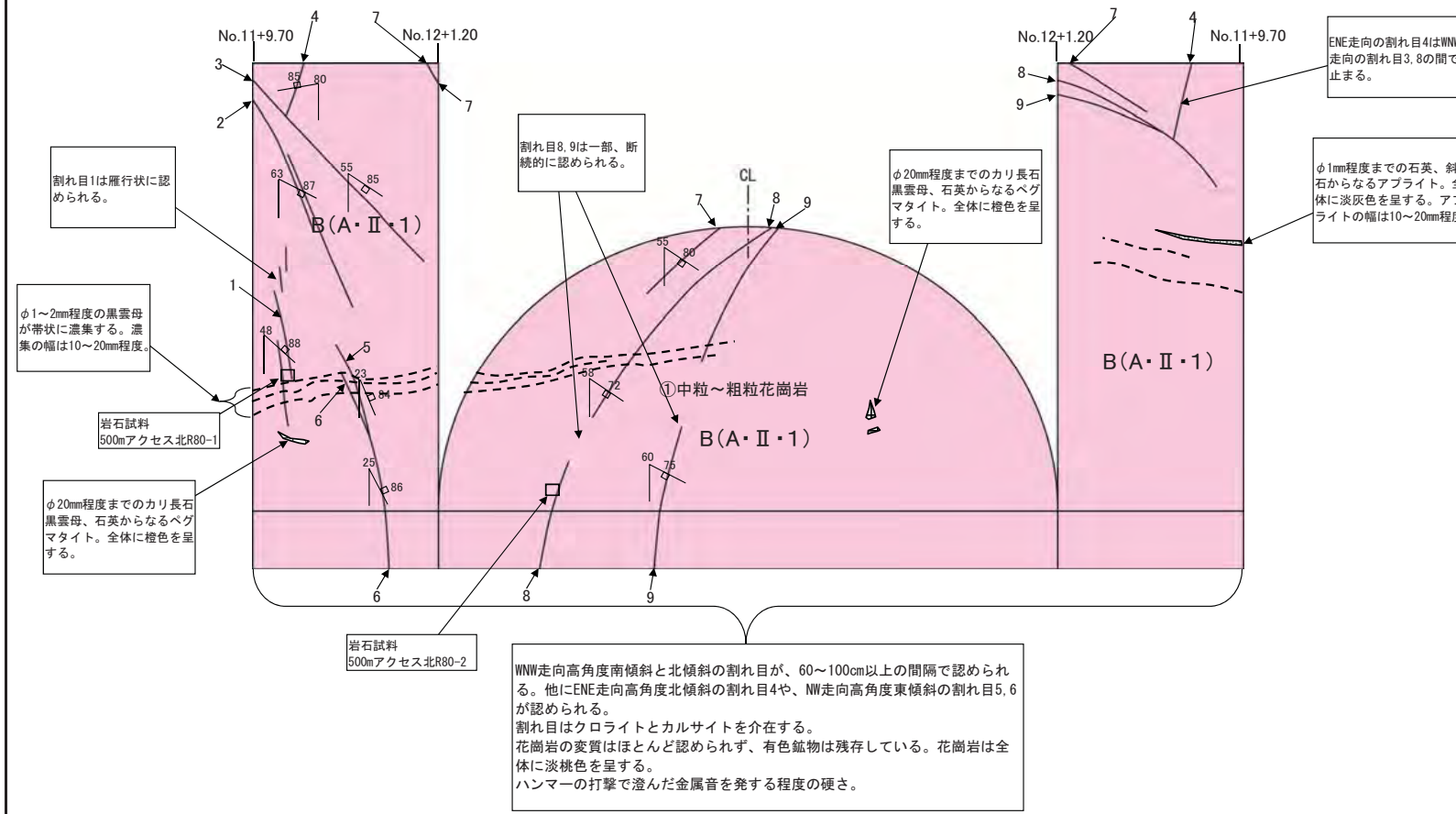
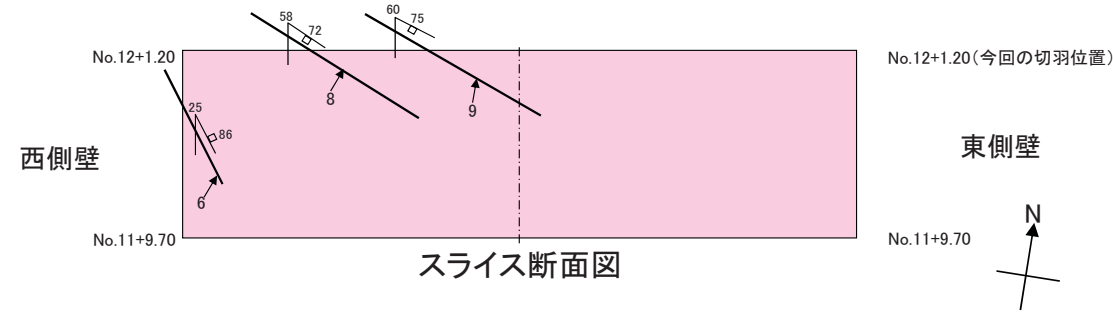
A5-請負-計測工(地質)-130713

シート番号	500mアクセス北坑道80	日時	2013/7/13 9:30~11:00	位置・深度	500mアクセス北坑道80 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

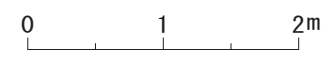
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

- 凡例
- 花崗岩
 - 割れ目
 - 70 割れ目の走向傾斜
 - 岩級区分境界
 - 湧水
 - 黒雲母の濃集
 - アブライト
 - ペグマタイト



可視画像



スケッチ		特記事項	
岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m B G.L. -502.807m~-503.587m B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡褐色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m 90 G.L. -502.807m~-503.587m 90
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R80-1 (花崗岩), 500mアクセス北R80-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	無し		

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。
 岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。鏡中央付近には、φ20mm程度までの石英、カリ長石、斜長石、黒雲母からなるペグマタイトが認められた。
 花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目7, 8, 9周辺の花崗岩は、カリ長石が淡褐色に変色している。
 割れ目の走向傾斜は、WNW走向高角度南傾斜と北傾斜の割れ目が主体で、他に、ENE走向高角度北傾斜や、NW走向高角度東傾斜が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライトが認められる。
 湧水は認められなかった。
 岩級区分は、割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

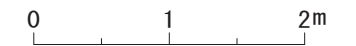
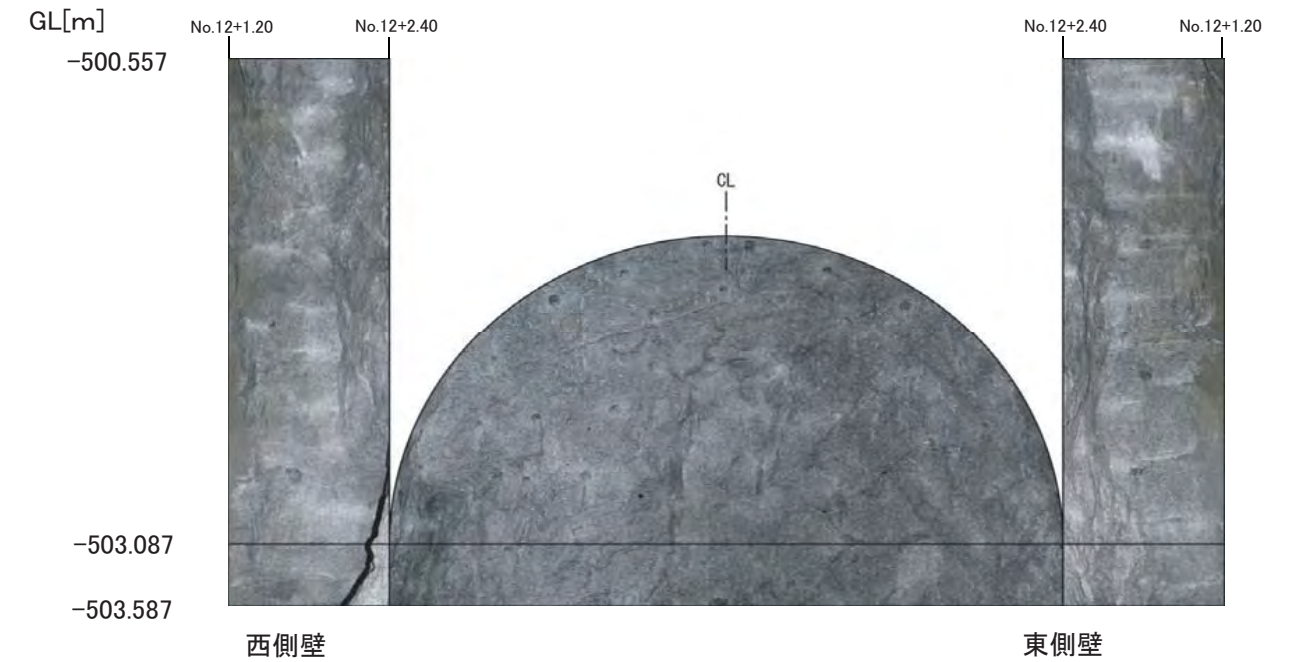
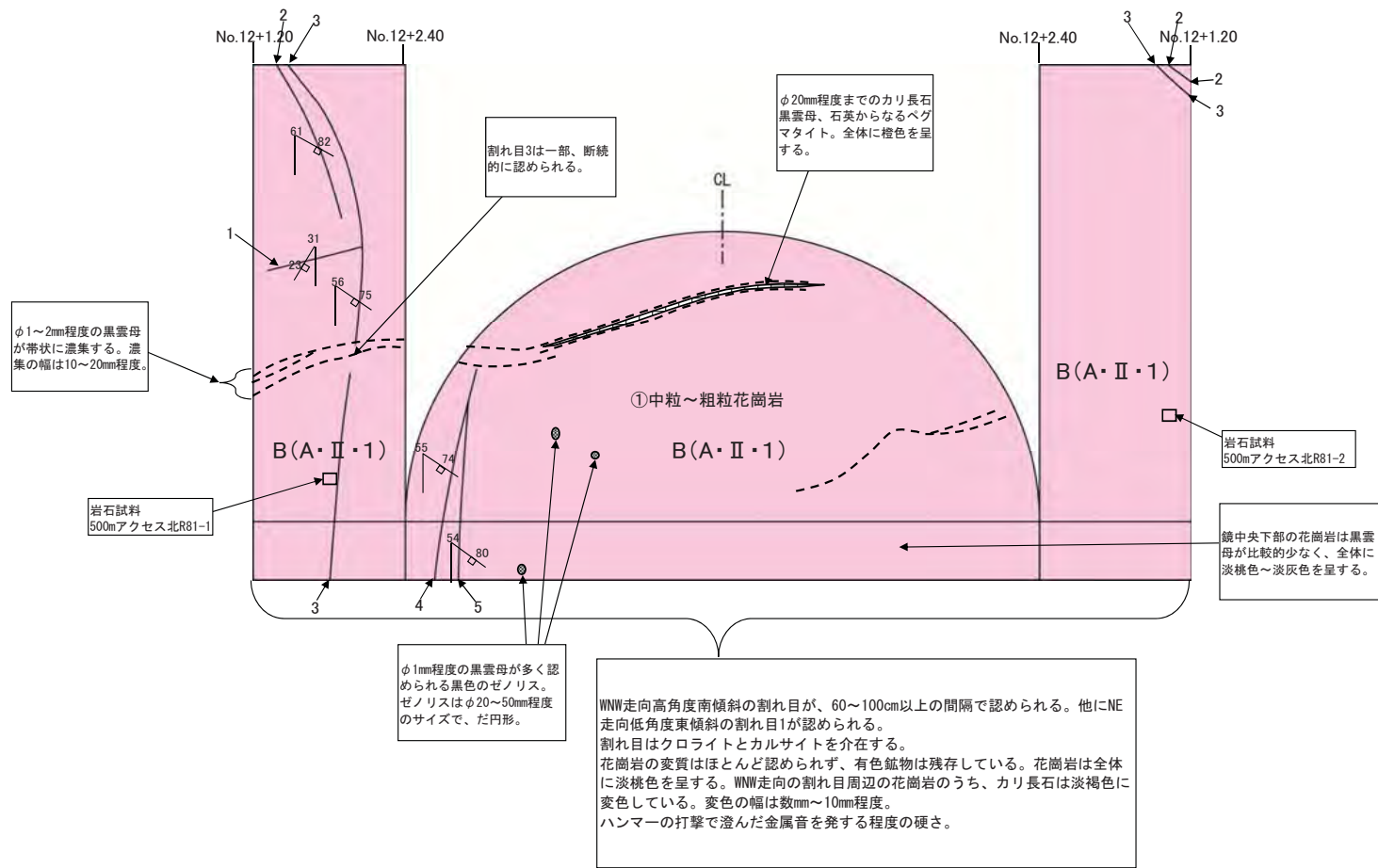
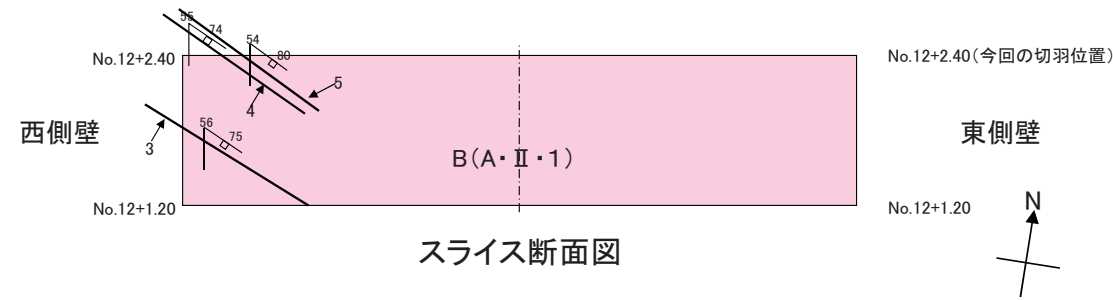
A5-請負-計測工(地質)-130716

シート番号	500mアクセス北坑道81	日時	2013/7/16 15:30~17:00	位置・深度	500mアクセス北坑道81 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	70° 割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集	ペグマタイト
----	-----	-----	--------------	--------	----	--------	--------



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	B B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡褐色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	90 90
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R81-1 (花崗岩), 500mアクセス北R81-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	無し			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9° W方向である。横坑観察は切羽から1.2m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。鏡中央から上部には、φ20mm程度までの石英、カリ長石、斜長石、黒雲母からなるペグマタイトが認められた。
花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。WNW走向の割れ目周辺の花崗岩は、カリ長石が淡褐色に変色している。割れ目の走向傾斜は、WNW走向高角度南傾斜が主体で、他に、NE走向低角度東傾斜が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライトが認められる。
湧水は認められなかった。
岩級区分は、割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

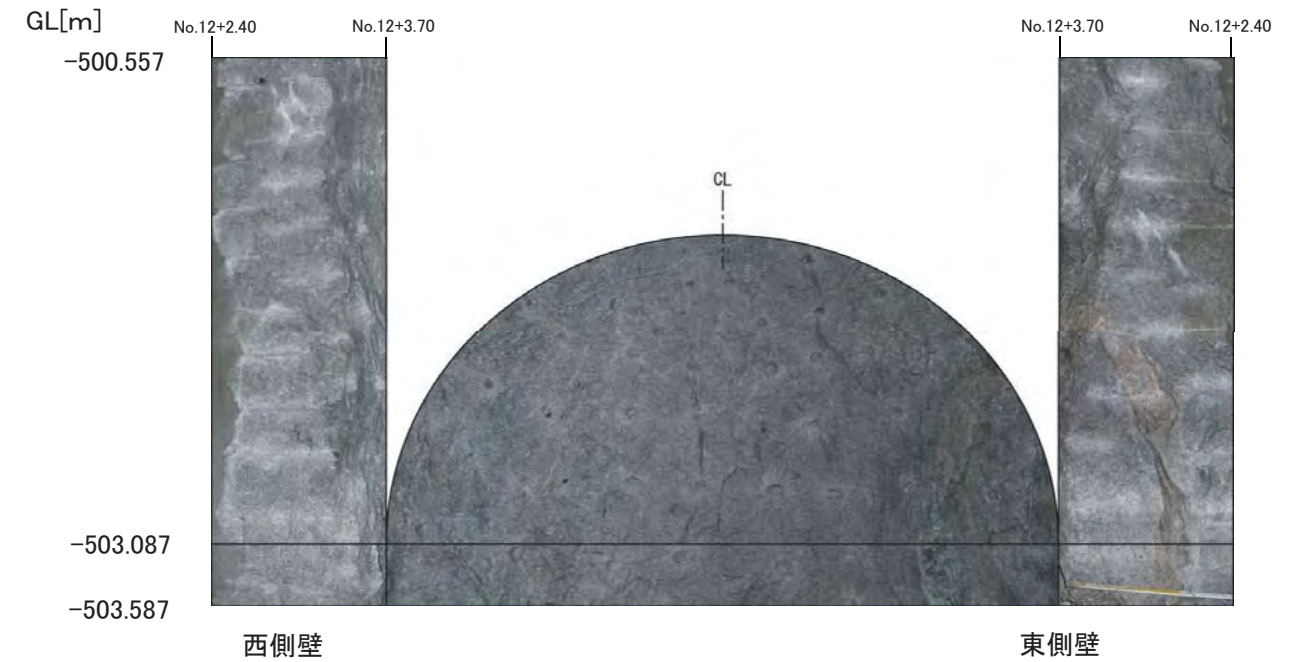
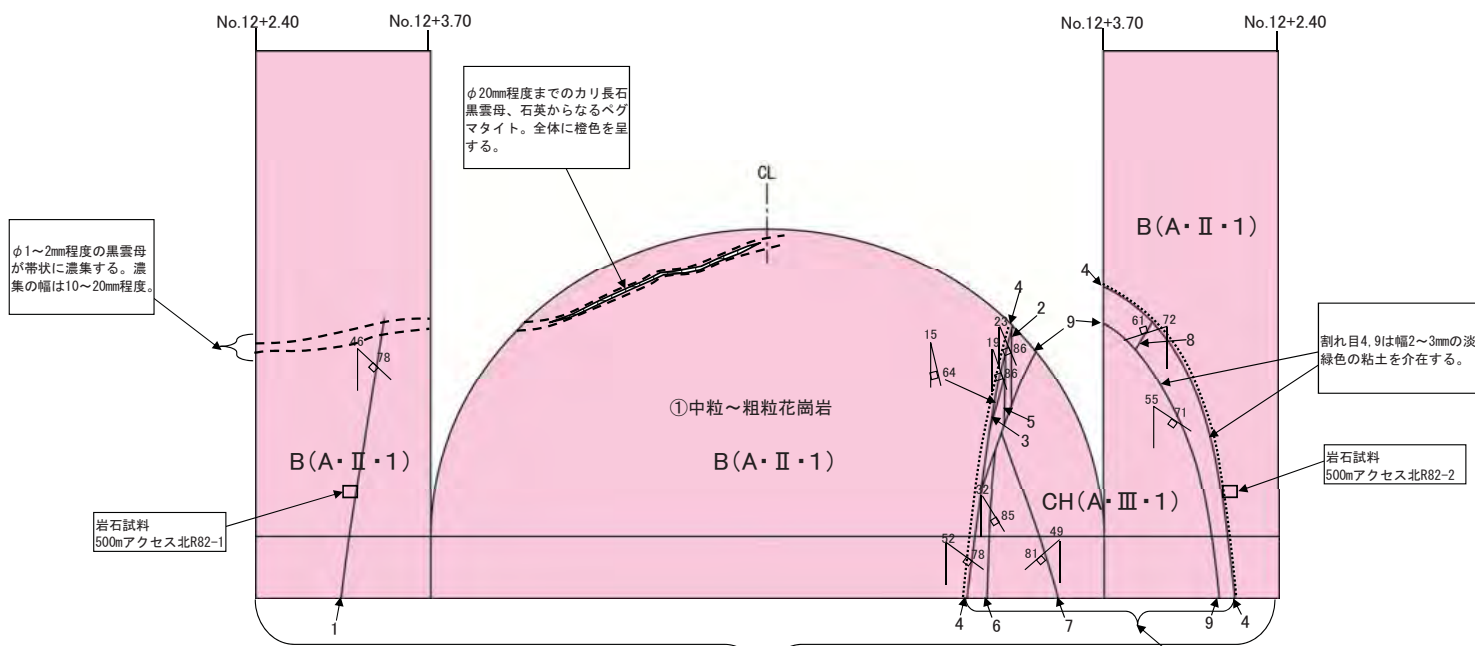
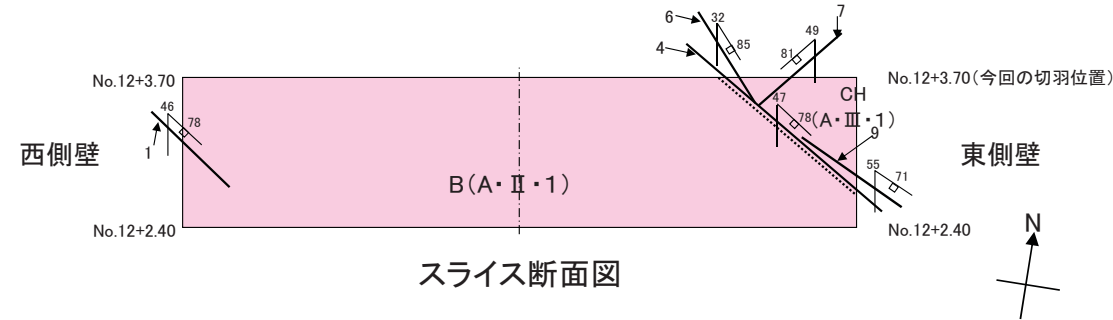
A5-請負-計測工(地質)-130717

シート番号	500mアクセス北坑道82	日時	2013/7/17 17:00~18:30	位置・深度	500mアクセス北坑道82 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 ベグマタイト



WNW走向高角度南傾斜の割れ目が、60~100cm以上の間隔で認められる。このWNW走向の割れ目間で止まる割れ目として、NW走向高角度西傾斜の割れ目2, 3, 5, 6や、NE走向高角度北傾斜の割れ目8が認められる。割れ目はクロライトとカルサイトを介在する。花崗岩の変質はほとんど認められず、有色鉱物は概ね残存しているが、WNW走向の割れ目周辺では黒雲母の一部がクロライトに置き換わり、花崗岩は橙色を呈する。橙色を呈する花崗岩の幅は数mm~100mm程度。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

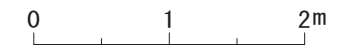
スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	B/CH B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	85 85
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R82-1 (花崗岩), 500mアクセス北R82-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	無し			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.3m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。鏡左側上部から鏡中央上部には、φ20mm程度までの石英、カリ長石、斜長石、黒雲母からなるベグマタイトが認められた。花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目4と9の周辺の花崗岩には弱い変質が認められ、黒雲母の一部はクロライトに置き換わり、花崗岩は橙色を呈する。割れ目の走向傾斜は、WNW走向高角度南傾斜が主体で、他に、NW走向高角度西傾斜や、NE走向高角度北傾斜が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土が認められる。湧水は認められなかった。岩級区分は、割れ目4の南西側は、割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A-II-1)級と評価した。割れ目4から北東側は、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(A-III-1)級と評価した。



A工区地質記載シート

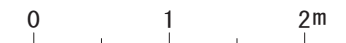
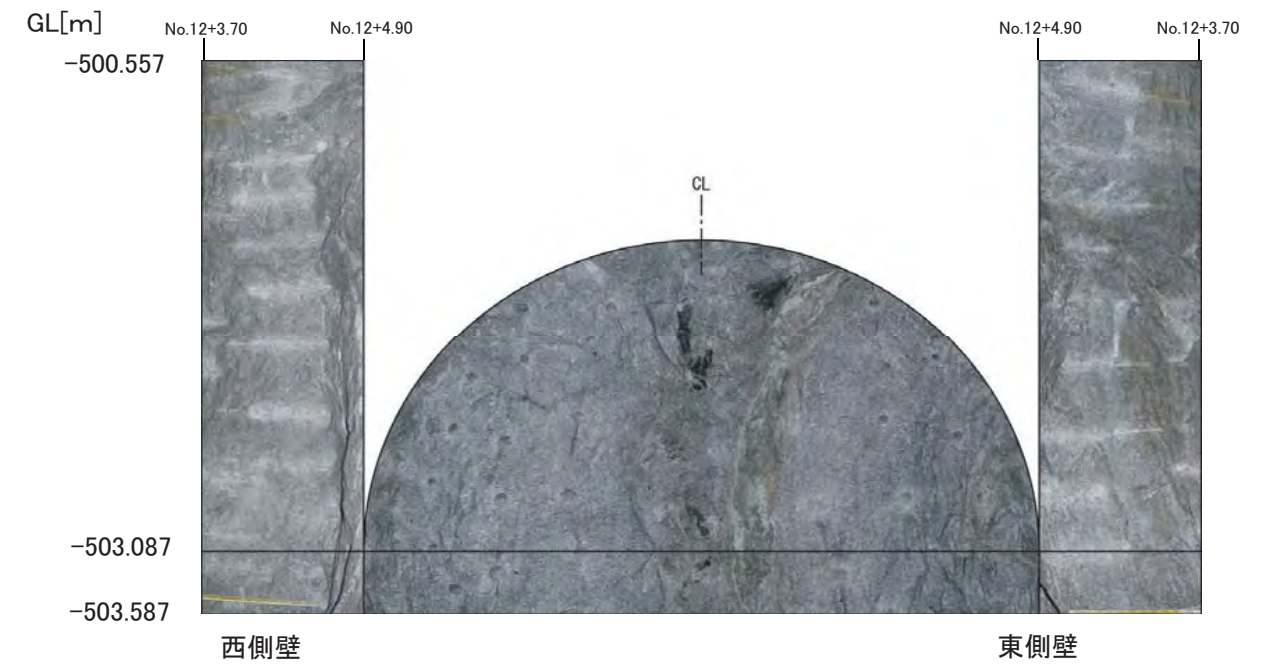
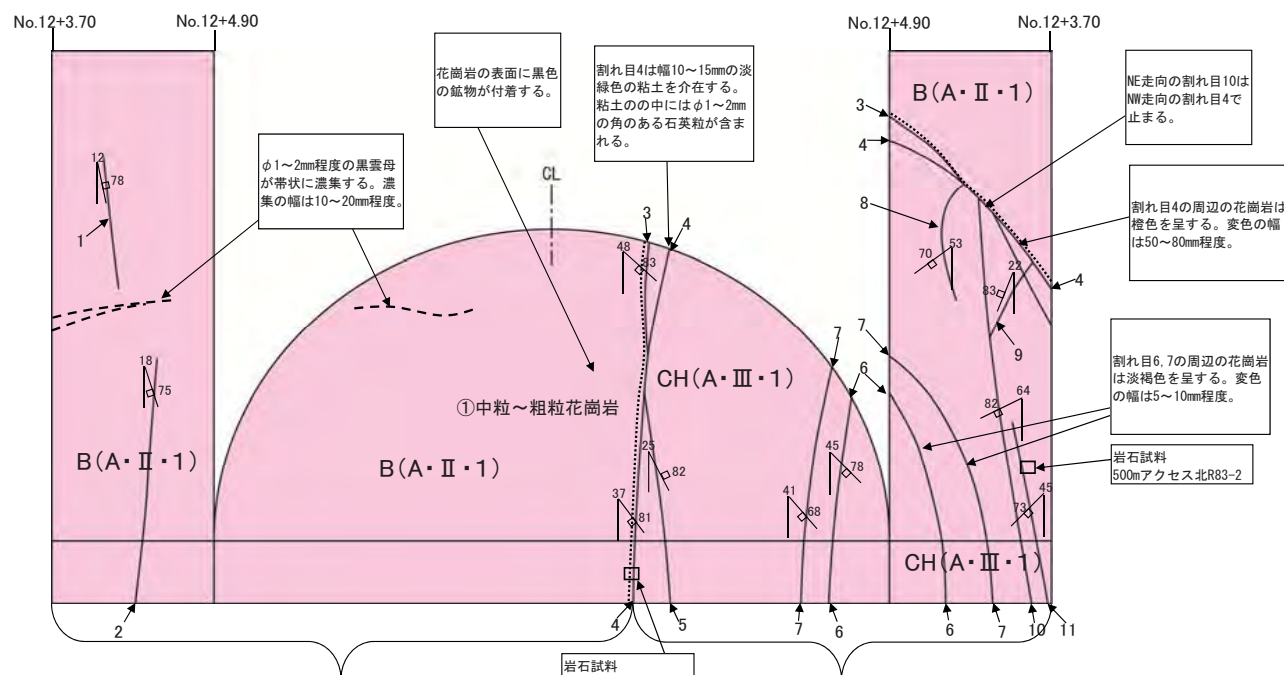
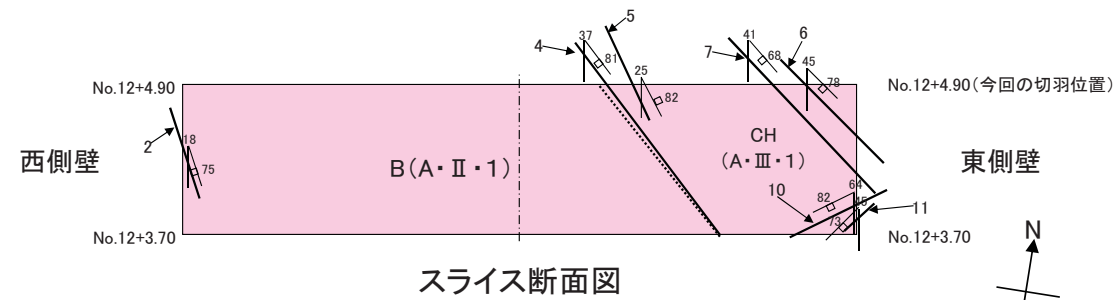
A5-請負-計測工(地質)-130719

シート番号	500mアクセス北坑道83	日時	2013/7/19 11:00~12:30	位置・深度	500mアクセス北坑道83 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集
----	-----	-----	----------	--------	----	--------



花崗岩の表面に黒色の鉱物が付着する。

割れ目4は幅10~15mmの淡緑色の粘土を介在する。粘土の中にはφ1~2mmの角のある石英粒が含まれる。

φ1~2mm程度の黒雲母が帯状に濃集する。濃集の幅は10~20mm程度。

NE走向の割れ目10はNW走向の割れ目4で止まる。

割れ目4の周辺の花崗岩は橙色を呈する。変色の幅は50~80mm程度。

割れ目6, 7の周辺の花崗岩は淡褐色を呈する。変色の幅は5~10mm程度。

NW走向高角度東傾斜と西傾斜の割れ目が、60~100cm以上の間隔で認められる。花崗岩の変質はほとんど認められず、有色鉱物は残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度南傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。このNW走向の割れ目間で止まる割れ目として、NW走向高角度東傾斜の割れ目5や、NE走向高角度東~南傾斜の割れ目8, 10, 11、NE走向高角度西傾斜の割れ目9が認められる。割れ目はクロライトとカルサイト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質はほとんど認められず、有色鉱物は概ね残存しているが、NW走向高角度南傾斜の割れ目周辺では黒雲母の一部がクロライトに置き換わり、花崗岩は橙色を呈する。橙色を呈する花崗岩の幅は最大100mm程度。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	B/CH B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、淡褐色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	80 80
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R83-1 (花崗岩), 500mアクセス北R83-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	無し			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.2m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目3~4の周辺の花崗岩には弱い変質が認められ、黒雲母の一部はクロライトに置き換わり、花崗岩は橙色を呈する。
割れ目の走向傾斜は、NW走向高角度南傾斜が主体で、他にNW走向高角度東傾斜と西傾斜、NE走向高角度東~南傾斜、NE走向高角度西傾斜が認められる

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土が認められる。湧水は認められなかった。
岩級区分は、割れ目4の南西側は、割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B (A・II・1) 級と評価した。割れ目4から北東側は、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH (A・III・1) 級と評価した。

A工区地質記載シート

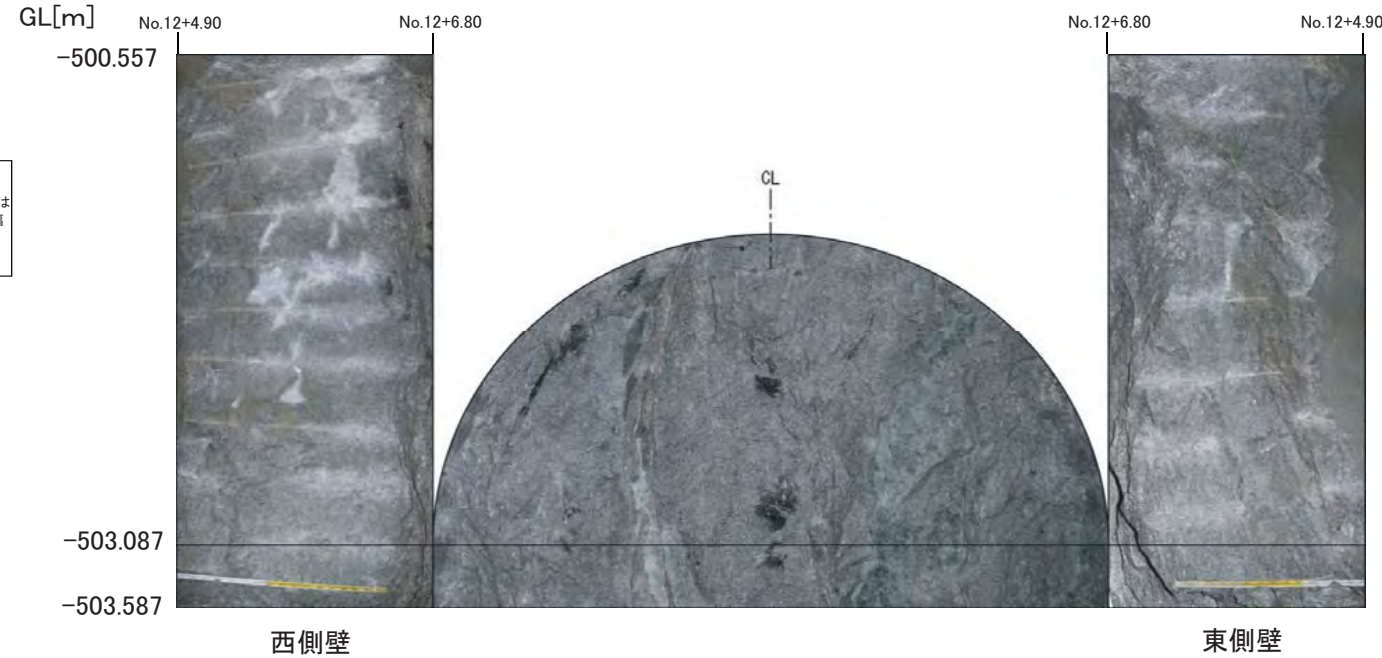
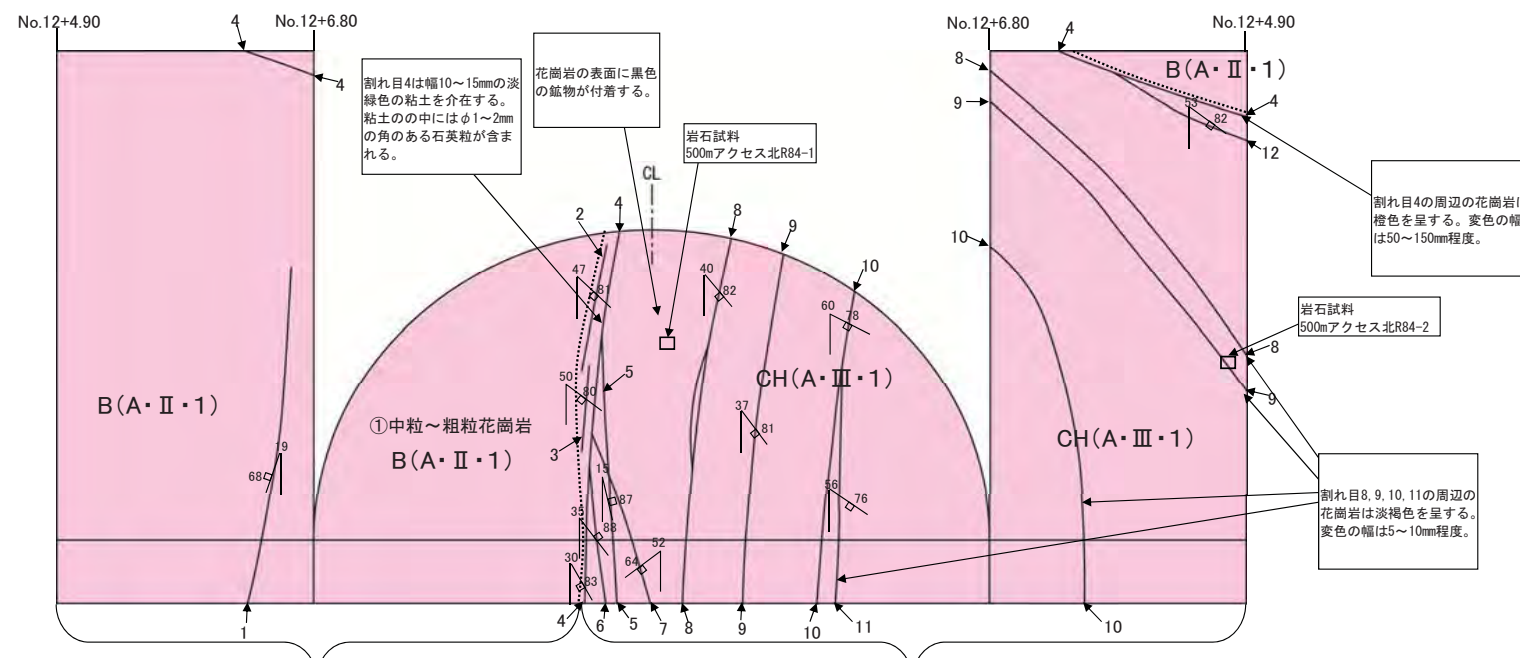
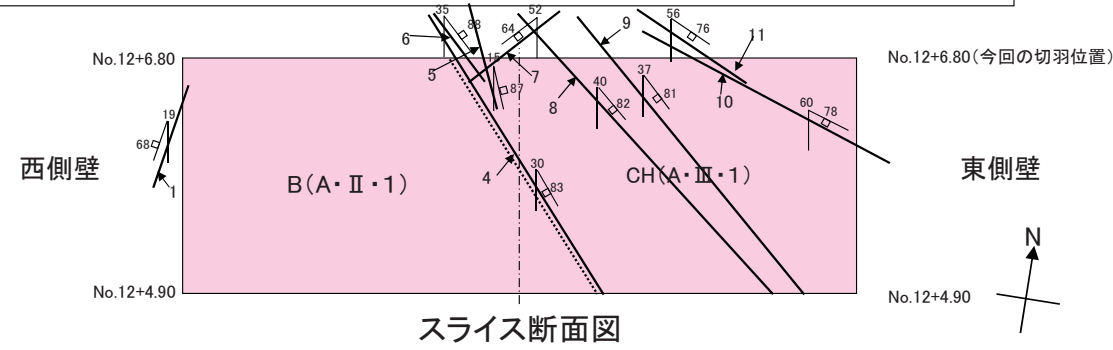
A5-請負-計測工(地質)-130722

シート番号	500mアクセス北坑道84	日時	2013/7/22 17:00~18:30	位置・深度	500mアクセス北坑道84 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

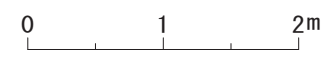
凡例 花崗岩 割れ目 70 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集



NE走向高角度西傾斜の割れ目1が認められる。花崗岩の変質はほとんど認められず、有色鉱物は残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度南~西傾斜の割れ目が20~60cm程度の間隔で認められる。このNW走向の割れ目間で止まる割れ目として、NW走向高角度東傾斜の割れ目5, 6や、NE走向高角度東傾斜の割れ目7が認められる。割れ目はクロライトとカルサイト、淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質はほとんど認められず、有色鉱物は概ね残存しているが、NW走向高角度南傾斜の割れ目周辺では黒雲母の一部がクロライトに置き換わり、花崗岩は橙色または淡褐色を呈する。変色の幅は最大150mm程度。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

スケッチ



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	B/CH B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、淡褐色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	75 75
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R84-1(花崗岩), 500mアクセス北R84-2(花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	無し			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.9m離れた場所より目視観察を実施した。湧水は認められなかった。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。また、主にNW走向の割れ目周辺の花崗岩には弱い変質が認められ、黒雲母の一部はクロライトに置き換わり、花崗岩は橙色または淡褐色を呈する。割れ目の走向傾斜は、NW走向高角度南~西傾斜が主体で、他にNW走向高角度東傾斜や、NE走向高角度東傾斜が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土が認められる。湧水は認められなかった。岩級区分は、割れ目4の南西側は、割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。割れ目4から北東側は、割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(A・III・1)級と評価した。

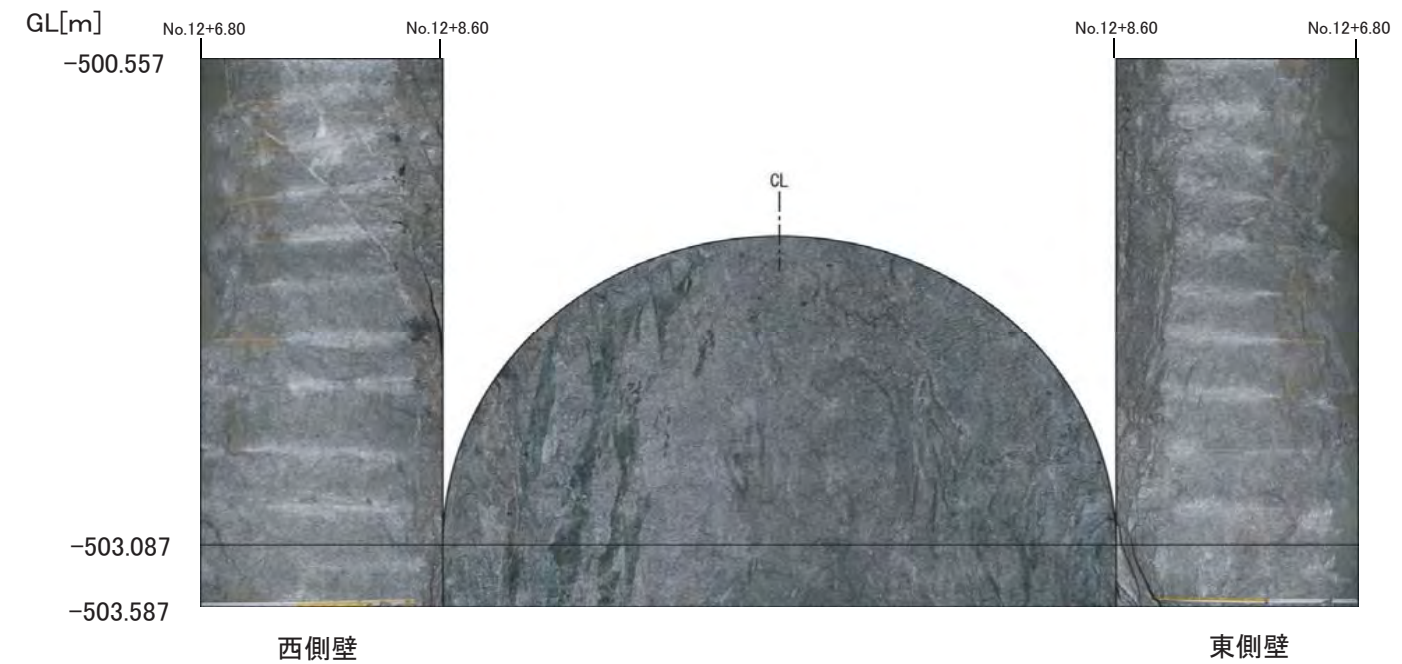
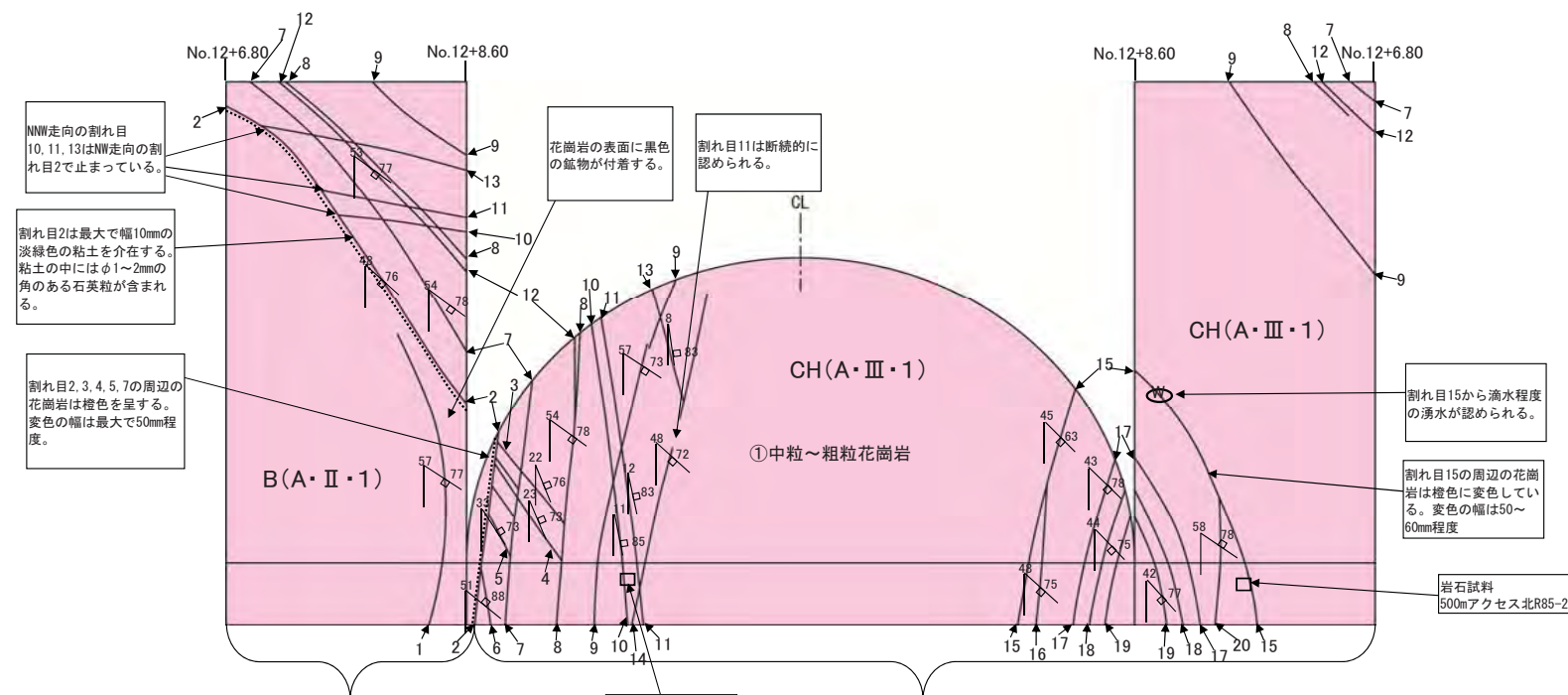
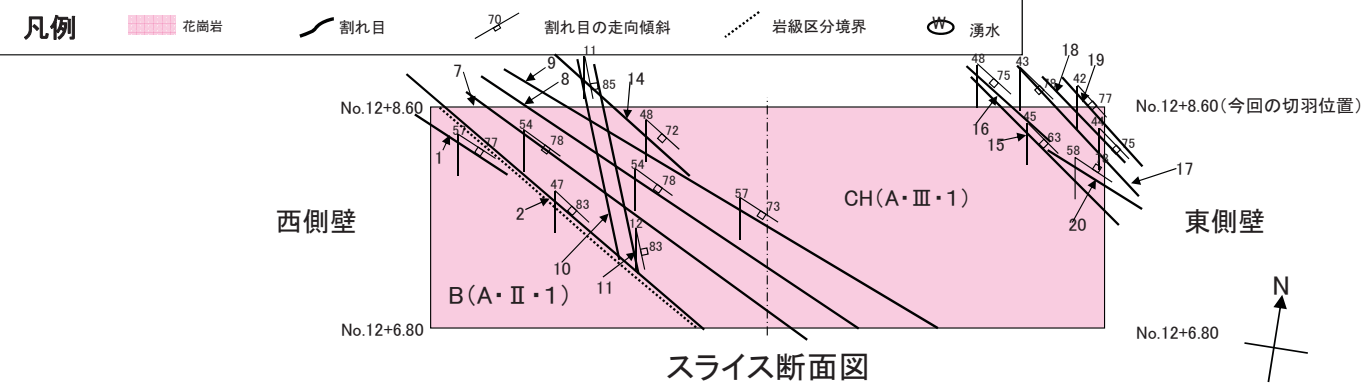
A工区地質記載シート

A5-請負-計測工(地質)-130724

シート番号	500mアクセス北坑道85	日時	2013/7/24 10:00~11:30	位置・深度	500mアクセス北坑道85 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人



スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	B/CH B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、淡褐色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	64 75
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R85-1 (花崗岩), 500mアクセス北R85-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.8m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。
花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。また、割れ目周辺の花崗岩には弱い変質が認められ、黒雲母の一部はクロライトに置き換わり、花崗岩は橙色または淡褐色を呈する。
割れ目の走向傾斜は、NW走向高角度南傾斜が主体で、他に、NNW走向高角度東傾斜や、NW走向高角度北傾斜、WNW走向高角度南傾斜が認められる。
割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土が認められる。
湧水は東側壁の割れ目15から滴水程度で認められた。
岩級区分は、割れ目2から南西側は、割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。割れ目2から北東側は、割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(A・III・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

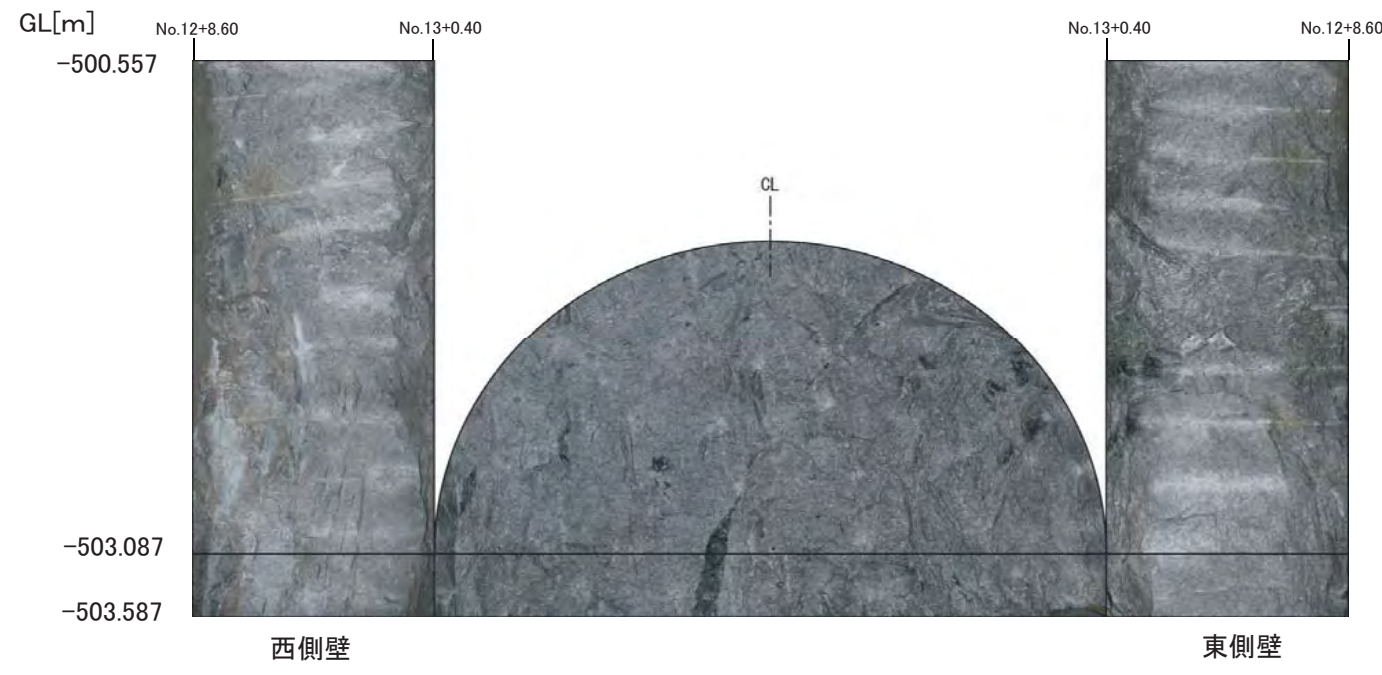
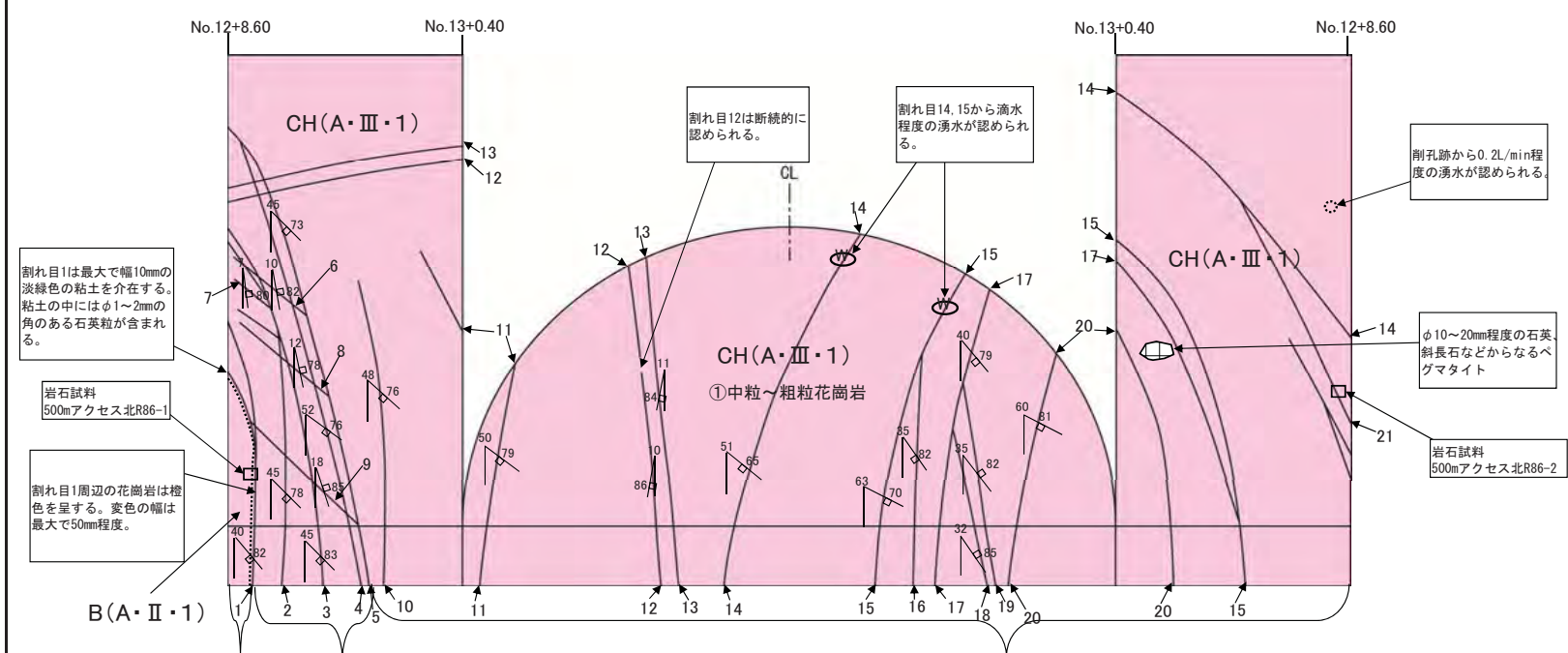
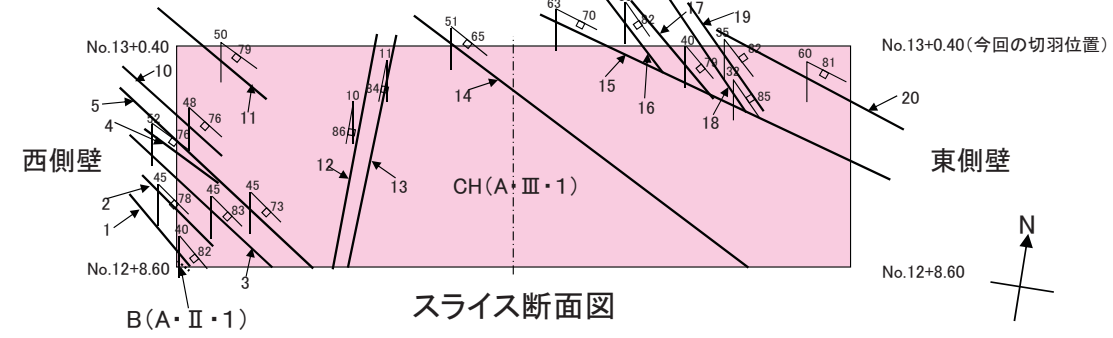
A5-請負-計測工(地質)-130725

シート番号	500mアクセス北坑道86	日時	2013/7/25 14:30~16:00	位置・深度	500mアクセス北坑道86 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 70 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 ベグマタイト



割れ目1は最大で幅10mmの淡緑色の粘土を介在する。粘土の中にはφ1~2mmの角のある石英粒が含まれる。

岩石試料 500mアクセス北R86-1

割れ目1周辺の花崗岩は橙色を呈する。変色の幅は最大で50mm程度。

花崗岩の変質はほとんど認められず、有色鉱物は残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度南傾斜の割れ目とNNW走向高角度東傾斜の割れ目が、20~60cm程度の間隔で認められる。NNW走向高角度東傾斜の割れ目は、NW走向高角度南傾斜の割れ目で止まる。割れ目はクロライトとカルサイト、淡緑色の粘土を介在する。割れ目周辺の花崗岩は橙色に変色している。変色の幅は最大50mm程度。岩はハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NW走向高角度西~南傾斜の割れ目が、20~60cm程度の間隔で認められる。他に、NNE走向高角度東傾斜の割れ目12, 13とNW走向高角度東傾斜の割れ目が認められる。割れ目はクロライト、カルサイト、淡緑色の粘土、黄鉄鉱を介在する。花崗岩の変質はほとんど認められず、有色鉱物は概ね残存しているが、割れ目周辺ではカリ長石が淡褐色に変色している。変色の幅は最大5mm程度。岩はハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m CH G.L. -502.807m~-503.587m B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、淡褐色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m 64 G.L. -502.807m~-503.587m 70
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R86-1 (花崗岩), 500mアクセス北R86-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.8m離れた場所より目視観察を実施した。

湧水は鏡中央上部の割れ目14と鏡右側上部の割れ目15から滴水程度で認められた。また、東側壁の削孔跡からは0.2L/min程度の湧水が認められた。

岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。また、割れ目周辺の花崗岩には弱い変質が認められ、黒雲母の一部はクロライトに置き換わり、割れ目周辺では花崗岩は橙色または淡褐色を呈する。割れ目の走向傾斜は、NW走向高角度南傾斜が主体で、他に、NNW走向高角度東傾斜、NNE走向高角度東傾斜やNW走向高角度東傾斜が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土、黄鉄鉱が認められる。湧水は鏡中央上部の割れ目14と鏡右側上部の割れ目15から滴水程度で認められた。また、東側壁の削孔跡からは0.2L/min程度の湧水が認められた。

岩級区分は、割れ目1から南西側は、割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・Ⅱ・1)級と評価した。割れ目1から北東側は、割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(A・Ⅲ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

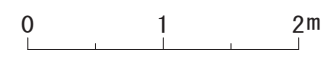
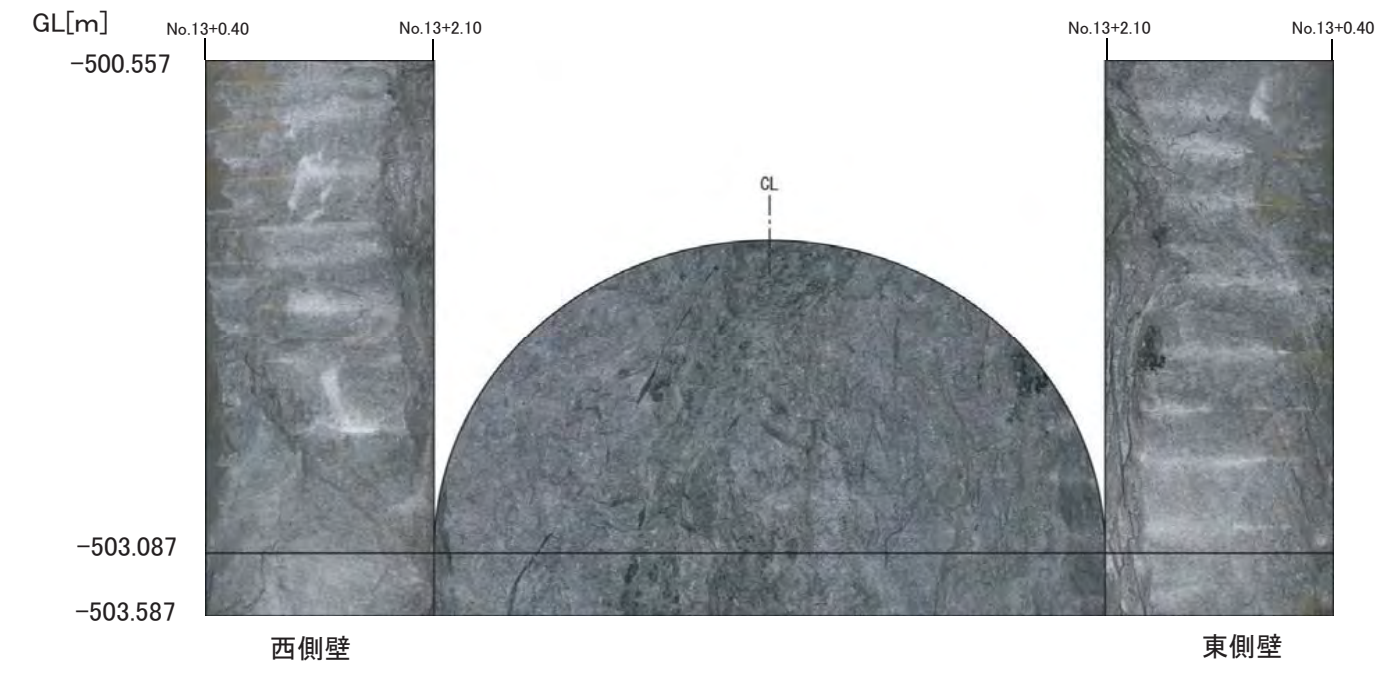
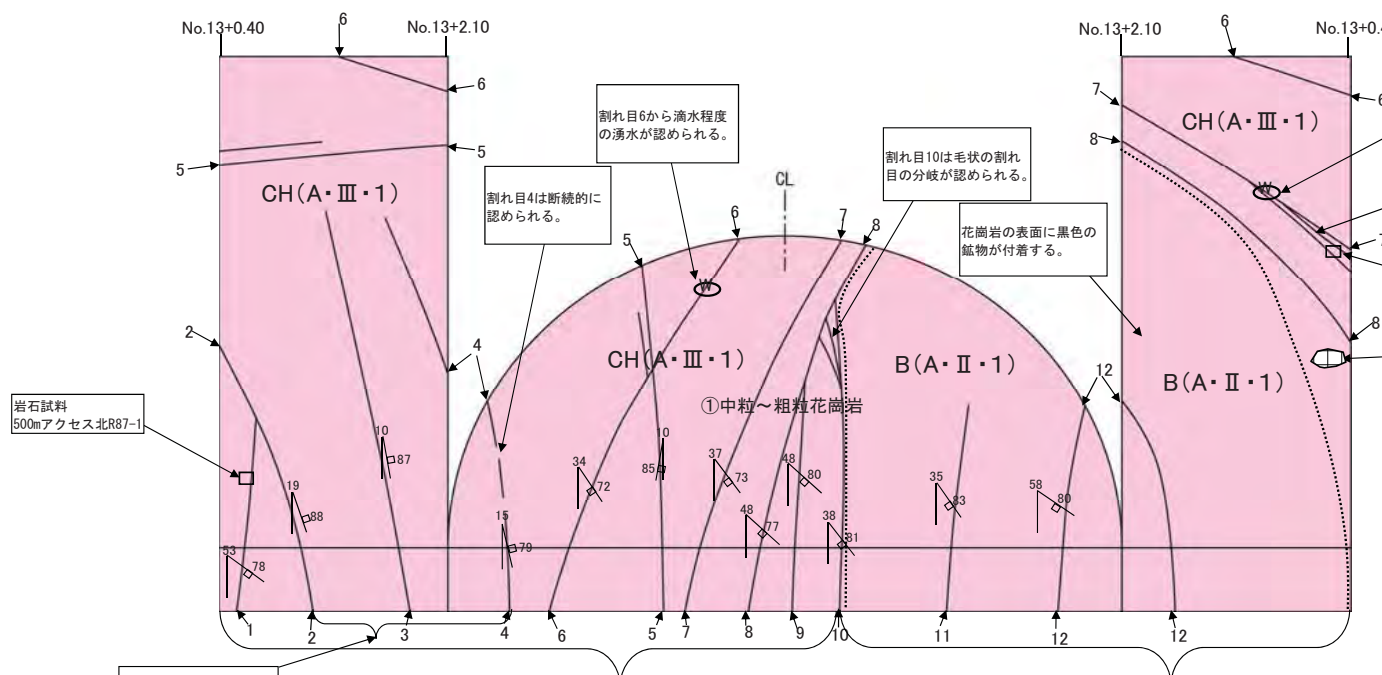
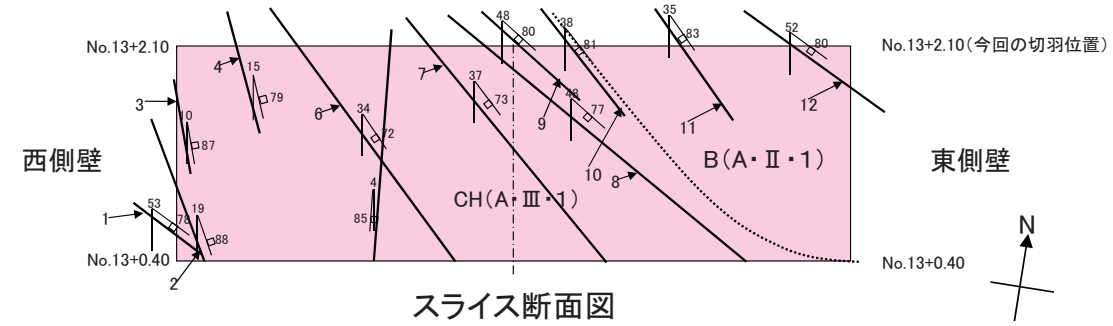
A5-請負-計測工(地質)-130726

シート番号	500mアクセス北坑道87	日時	2013/7/26 17:00~18:30	位置・深度	500mアクセス北坑道87 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 79 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 ベグマタイト



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	B/CH B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、淡褐色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	60 70
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R87-1 (花崗岩), 500mアクセス北R87-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	0.2L/min			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.7m離れた場所より目視観察を実施した。
 岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。また、割れ目周辺の花崗岩には、カリ長石が橙色または淡褐色を呈する箇所が認められる。
 割れ目の走向傾斜は、NW~WNW走向高角度南~西傾斜とNNW走向高角度東傾斜が主体である。

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土が認められる。湧水は東側壁上部の割れ目7から0.2L/min程度、鏡中央上部の割れ目6から滴水程度の湧水が認められた。
 岩級区分は、割れ目10付近から北東側は、割れ目間隔が60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・Ⅱ・1)級と評価した。割れ目10付近から南西側は、割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(A・Ⅲ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

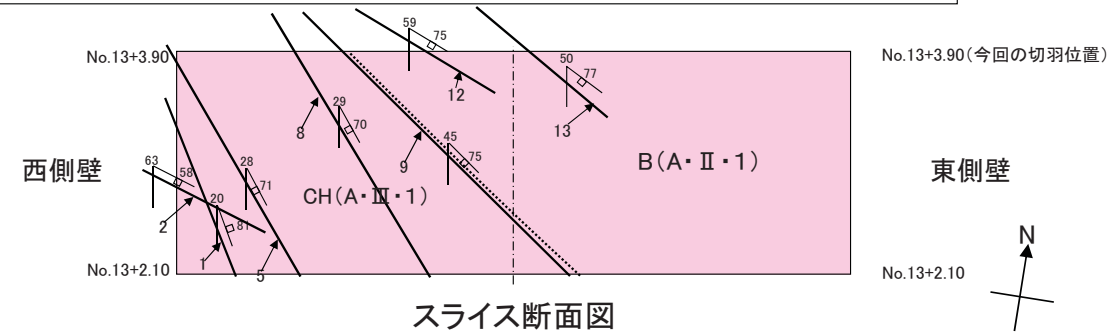
A5-請負-計測工(地質)-130729

シート番号	500mアクセス北坑道88	日時	2013/7/29 10:30~12:00	位置・深度	500mアクセス北坑道88 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

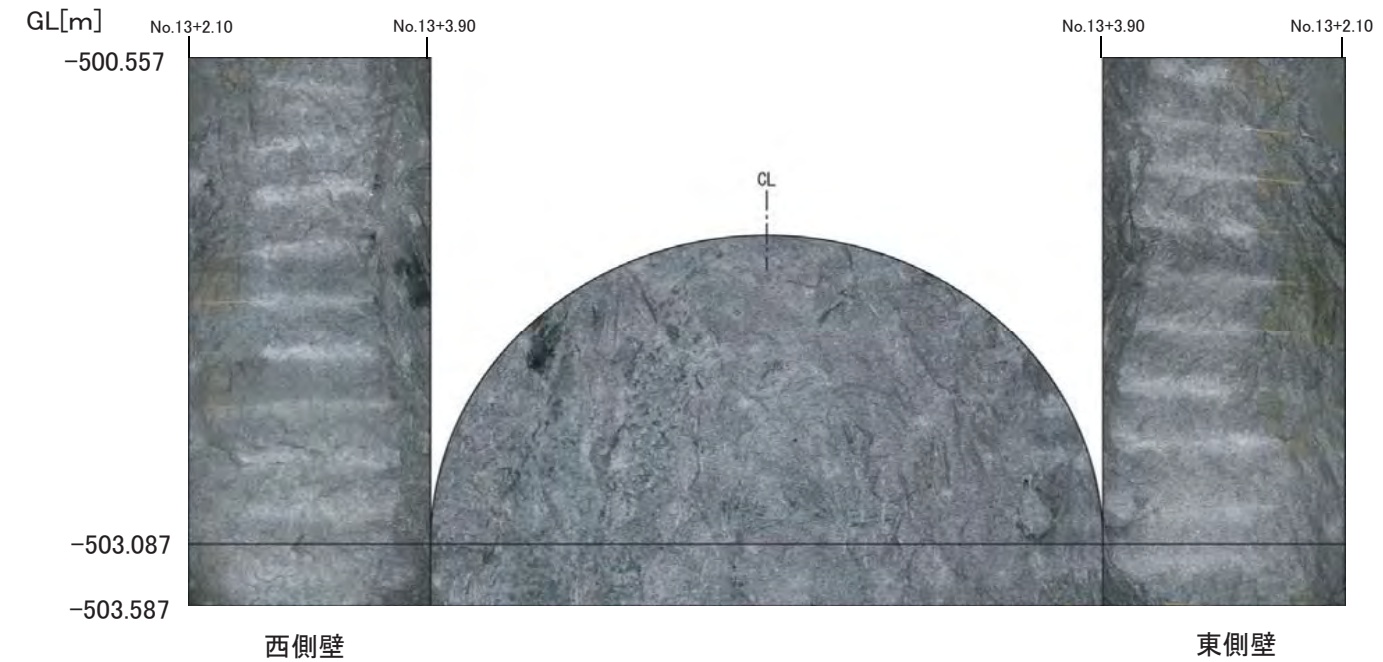
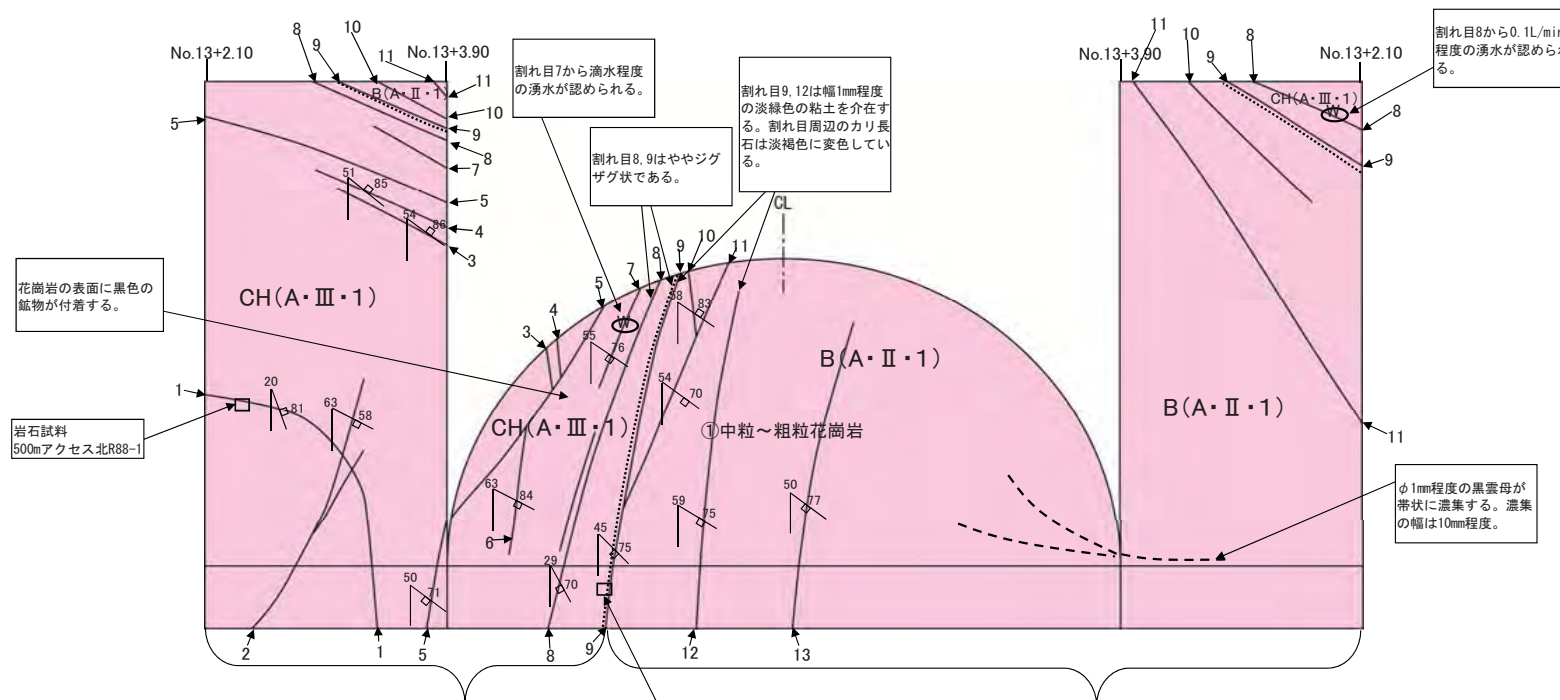
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

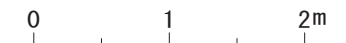
凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集



スライス断面図



可視画像



スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m B/CH G.L. -502.807m~-503.587m B/CH	特記事項 当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.8m離れた場所より目視観察を実施した。 岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物は概ね残存しているが、割れ目周辺ではカリ長石が淡褐色に変色している。変色の幅は最大10mm程度。 岩はハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。 割れ目の走向傾斜は、NW~WNW走向高角度南~西傾斜が主体で、他に、NNW走向高角度東傾斜や、WNW走向高角度北傾斜が認められる。 湧水は東側壁上部の割れ目8から0.1L/min程度、鏡左側上部の割れ目7から滴水程度の湧水が認められた。 岩級区分は、割れ目9付近から北東側は、割れ目間隔が60~100cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A-II-1)級と評価した。割れ目9付近から南西側は、割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(A-III-1)級と評価した。
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(淡桃色、橙色、淡褐色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m 65 G.L. -502.807m~-503.587m 75	
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R88-1(花崗岩), 500mアクセス北R88-2(花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	0.1L/min			

A工区地質記載シート

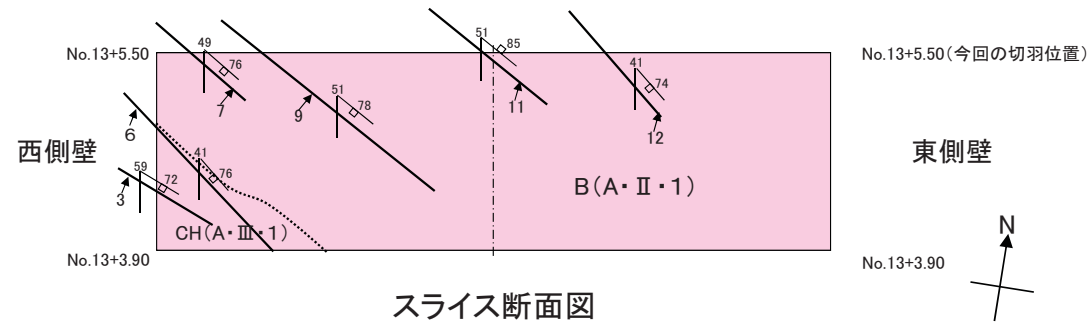
A5-請負-計測工(地質)-130730

シート番号	500mアクセス北坑道89	日時	2013/7/30 15:00~16:30	位置・深度	500mアクセス北坑道89 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

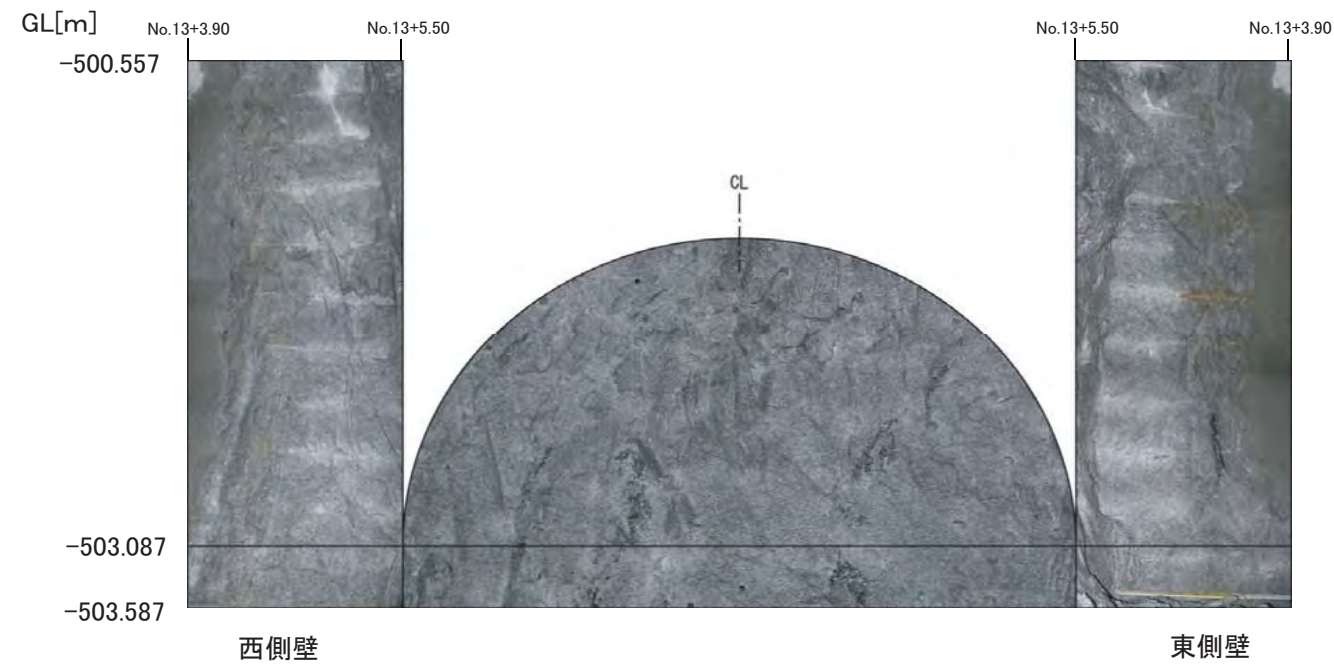
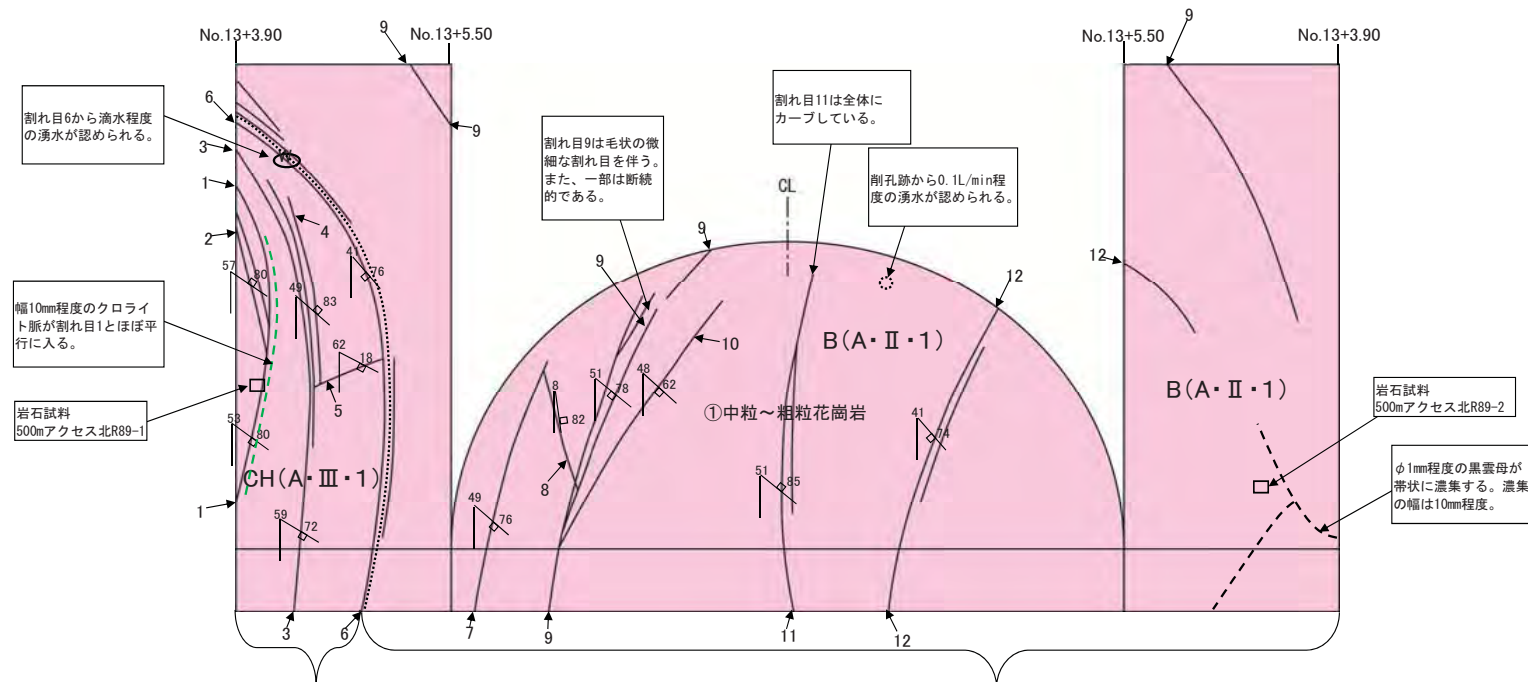
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 70 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 クロライト脈



スライス断面図



可視画像

WNW走向高角度南傾斜と北傾斜の割れ目が20~60cm程度の間隔で認められる。他に、WNW走向低角度南傾斜の割れ目5が認められる。
割れ目はクロライトとカルサイトを介する。
花崗岩には変質は殆ど認められないが、割れ目周辺ではカリ長石が淡褐色に変色している箇所が認められる。
岩はハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

WNW走向高角度南傾斜の割れ目が60~100cm程度の間隔で認められる。他に、NNW走向高角度東傾斜の割れ目8、WNW走向高角度北傾斜の割れ目11が認められる。
割れ目はクロライト、カルサイト、淡緑色の粘土を介する。
花崗岩の変質はほとんど認められず、有色鉱物は概ね残存しているが、割れ目周辺ではカリ長石が淡褐色に変色している箇所が認められる。変色の幅は最大10mm程度。
岩はハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

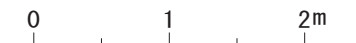
スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	B/CH B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡褐色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	69 75
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R89-1 (花崗岩), 500mアクセス北R89-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9° W方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。
花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。また、割れ目周辺の花崗岩には、カリ長石が淡褐色に変色する箇所が認められる。
割れ目の走向傾斜は、WNW走向高角度南傾斜と北傾斜が主体で、他に、WNW走向低角度南傾斜、NNW走向高角度東傾斜、WNW走向高角度北傾斜が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライト、淡緑色の粘土が認められる。
湧水は西側壁上部の割れ目3から滴水程度の湧水が認められた。また、鏡中央上部の削孔跡からは0.1L/min程度の湧水が認められた。
岩級区分は、割れ目6付近から北東側は、割れ目間隔が60~100cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。割れ目6付近から南西側は、割れ目間隔が20~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(A・III・1)級と評価した。



A工区地質記載シート

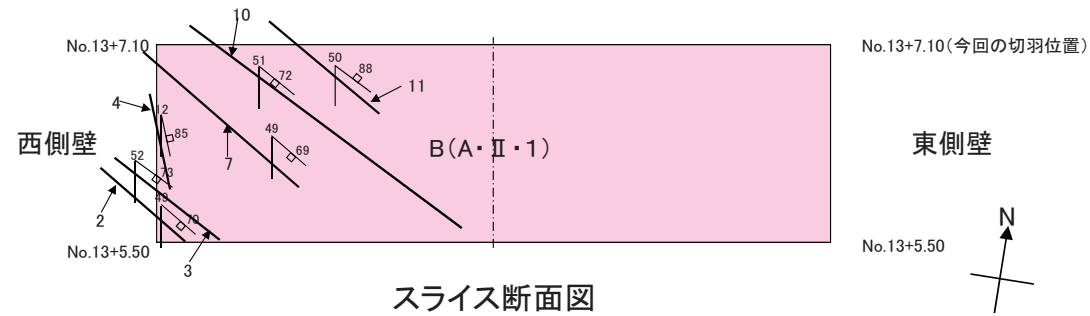
A5-請負-計測工(地質)-130801

シート番号	500mアクセス北坑道90	日時	2013/8/1 15:00~16:30	位置・深度	500mアクセス北坑道90 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

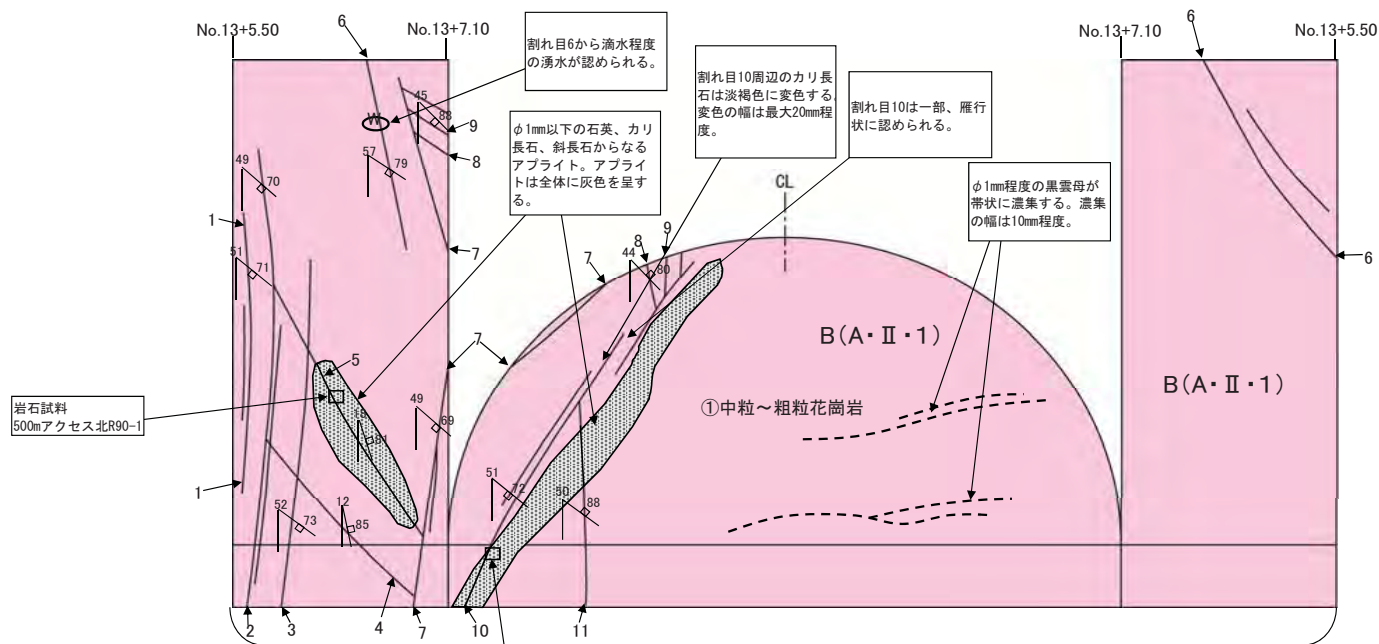
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 70° 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 アプライト脈

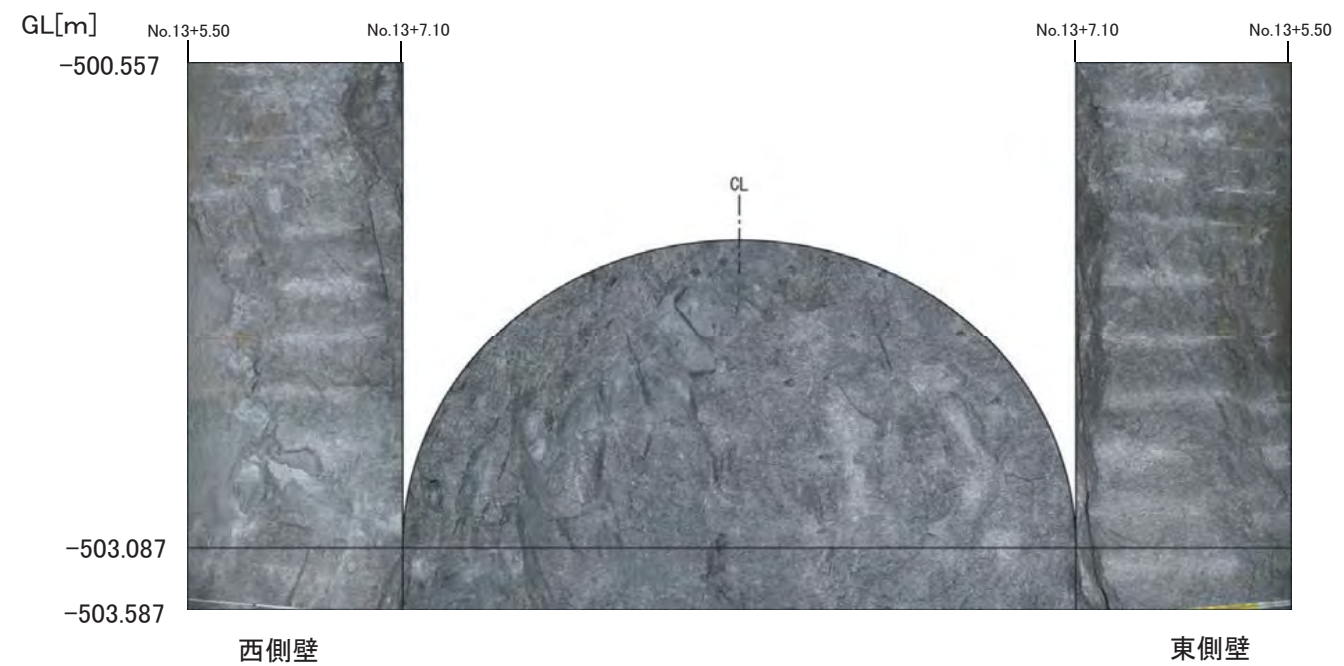


スライス断面図

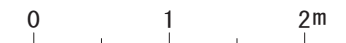


WNW走向高角度南傾斜の割れ目が60~100cm程度の間隔で認められる。他に、NNW走向高角度東傾斜の割れ目4,5や、NW走向高角度北傾斜の割れ目8,11が認められる。
割れ目はクロライト、カルサイトを介在する。
花崗岩の変質はほとんど認められず、有色鉱物は概ね残存しているが、割れ目周辺ではカリ長石が淡褐色に変色している箇所が認められる。変色の幅は最大20mm程度。
岩はハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

スケッチ



可視画像



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m B G.L. -502.807m~-503.587m B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡褐色、灰色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m 74 G.L. -502.807m~-503.587m 85
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R90-1(花崗岩), 500mアクセス北R90-2(花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。鏡左側から西側壁にはφ1mm以下の石英、斜長石、カリ長石からなるアプライトが認められる。
花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。また、割れ目周辺の花崗岩には、カリ長石が淡褐色に変色する箇所が認められる。
割れ目の走向傾斜は、WNW走向高角度南傾斜が主体で、他に、NNW走向高角度東傾斜や、NW走向高角度北傾斜が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライトが認められる。
湧水は西側壁上部の割れ目6から滴水程度の湧水が認められた。
岩級区分は、切羽全体が割れ目間隔が60~100cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

A5-請負-計測工(地質)-130802

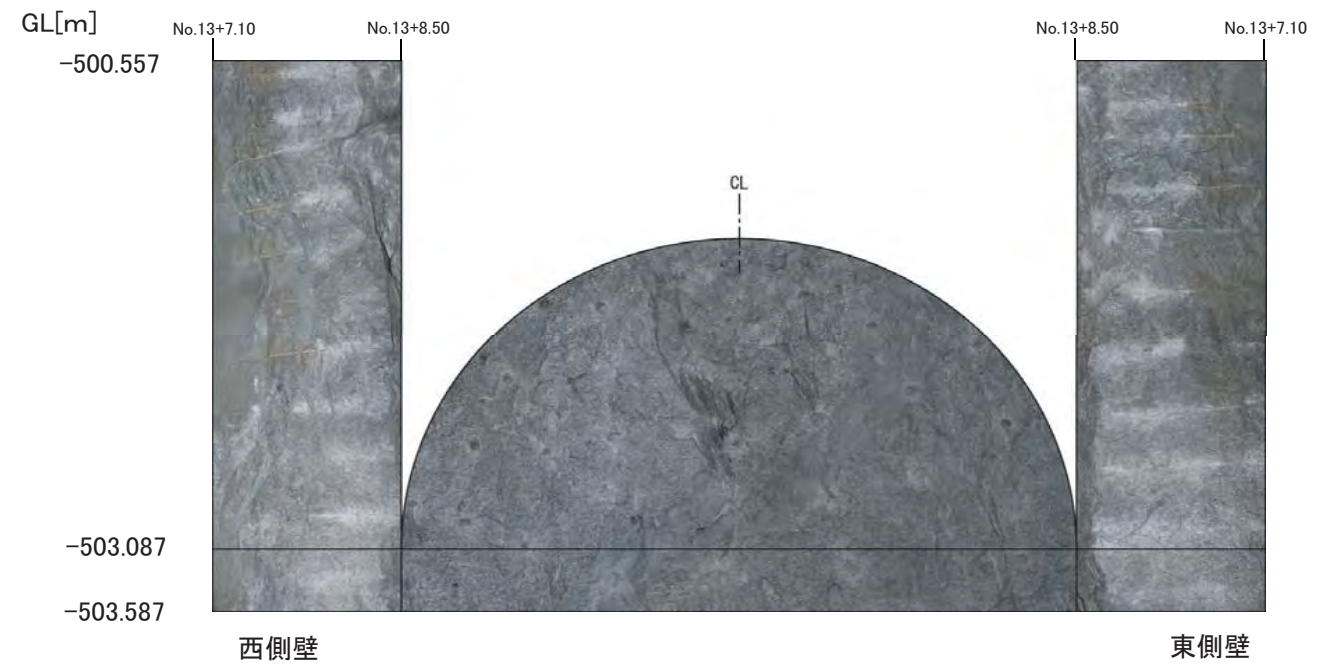
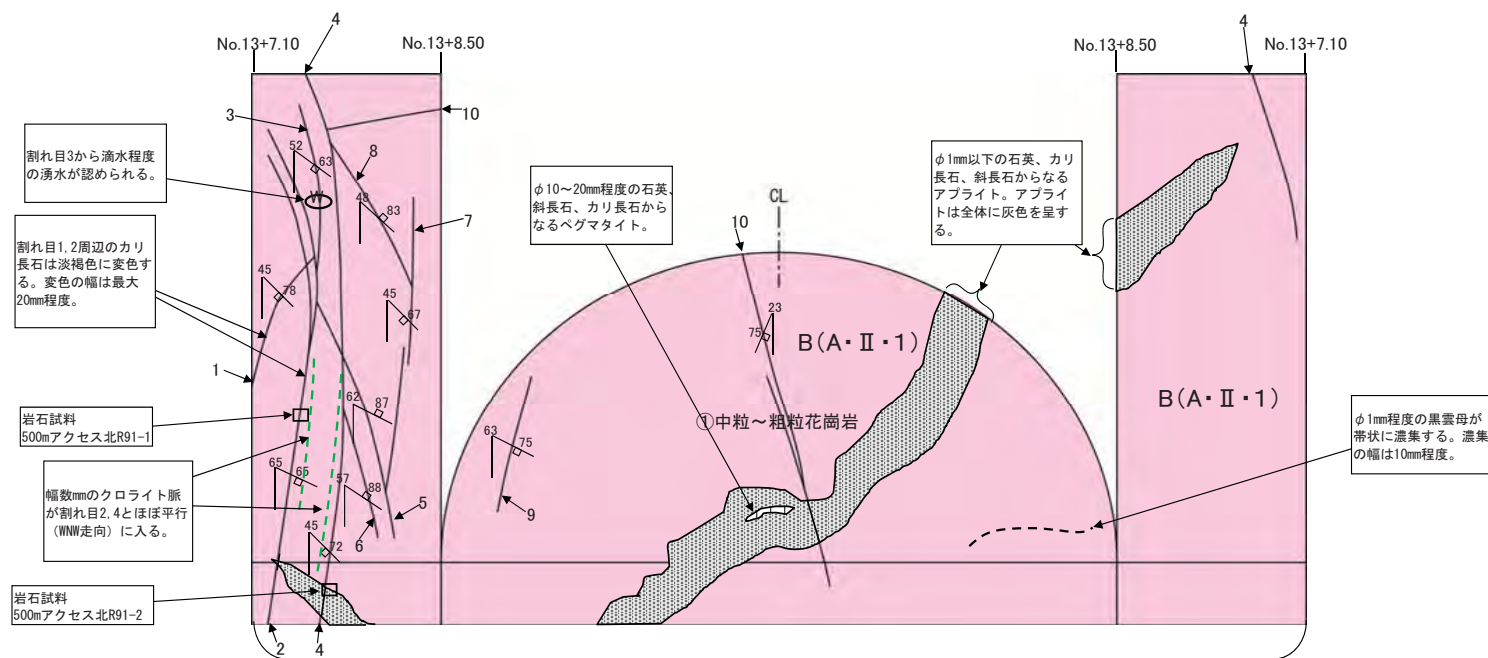
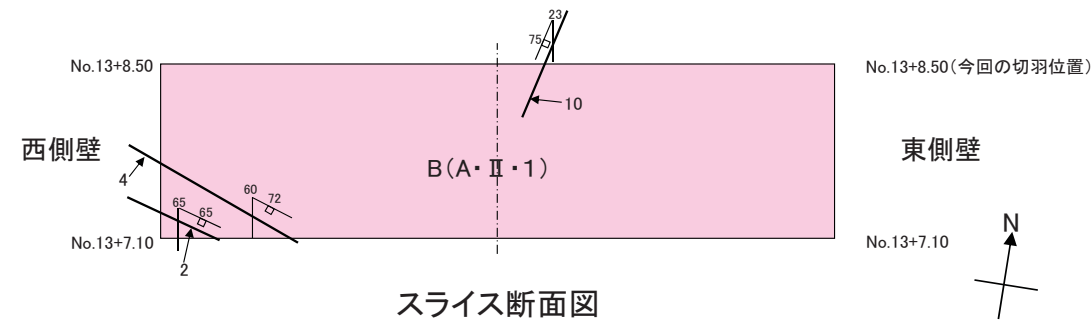
シート番号	500mアクセス北坑道91	日時	2013/8/2 11:30~13:00	位置・深度	500mアクセス北坑道91 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

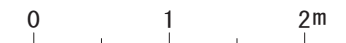
凡例

	花崗岩		割れ目		79	割れ目の走向傾斜		岩級区分境界		湧水		黒雲母の濃集		アブライト脈		ペグマタイト		クロライト脈
--	-----	--	-----	--	----	----------	--	--------	--	----	--	--------	--	--------	--	--------	--	--------



WNW走向高角度南傾斜の割れ目が60~100cm程度の間隔で認められる。他に、WNW走向高角度北傾斜の割れ目5, 6, 8や、NNE走向高角度東傾斜の割れ目10が認められる。
割れ目はクロライト、カルサイトを介在する。
花崗岩の変質はほとんど認められず、有色鉱物は概ね残存しているが、割れ目周辺ではカリ長石が淡褐色に変色している箇所が認められる。変色の幅は最大20mm程度。
岩はハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

スケッチ



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	B B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡褐色、灰色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	74 85
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R91-1 (花崗岩), 500mアクセス北R91-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.4m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。また、切羽にはφ1mm以下の石英、斜長石、カリ長石からなるアブライトが認められる。
花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。また、割れ目周辺の花崗岩には、カリ長石が淡褐色に変色する箇所が認められる。
割れ目の走向傾斜は、WNW走向高角度南傾斜が主体で、他に、WNW走向高角度北傾斜や、NNE走向高角度東傾斜が認められる。

割れ目の介在物は、カルサイトとクロライトが認められる。
湧水は西側壁上部の割れ目3から滴水程度の湧水が認められた。
岩級区分は、切羽全体が割れ目間隔が60~100cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

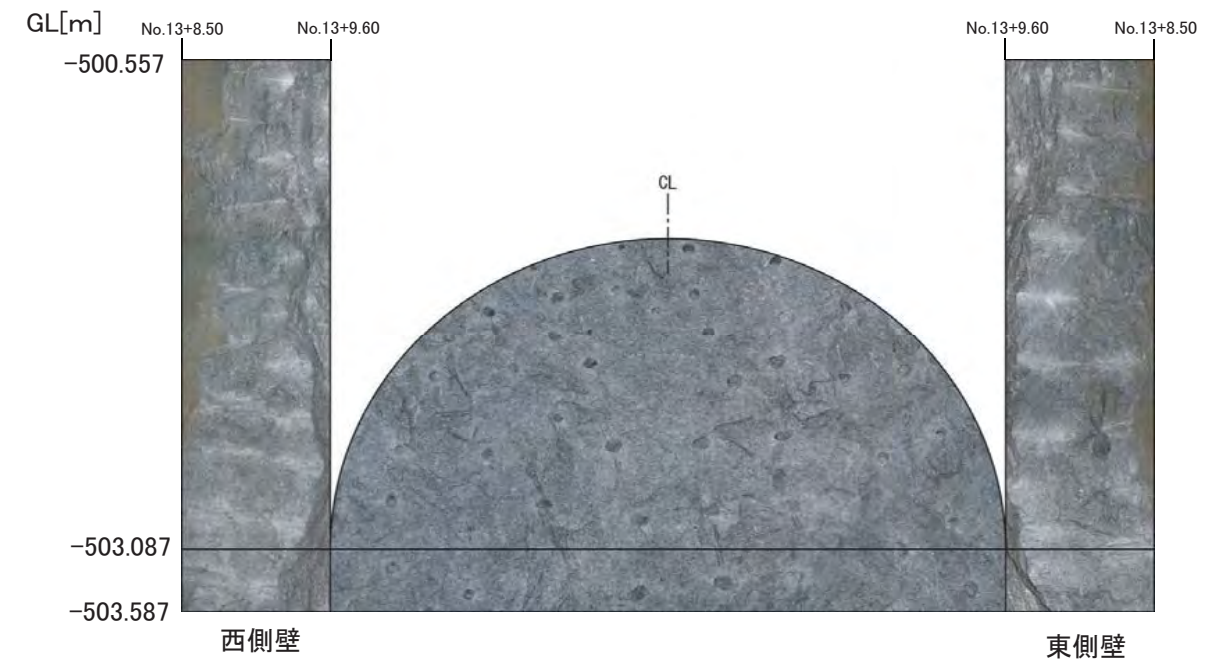
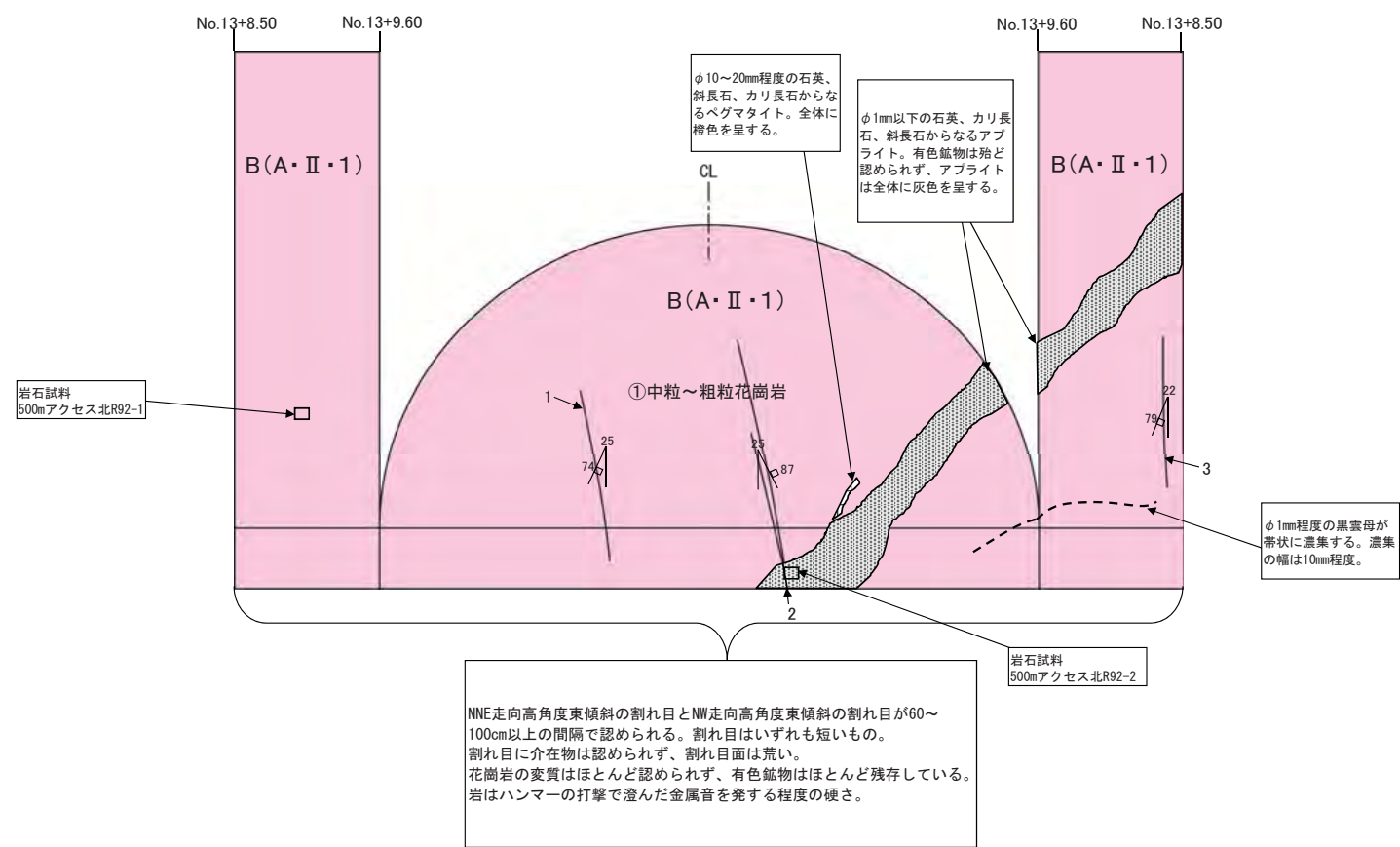
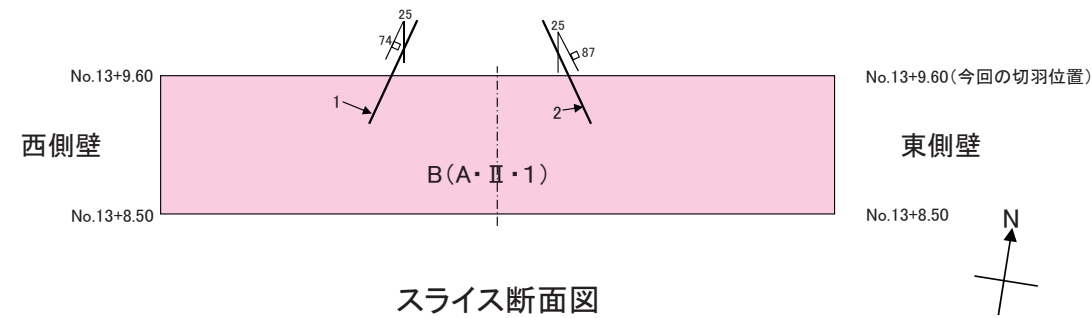
A5-請負-計測工(地質)-130821

シート番号	500mアクセス北坑道92	日時	2013/8/21 14:00~15:30	位置・深度	500mアクセス北坑道92 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

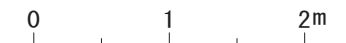
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集	アプライト脈	ペグマタイト
----	-----	-----	----------	--------	----	--------	--------	--------



可視画像



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m B G.L. -502.807m~-503.587m B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、灰色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m 93 G.L. -502.807m~-503.587m 93
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R92-1(花崗岩), 500mアクセス北R92-2(アプライト)
変質	1	採水試料番号	-
湧水	無し		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9° W方向である。横坑観察は切羽から1.1m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。また、切羽にはφ1mm以下の石英、斜長石、カリ長石からなるアプライトが認められる。
花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物は残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。
割れ目の走向傾斜は、NNE走向高角度東傾斜とNW走向高角度東傾斜が認められる。
割れ目に介在物は認められなかった。
湧水は認められなかった。
岩級区分は、切羽全体が割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

A5-請負-計測工(地質)-130823

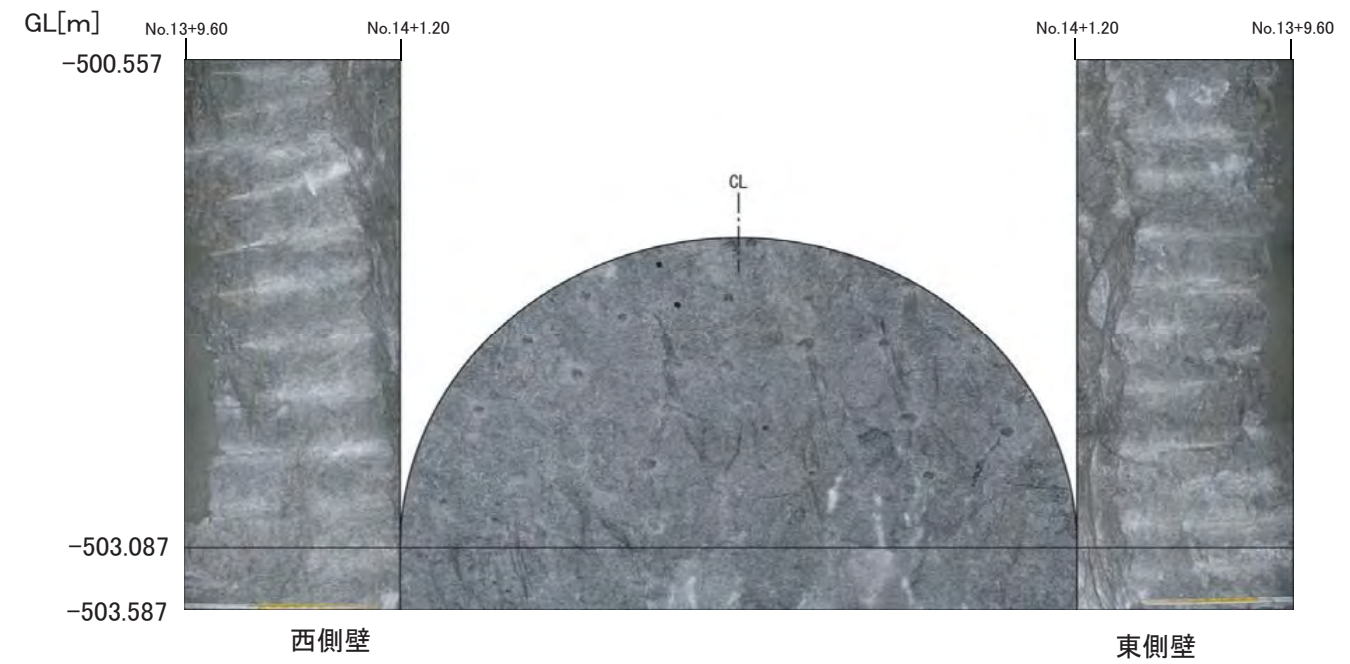
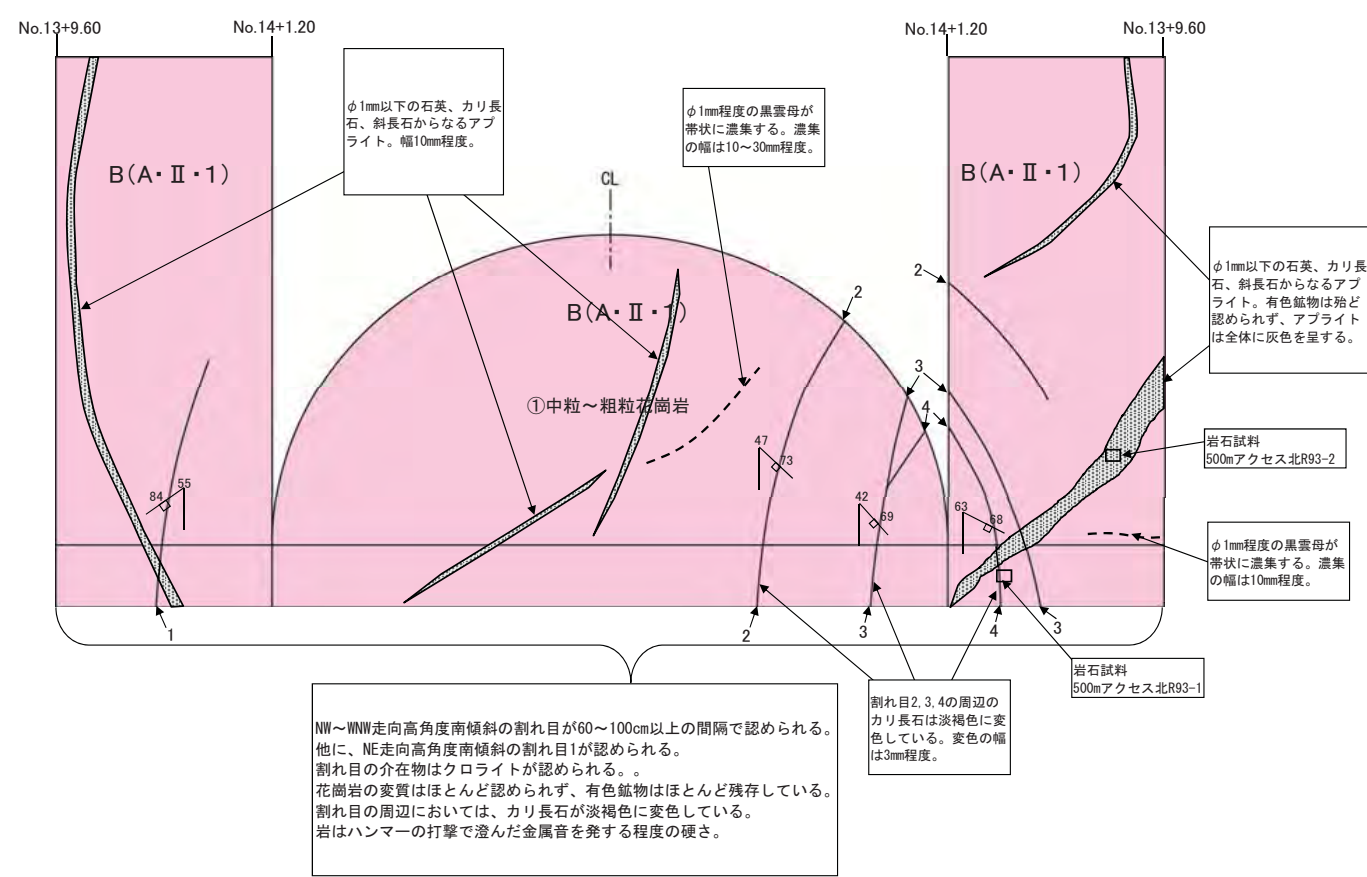
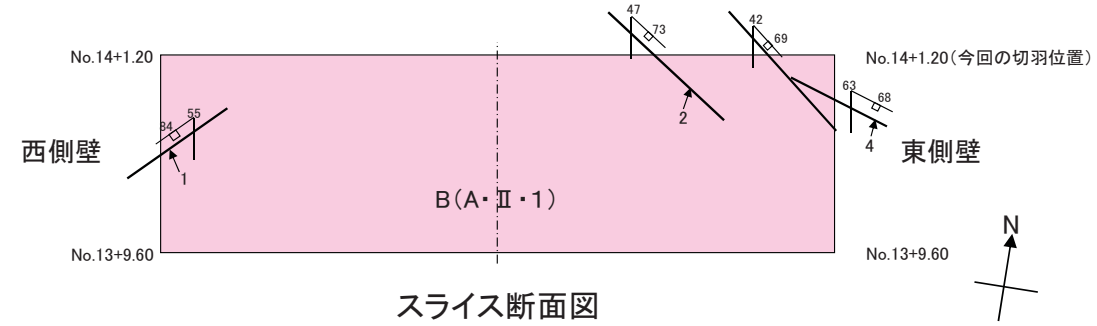
シート番号	500mアクセス北坑道93	日時	2013/8/23 16:30~18:00	位置・深度	500mアクセス北坑道93 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

	花崗岩		割れ目		79	割れ目の走向傾斜		岩級区分境界		湧水		黒雲母の濃集		アブライト脈
--	-----	--	-----	--	----	----------	--	--------	--	----	--	--------	--	--------



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	B B
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、灰色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	93 93
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R93-1 (花崗岩), 500mアクセス北R93-2 (アブライト)	
変質	1	採水試料番号	-	
湧水	無し			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。
 岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。また切羽には、φ1mm以下の石英、斜長石、カリ長石からなるアブライトが、東側壁では幅100~200mm程度で、西側壁から鏡には幅10mm程度で認められる。花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目2,3,4の周辺は非常に弱い変質により、カリ長石が淡褐色に変色している。変色の幅は最大3mm程度である。
 割れ目の走向傾斜は、NW~WNW走向高角度南傾斜が主体で、他にNE走向高角度南傾斜が認められる。

割れ目2,3,4はクロライトを介在しているのが認められた。
 湧水は認められなかった。
 岩級区分は、切羽全体が割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

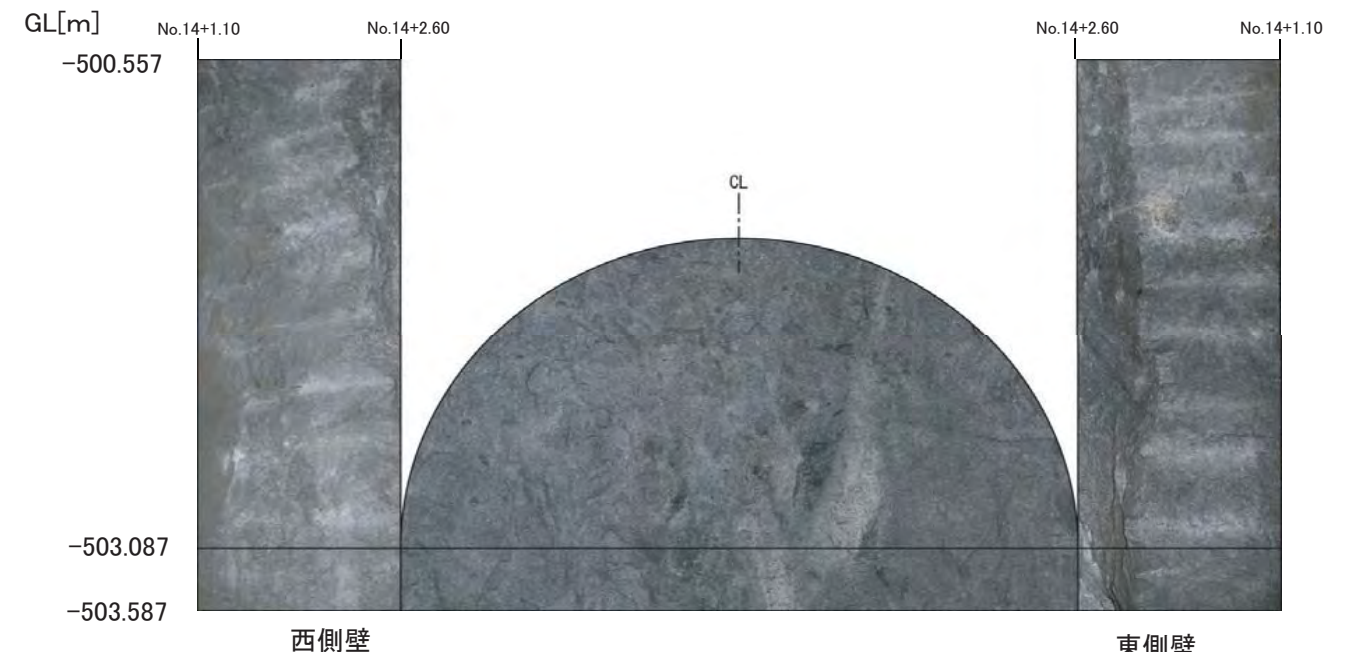
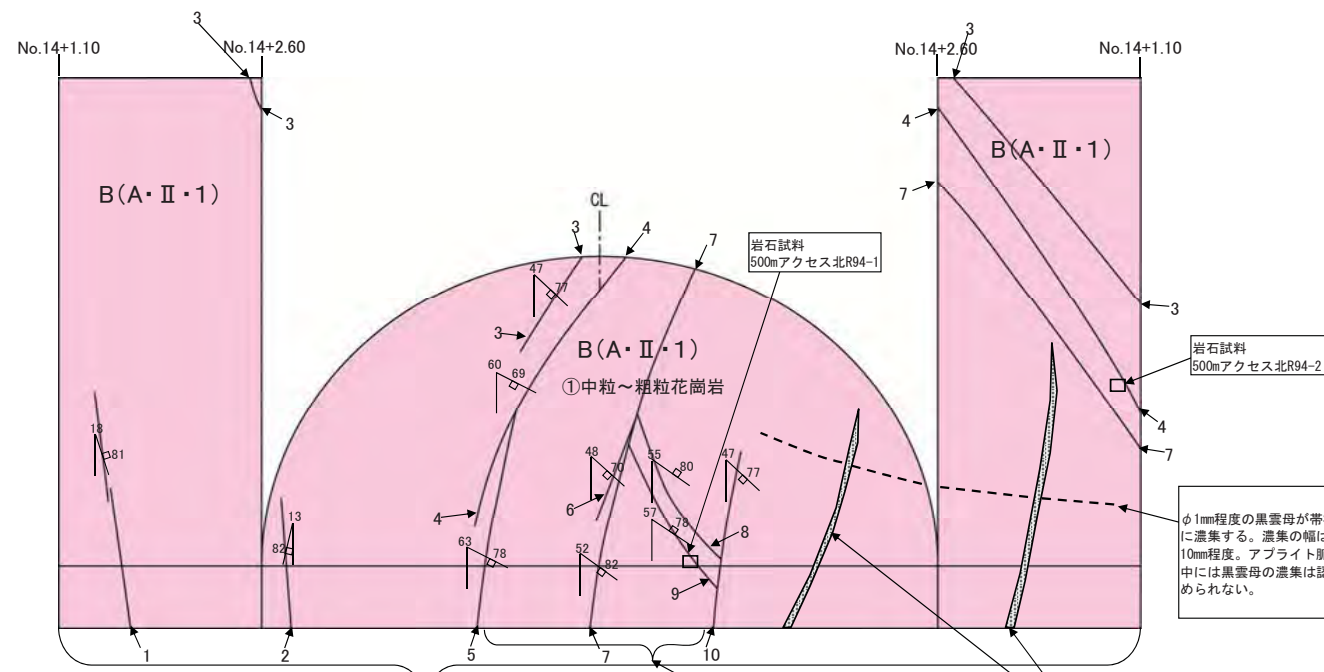
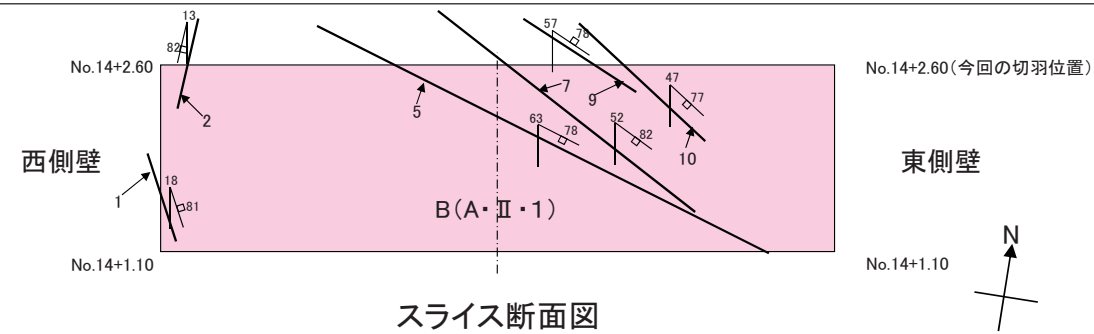
A5-請負-計測工(地質)-130826

シート番号	500mアクセス北坑道94	日時	2013/8/26 9:30~11:00	位置・深度	500mアクセス北坑道94 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 アプライト脈



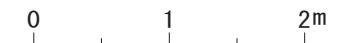
WNW走向高角度南傾斜の割れ目が60~100cm以上の間隔で認められる。他に、NNW~NNE走向高角度東傾斜の割れ目1, 2、WNW走向高角度北傾斜の割れ目8, 9が認められる。
割れ目の介在物はクロライトが認められる。
割れ目5~10の間以外の花崗岩には、変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存している。
岩はハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

割れ目7周辺を中心に、割れ目5~割れ目10にかけて、カリ長石や斜長石が淡褐色に変色し、黒雲母はクロライトに置き換わっている。花崗岩の硬さはハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

φ1mm以下の石英、カリ長石、斜長石からなるアプライト。有色鉱物は殆ど認められず、アプライトは全体に灰色を呈する。

φ1mm程度の黒雲母が帯状に濃集する。濃集の幅は10mm程度。アプライト脈中には黒雲母の濃集は認められない。

スケッチ



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	B B	特記事項 当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。 岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。また切羽には、φ1mm以下の石英、斜長石、カリ長石からなるアプライトが、鏡右側～東側壁には幅10mm程度で認められる。 切羽の大部分の花崗岩には変質がほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。また、割れ目5~10にかけては、花崗岩は中程度の変質を受け、カリ長石や斜長石が淡褐色に変色し、有色鉱物がクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に淡褐色を呈している。 割れ目の走向傾斜は、WNW走向高角度南傾斜が主体で、他に、NNW~NNE走向高角度東傾斜やWNW走向高角度北傾斜が認められる。 割れ目の介在物としてクロライトが認められた。 湧水は認められなかった。 岩級区分は、切羽全体が割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	88 88	
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R94-1(花崗岩), 500mアクセス北R94-2(花崗岩)		
変質	1~3	採水試料番号	—		
湧水	無し				

A工区地質記載シート

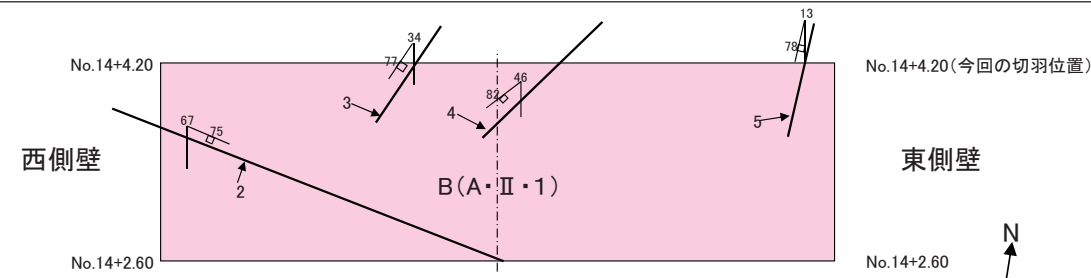
A5-請負-計測工(地質)-130827

シート番号	500mアクセス北坑道95	日時	2013/8/27 16:30~18:00	位置・深度	500mアクセス北坑道95 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

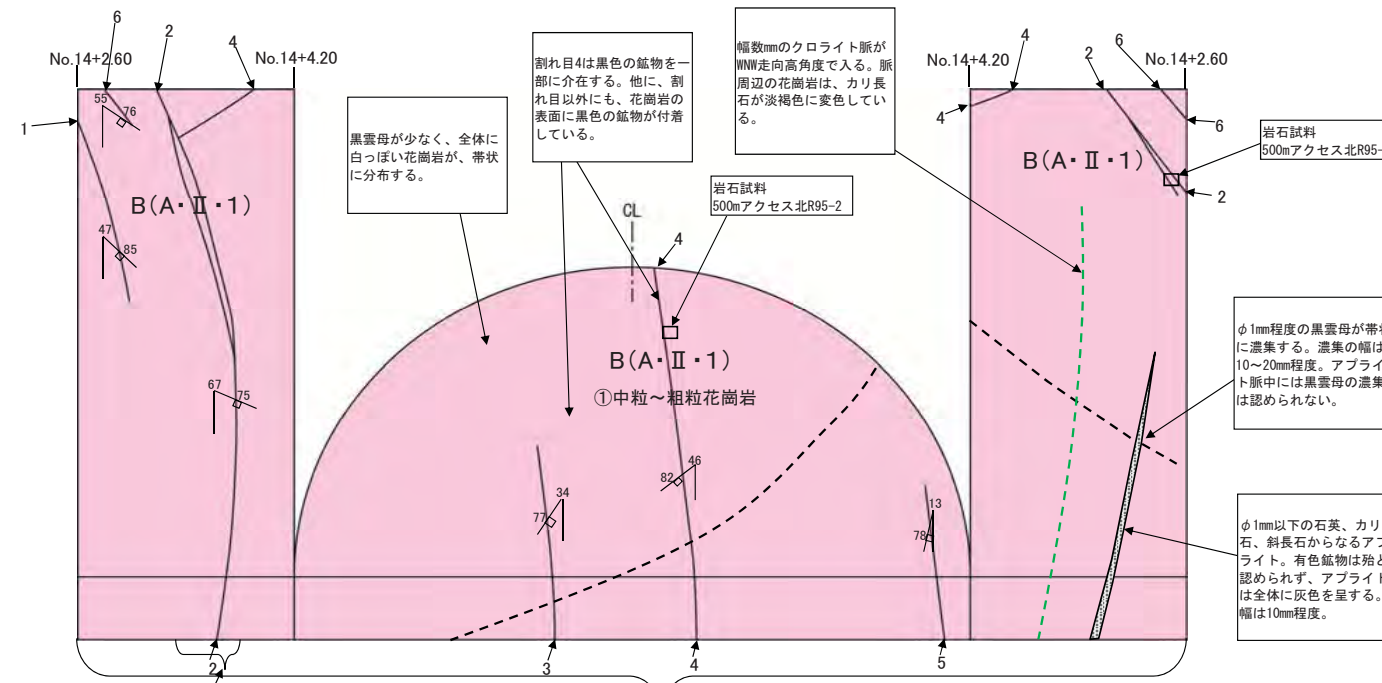
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 70 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 アプライト脈 クロライト脈

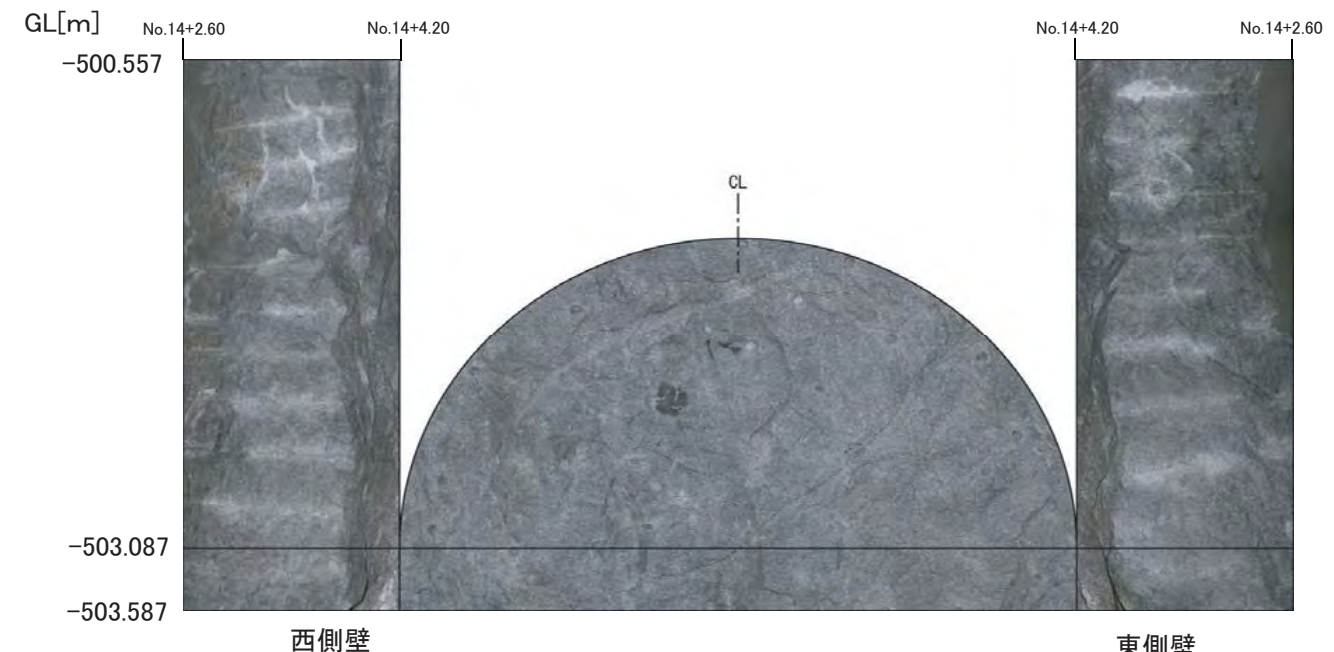


スライス断面図

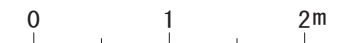


割れ目2の周辺は、弱~中程度の変質によりカリ長石や斜長石が淡褐色に変色し、黒雲母の一部~半数程度がクロライトに置き換わっている。花崗岩の硬さはハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

WNW走向高角度南傾斜の割れ目が60~100cm以上の間隔で認められる。他に、NNE~NE走向高角度東傾斜の割れ目3, 4, 5が認められる。割れ目の介在物はクロライト、カルサイト、黒色の鉱物が認められる。花崗岩には、変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存している。岩はハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。



可視画像



スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m B G.L. -502.807m~-503.587m B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m 93 G.L. -502.807m~-503.587m 93
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R95-1 (花崗岩), 500mアクセス北R95-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	無し		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。鏡上部には、黒雲母が少量の箇所が帯状に認められる。
また、東側壁には、φ1mm以下の石英、斜長石、カリ長石からなるアプライトが、幅10mm程度で認められる。
切羽の大部分の花崗岩には変質がほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。また、割れ目2周辺では、花崗岩は弱~中程度の変質により、カリ長石や斜長石が淡褐色に変色しており、有色鉱物の一部~半数がクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に淡褐色を呈する。
割れ目の走向傾斜は、WNW走向高角度南傾斜が主体で、他に、NNE~NE走向高角度東傾斜が認められる。

割れ目の介在物としてクロライト、カルサイト、黒色の鉱物が認められた。湧水は認められなかった。
岩級区分は、切羽全体が割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

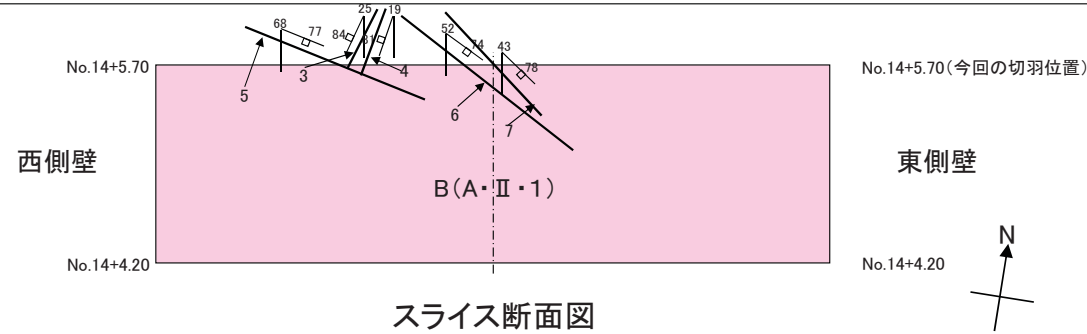
A5-請負-計測工(地質)-130828

シート番号	500mアクセス北坑道96	日時	2013/8/28 16:30~18:00	位置・深度	500mアクセス北坑道96 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

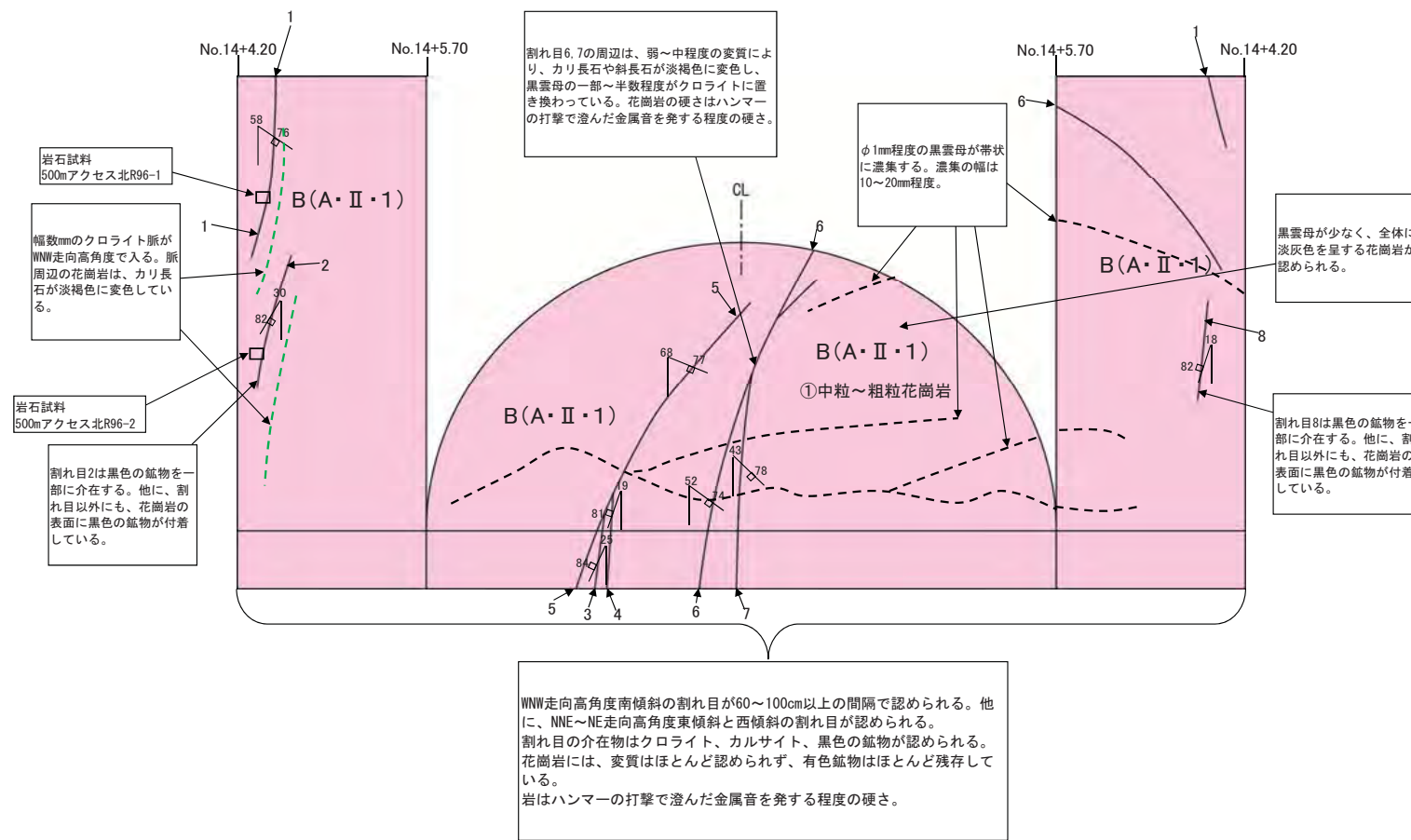
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

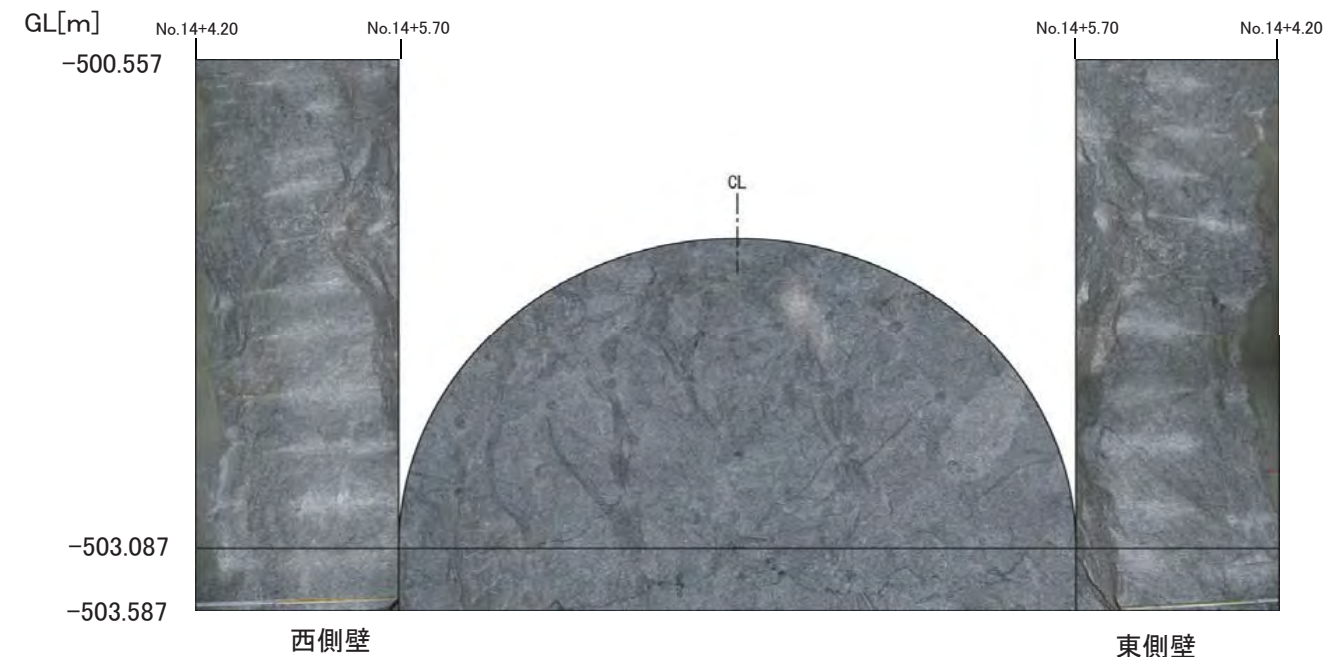
凡例 花崗岩 割れ目 70 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 クロライト脈



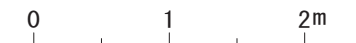
スライス断面図



スケッチ



可視画像



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	B B	特記事項 当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。 岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。鏡右側には、黒雲母が少なく全体に淡灰色を呈する花崗岩が認められる。 切羽の大部分の花崗岩には変質がほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。また、割れ目6,7周辺では、花崗岩は弱~中程度の変質により、カリ長石や斜長石が淡褐色に変色しており、有色鉱物の一部~半数がクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に淡褐色を呈する。 割れ目の走向傾斜は、WNW走向高角度南傾斜が主体で、他に、NNE~NE走向高角度東傾斜と西傾斜が認められる。 割れ目の介在物としてクロライト、カルサイト、黒色の鉱物が認められた。 湧水は認められなかった。 岩級区分は、切羽全体が割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	93 93	
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R96-1(花崗岩), 500mアクセス北R96-2(花崗岩)		
変質	1~2	採水試料番号	-		
湧水	無し				

A工区地質記載シート

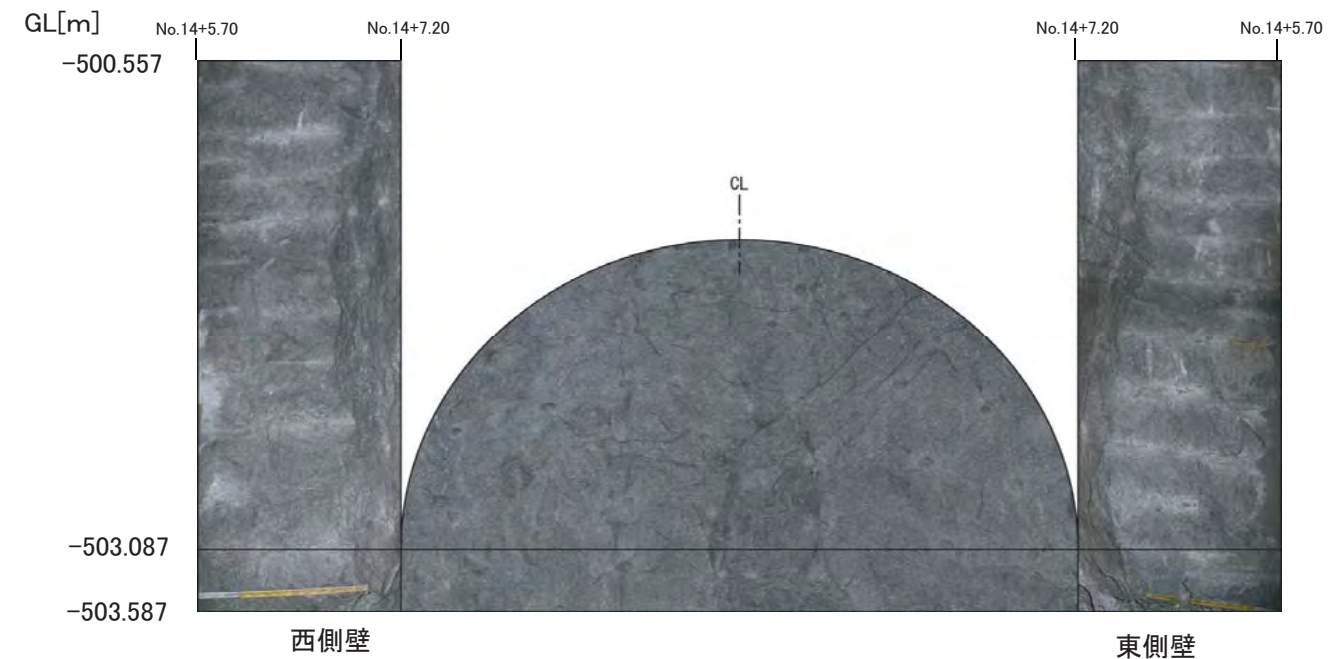
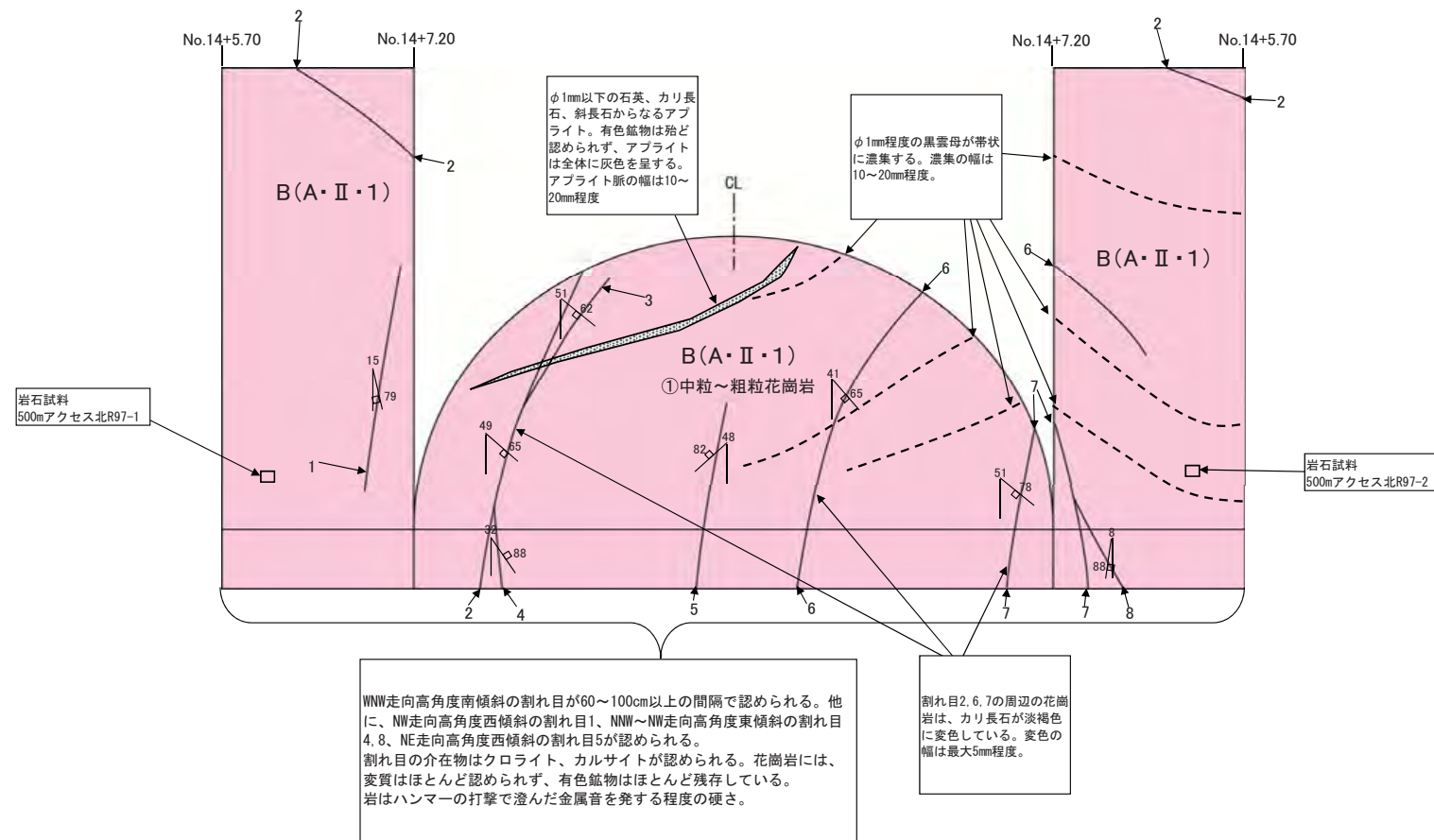
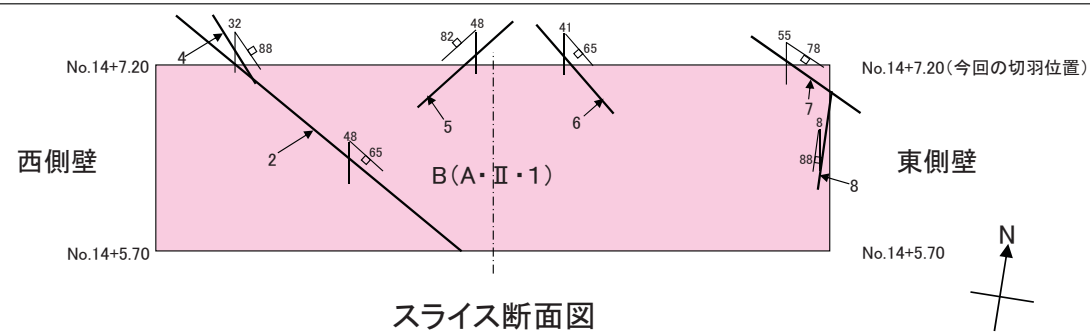
A5-請負-計測工(地質)-130830

シート番号	500mアクセス北坑道97	日時	2013/8/30 9:30~11:00	位置・深度	500mアクセス北坑道97 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

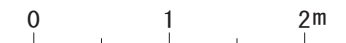
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 70° 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 アプライト脈



可視画像



スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m B G.L. -502.807m~-503.587m B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m 93 G.L. -502.807m~-503.587m 93
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R97-1 (花崗岩), 500mアクセス北R97-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	無し		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。鏡には幅10~20mm程度のアプライト脈が認められる。
花崗岩には変質がほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。
割れ目2, 6, 7周辺では、花崗岩は程度の弱い変質により、カリ長石が淡褐色に変色している。変色の幅は最大5mm程度。
割れ目の走向傾斜は、WNW走向高角度南傾斜が主体で、他に、NW走向高角度西傾斜、NNW~NW走向高角度東傾斜、NE走向高角度西傾斜が認められる。

割れ目の介在物としてクロライト、カルサイトが認められた。
湧水は認められなかった。
岩級区分は、切羽全体が割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

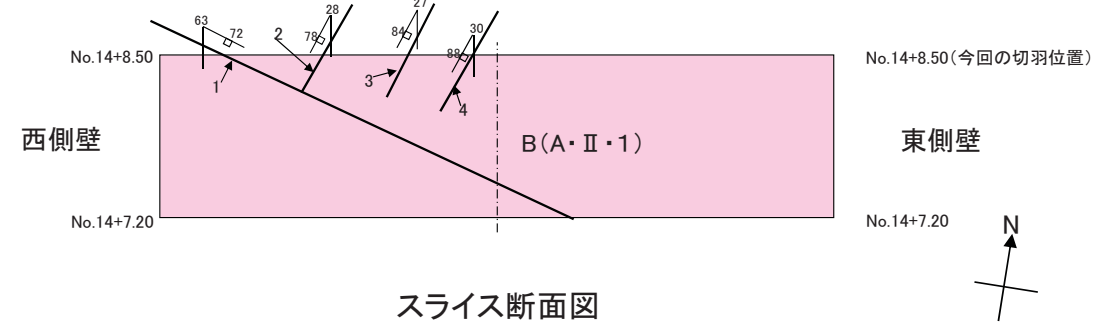
A5-請負-計測工(地質)-130831

シート番号	500mアクセス北坑道98	日時	2013/8/31 14:30~16:00	位置・深度	500mアクセス北坑道98 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

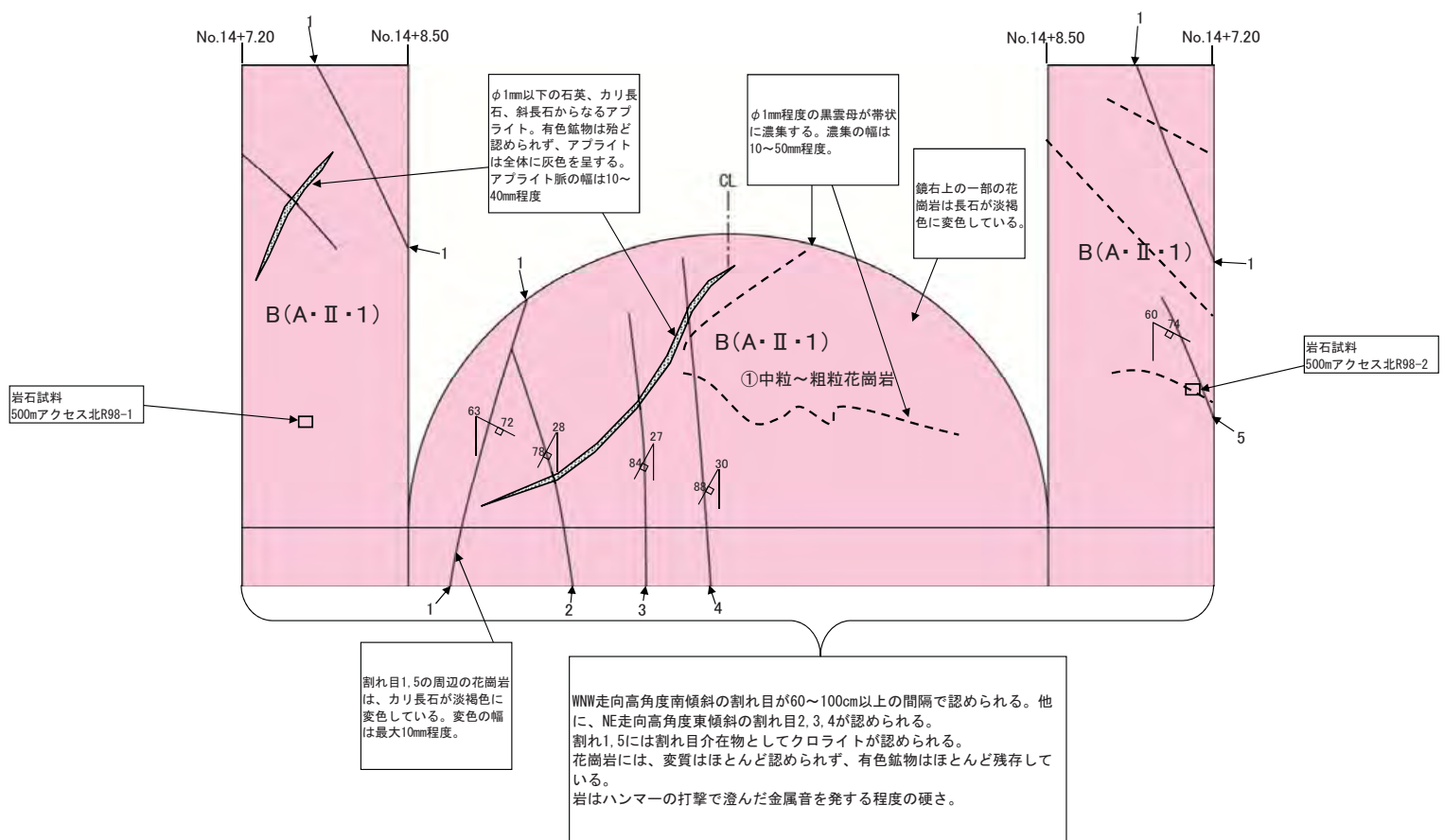
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

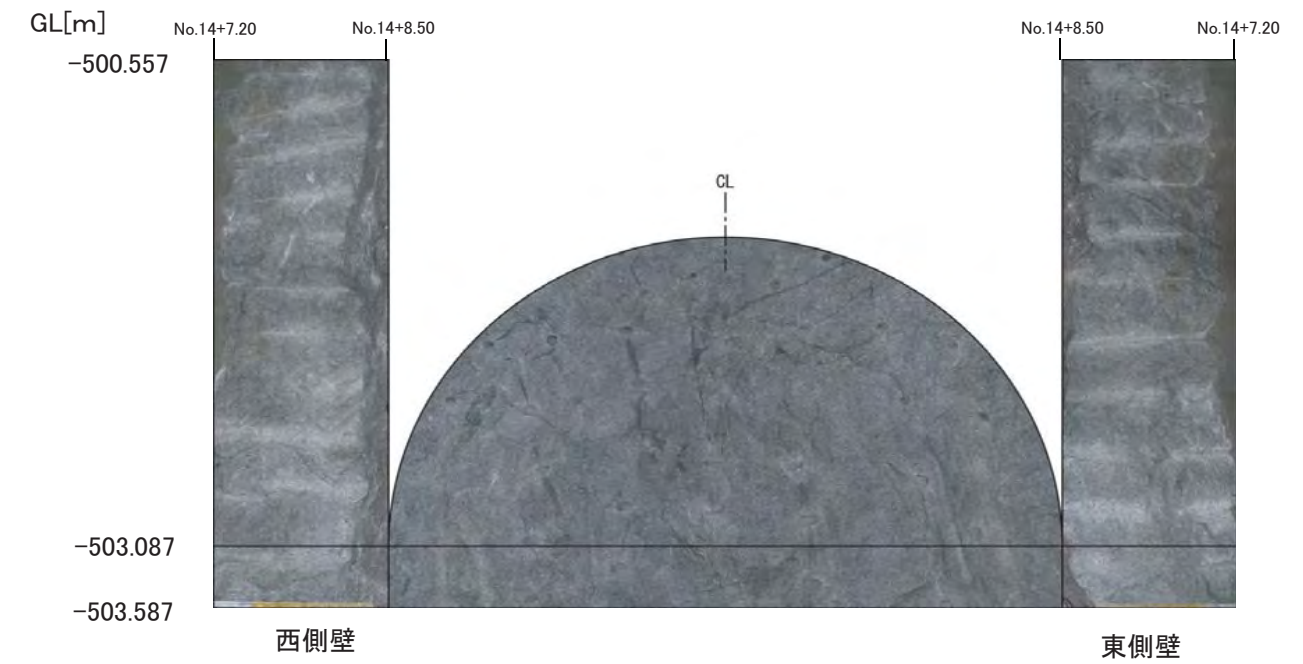
凡例	花崗岩	割れ目	70° 割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集	アプライト脈
----	-----	-----	--------------	--------	----	--------	--------



スライス断面図



スケッチ



可視画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	B B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	93 93
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R98-1 (花崗岩), 500mアクセス北R98-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	無し			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9° W方向である。横坑観察は切羽から1.3m離れた場所より目視観察を実施した。
 岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径が ϕ 2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。鏡左側と西側壁には、幅10~40mm程度のアプライト脈が認められる。花崗岩には変質がほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡褐色を呈する。
 割れ目1,5周辺の花崗岩は、程度の弱い変質によりカリ長石が淡褐色に変色している。変色の幅は最大10mm程度。
 割れ目の走向傾斜は、WNN走向高角度南傾斜が主体で、他に、NE走向高角度東傾斜が認められる。

割れ目の介在物としてクロライトが認められた。
 湧水は認められなかった。
 岩級区分は、切羽全体が割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

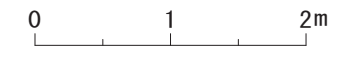
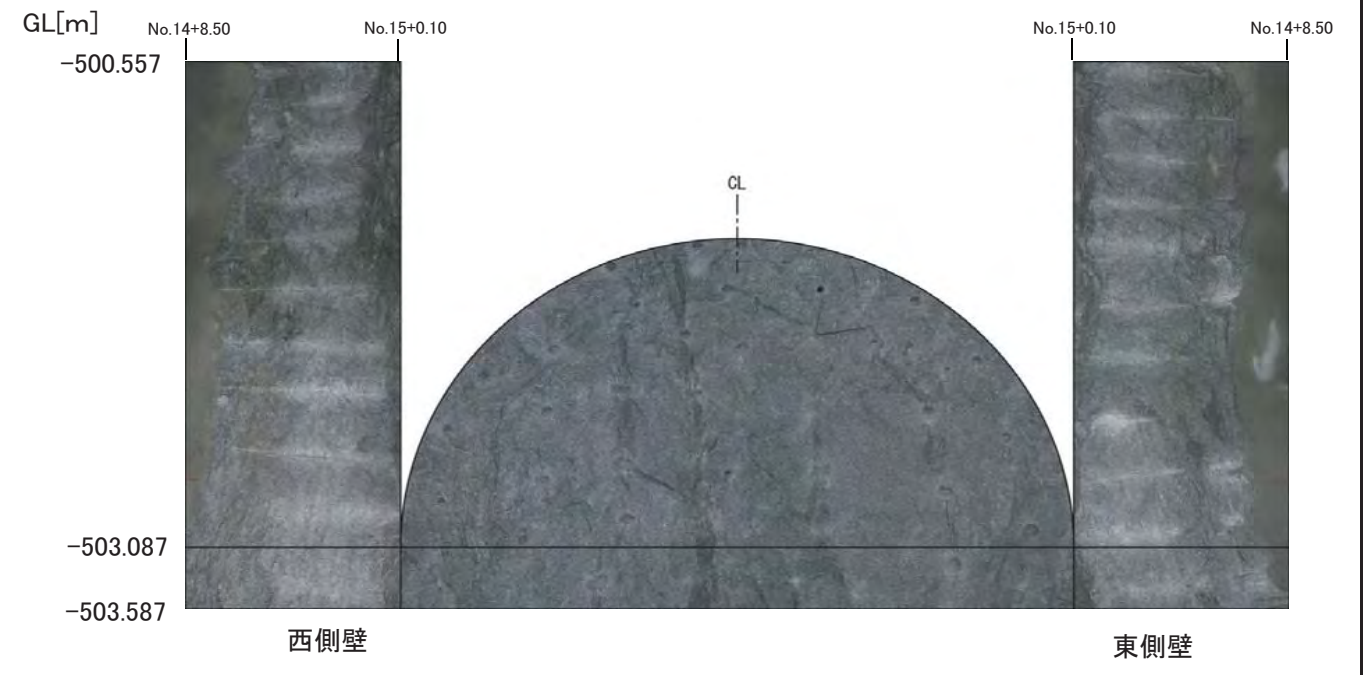
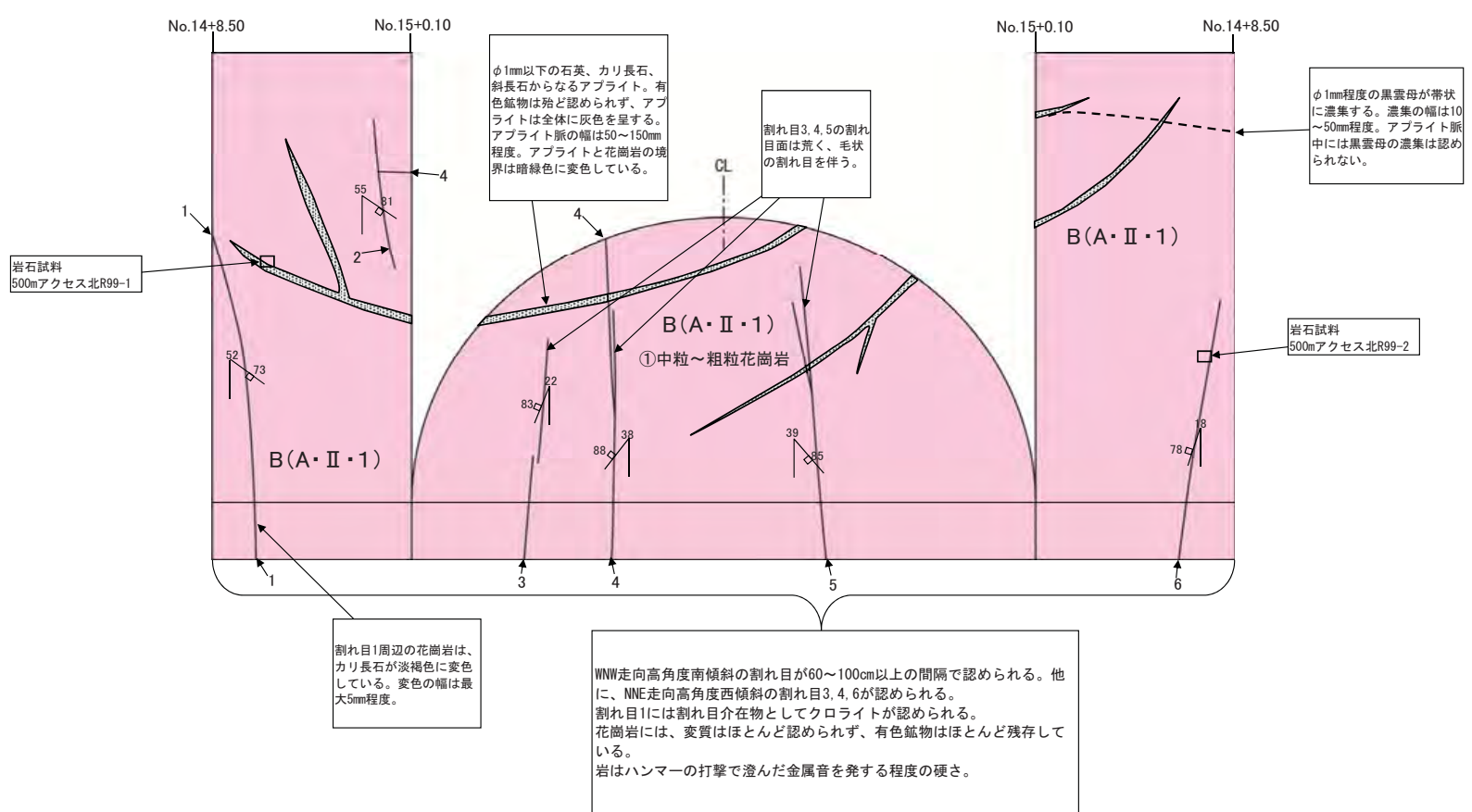
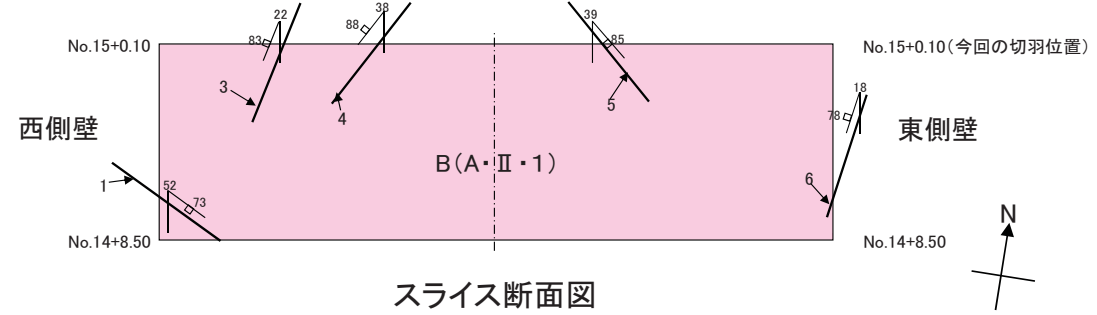
A5-請負-計測工(地質)-130902

シート番号	500mアクセス北坑道99	日時	2013/9/2 16:30~18:00	位置・深度	500mアクセス北坑道99 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集	アプライト脈
----	-----	-----	----------	--------	----	--------	--------



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m B G.L. -502.807m~-503.587m B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m 93 G.L. -502.807m~-503.587m 93
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R99-1 (花崗岩), 500mアクセス北R99-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	無し		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9° W方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。

岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。切羽には、最大幅50~150mm程度のアプライト脈が認められる。

花崗岩には変質がほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。

割れ目1周辺の花崗岩は、程度の弱い変質によりカリ長石が淡褐色に変色している。変色の幅は最大5mm程度。

割れ目の走向傾斜は、WNW走向高角度南傾斜が主体で、他に、NNE走向高角度西傾斜が認められる。

割れ目の介在物としてクロライトが認められた。

湧水は認められなかった。

岩級区分は、切羽全体が割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A-II-1)級と評価した。

A工区地質記載シート

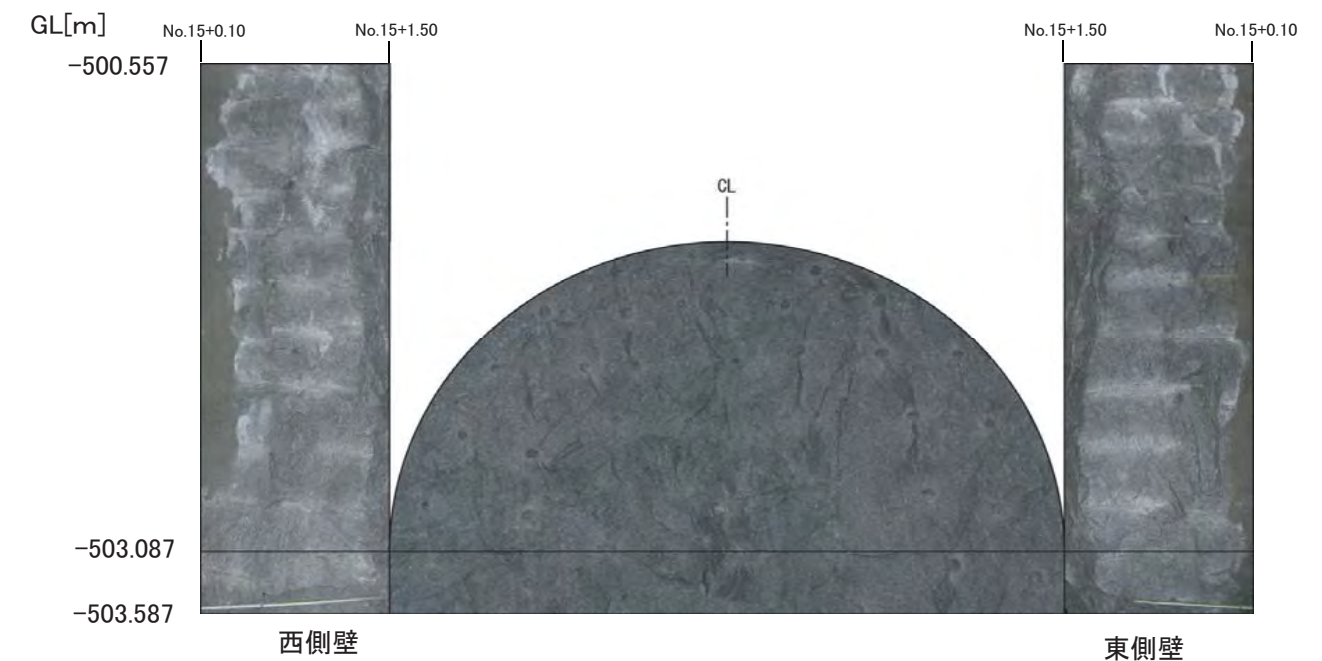
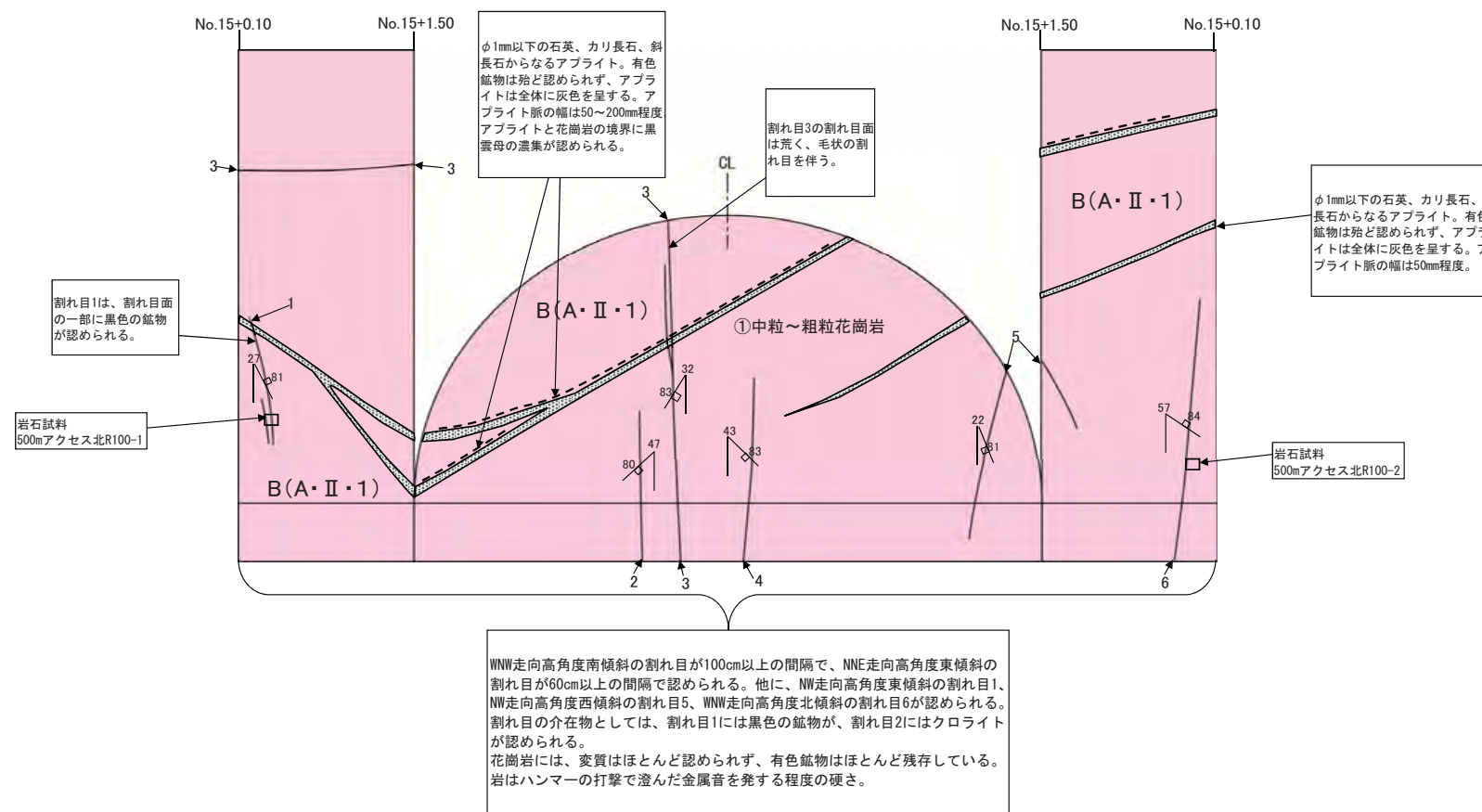
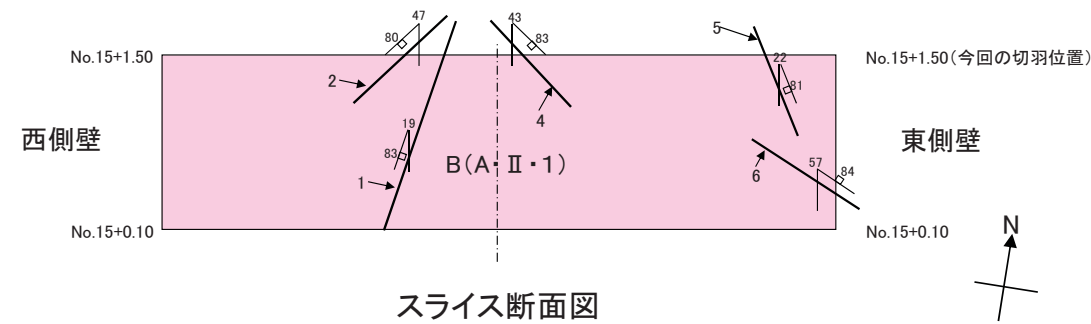
A5-請負-計測工(地質)-130904

シート番号	500mアクセス 北坑道100	日時	2013/9/4 9:30~11:00	位置・深度	500mアクセス北坑道100 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	--------------------	----	------------------------	-------	---	--------	--

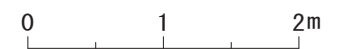
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	70° 割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集	アプライト脈
----	-----	-----	--------------	--------	----	--------	--------



可視画像



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m B G.L. -502.807m~-503.587m B
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、灰色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m 93 G.L. -502.807m~-503.587m 93
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R100-1(花崗岩), 500mアクセス北R100-2(花崗岩)
変質	1	採水試料番号	-
湧水	無し		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.4m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。所々に最大φ15mm程度のカリ長石が認められる。また、切羽には、最大幅50~200mm程度のアプライト脈が認められる。花崗岩には変質がほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目の走向傾斜は、WNW走向高角度南傾斜とNNE走向高角度東傾斜が主体で、他に、NW走向高角度東傾斜、NW走向高角度西傾斜、WNW走向高角度北傾斜が認められる。

割れ目の介在物としてクロライトと黒色の鉱物が認められた。湧水は認められなかった。岩級区分は、切羽全体が割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

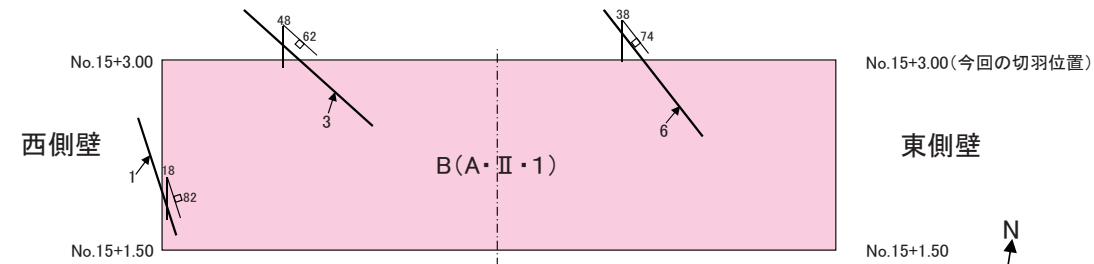
A5-請負-計測工(地質)-130905

シート番号	500mアクセス 北坑道101	日時	2013/9/5 15:30~17:00	位置・深度	500mアクセス北坑道101 G. L. -500.557 m~G. L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	--------------------	----	-------------------------	-------	---	--------	--

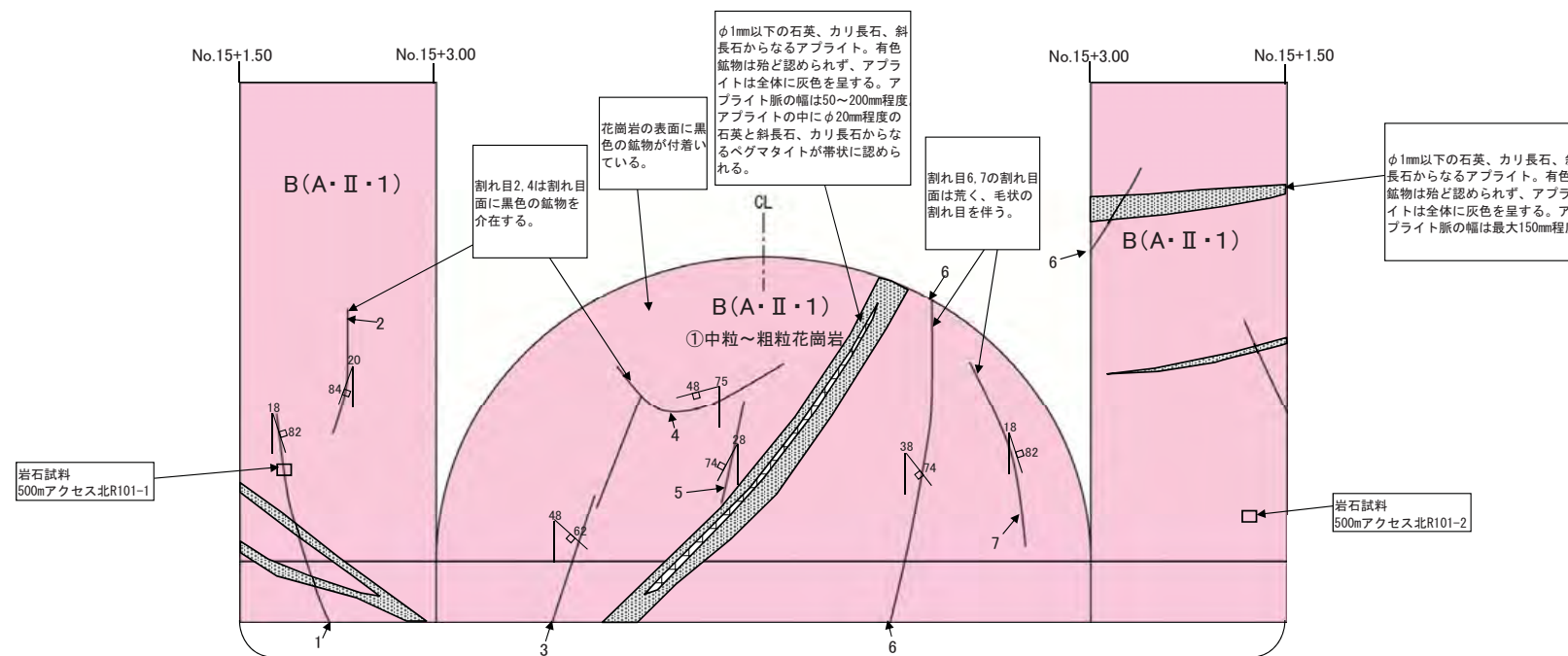
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	70° 割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集	アプライト脈	ペグマタイト
----	-----	-----	--------------	--------	----	--------	--------	--------

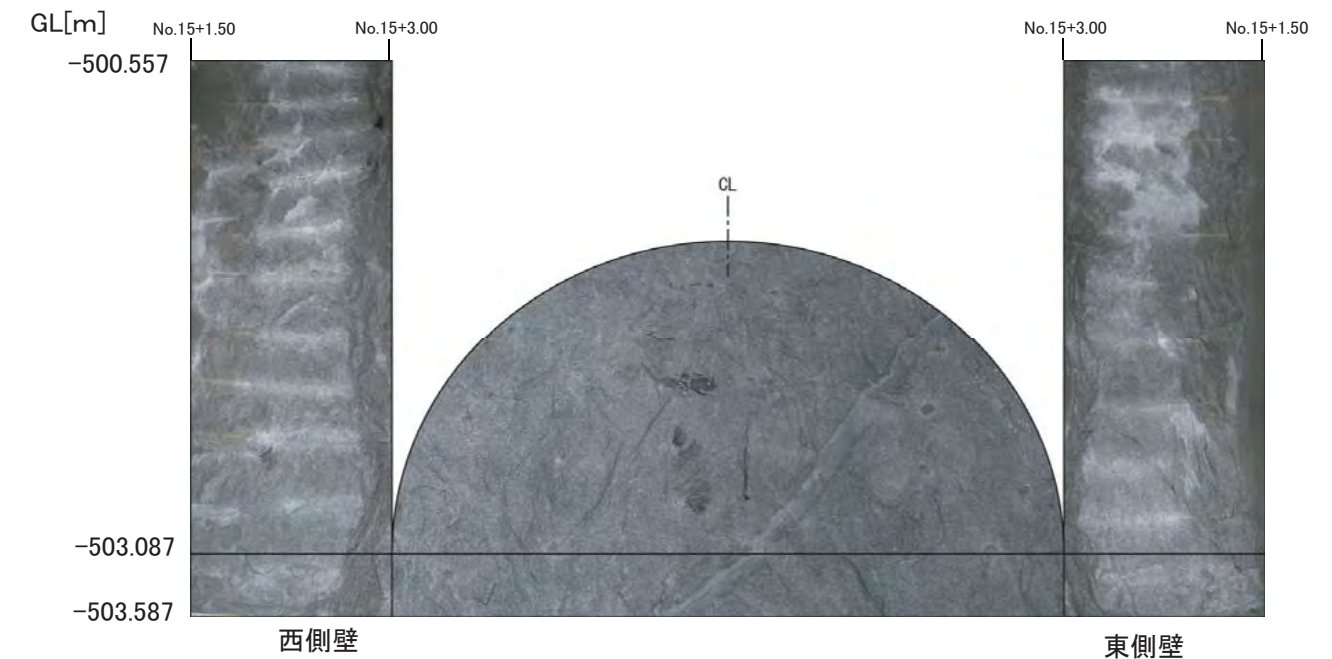


スライス断面図



NW~WNW走向高角度南傾斜の割れ目が100cm以上の間隔で認められる。他に、NNW走向高角度東傾斜の割れ目1, 7, NNE走向高角度東傾斜の割れ目2, ENE走向中角度南傾斜の割れ目4, NNE走向高角度西傾斜の割れ目5が認められる。割れ目の介在物としては、割れ目1にカルサイト、割れ目2, 4には黒色の鉱物が、割れ目5にはクロライトが認められる。花崗岩には、変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存している。岩はハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

スケッチ



可視画像



岩種	花崗岩	電研式岩級	G. L. -500.557m~-502.807m G. L. -502.807m~-503.587m	B B	特記事項 当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9° W方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々に最大φ15mm程度のカリ長石が認められる。また、切羽には、最大幅50~200mm程度のアプライト脈が認められる。花崗岩には変質がほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目の走向傾斜は、NW~WNW走向高角度南傾斜の割れ目が主体で、他に、NNW走向高角度東傾斜、NNE走向高角度東傾斜、ENE走向中角度南傾斜、NNE走向高角度西傾斜が認められる。なお、割れ目のほとんどは断続的で連続性の良くないものである。
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、灰色)	RMR値	G. L. -500.557m~-502.807m G. L. -502.807m~-503.587m	93 93	
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R101-1(花崗岩), 500mアクセス北R101-2(花崗岩)		
変質	1	採水試料番号	-		
湧水	無し				

割れ目の介在物としてクロライトとカルサイト、黒色の鉱物が認められた。湧水は認められなかった。岩級区分は、切羽全体が割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

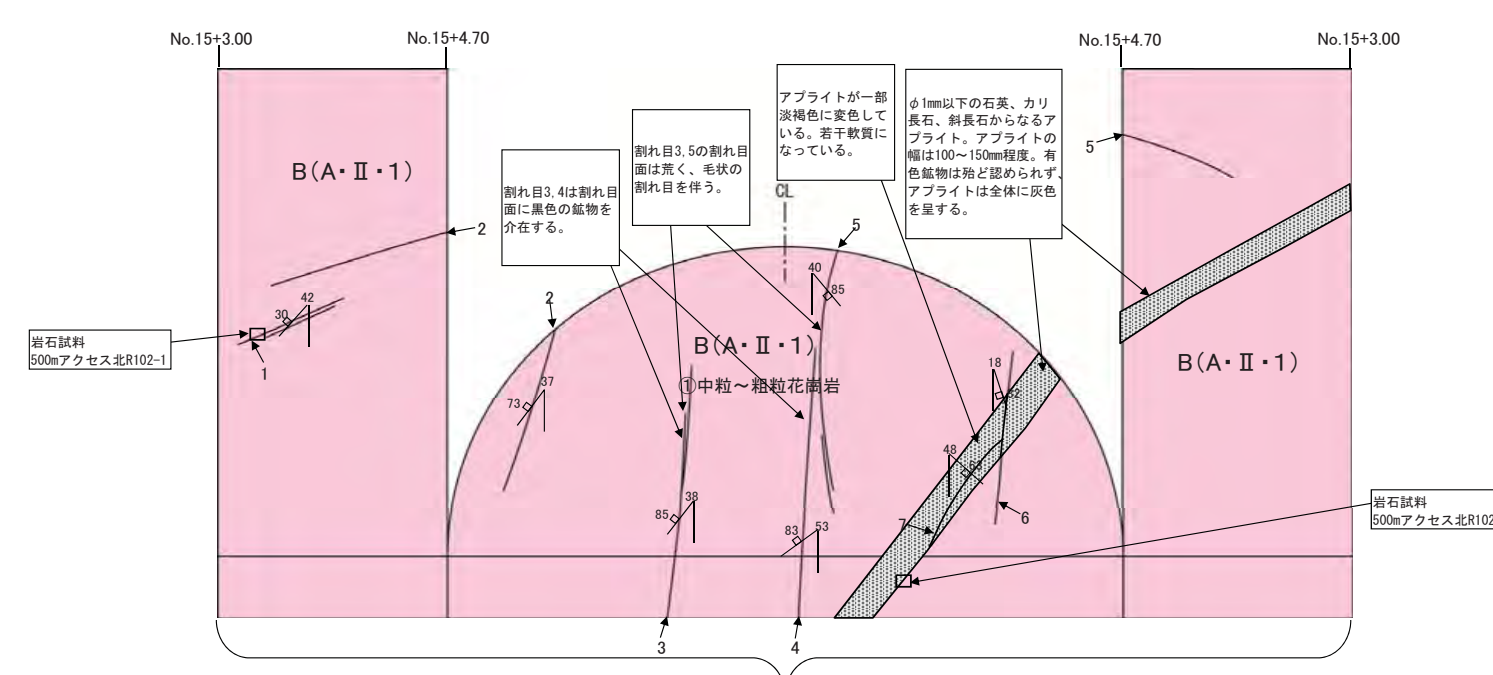
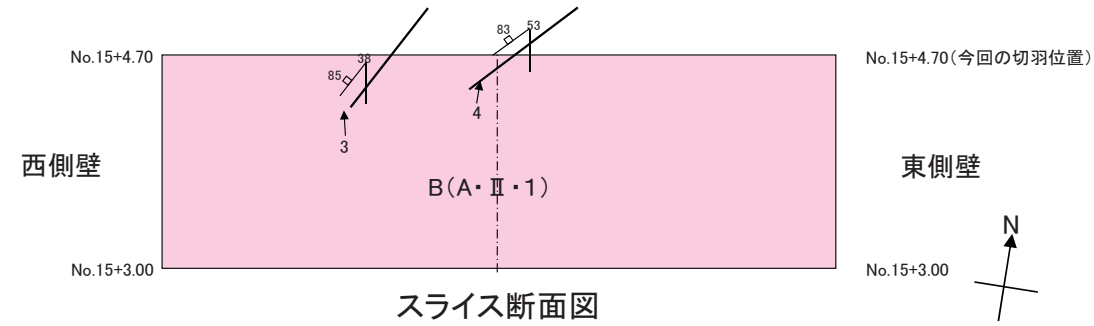
A5-請負-計測工(地質)-130906

シート番号	500mアクセス 北坑道102	日時	2013/9/6 16:30~18:00	位置・深度	500mアクセス北坑道102 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	--------------------	----	-------------------------	-------	---	--------	--

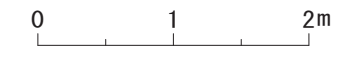
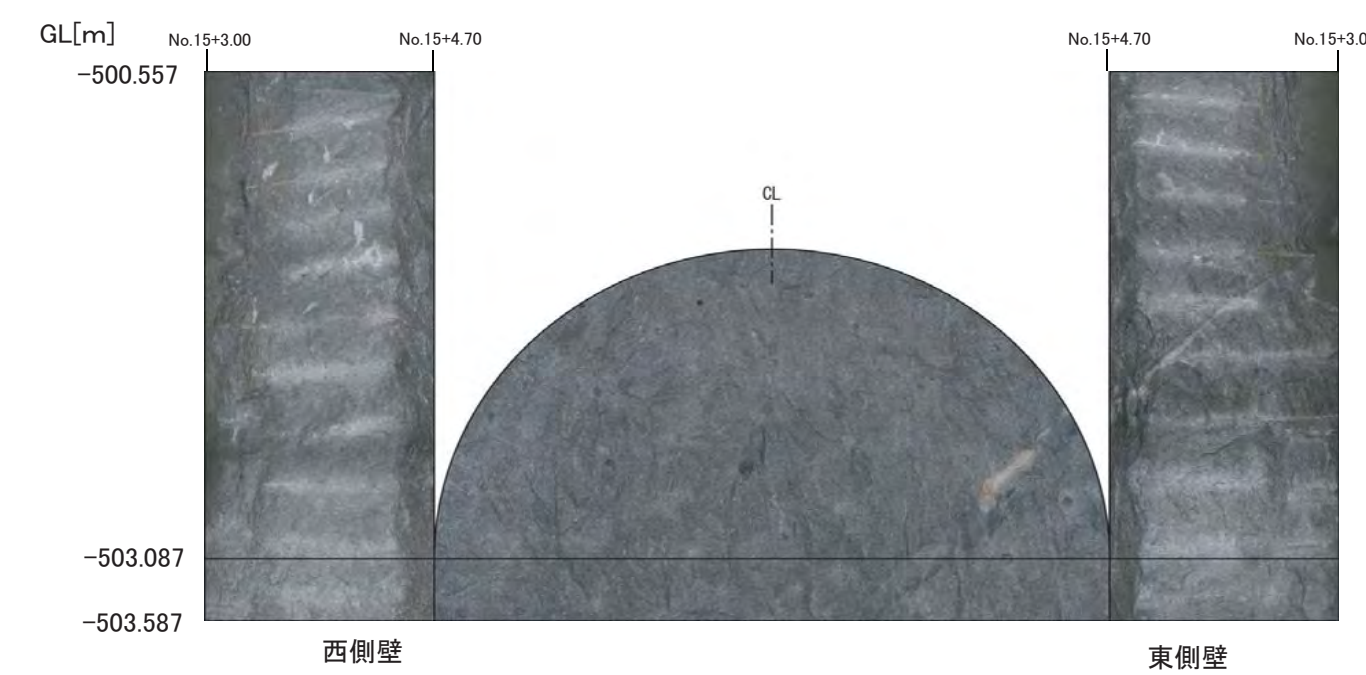
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	79 割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	アブライト脈
----	-----	-----	-------------	--------	----	--------



NNE走向高角度西傾斜の割れ目とNW走向高角度西～南傾斜の割れ目が60~100cm程度の間隔で認められる。
割れ目の介在物としては、割れ目3, 4に黒色の鉱物を介在する。
割れ目7にはクロライトが認められる。
花崗岩には、変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存している。
岩はハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	B B
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、灰色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	93 93
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R102-1 (花崗岩), 500mアクセス北R102-2 (花崗岩)	
変質	1	採水試料番号	-	
湧水	無し			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.7m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。所々に最大φ15mm程度のカリ長石が認められる。また、切羽には、最大幅100~150mm程度のアブライト脈が認められる。
花崗岩には変質がほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。
割れ目の走向傾斜は、NNE走向高角度西傾斜とNW走向高角度西～南傾斜が認められる。なお、割れ目のほとんどは断続的で連続性の良くないものである。

割れ目の介在物としてクロライトと黒色の鉱物が認められた。
湧水は認められなかった。
岩級区分は、切羽全体が割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

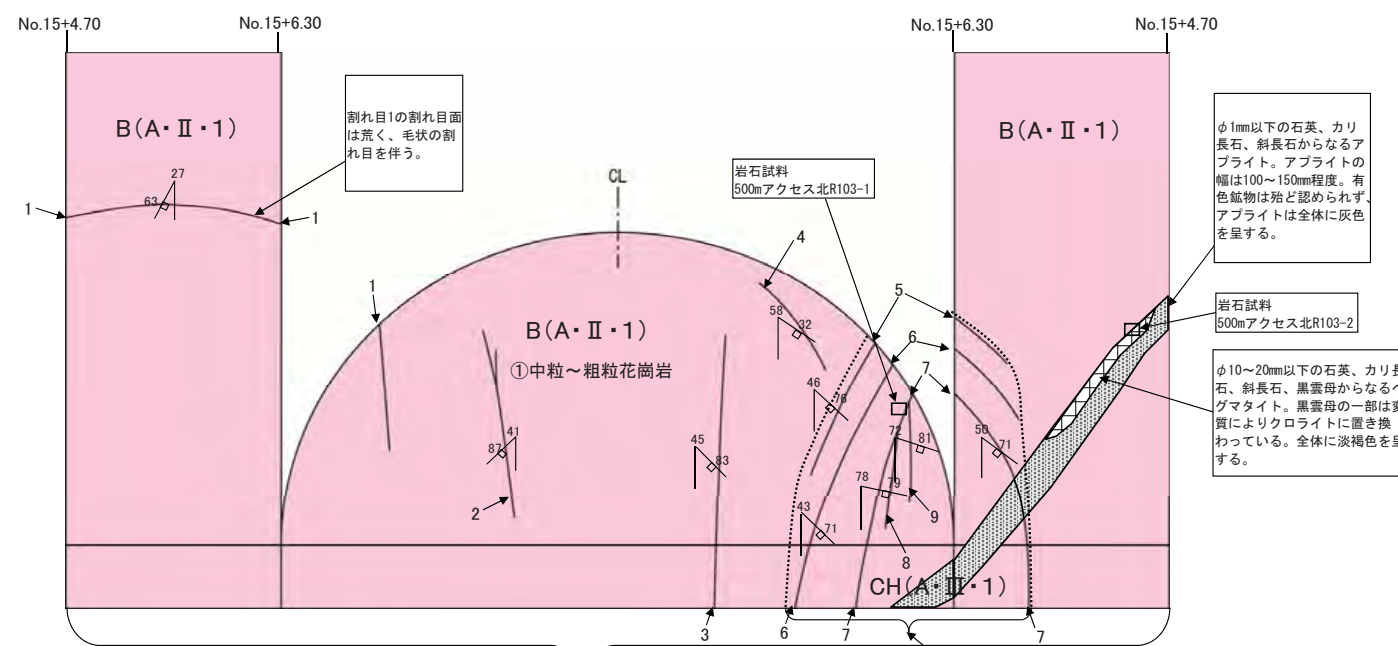
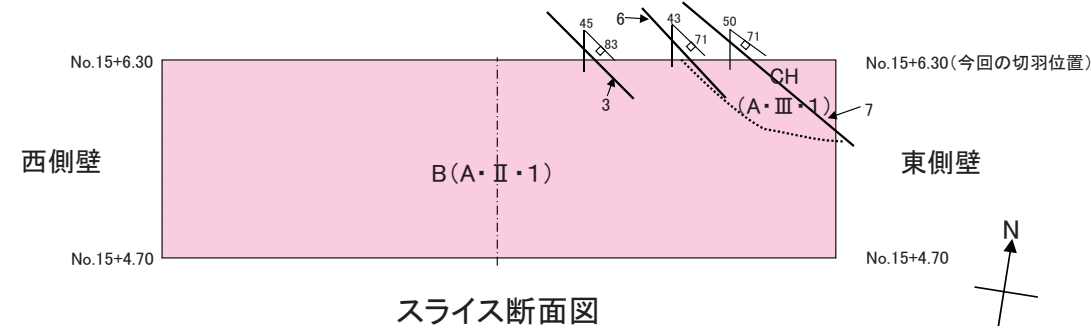
A5-請負-計測工(地質)-130909

シート番号	500mアクセス 北坑道103	日時	2013/9/9 16:30~18:00	位置・深度	500mアクセス北坑道103 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	--------------------	----	-------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

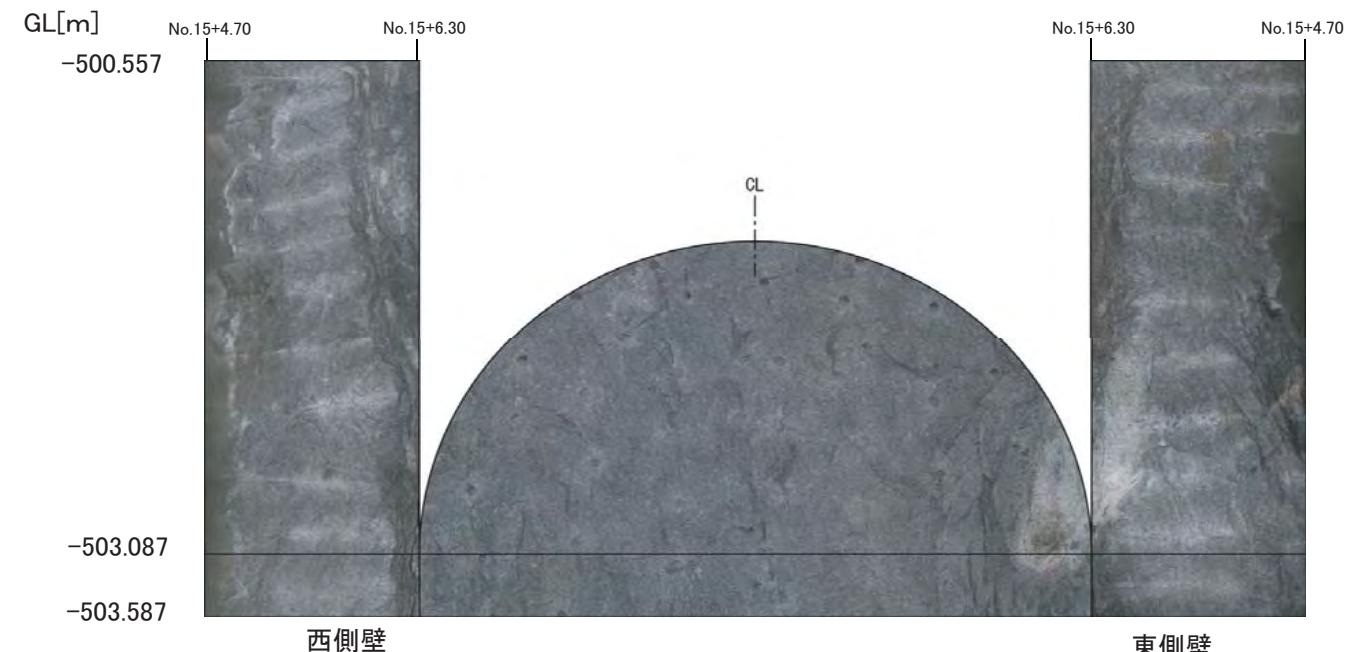
請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	割れ目	79 割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	アブライト脈	アブライト
----	-----	-----	-------------	--------	----	--------	-------

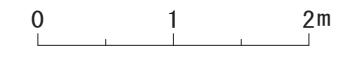


NNE走向高角度西傾斜の割れ目とNW走向高角度南傾斜の割れ目が60~100cm程度の間隔で認められる。他にNW走向中角度南傾斜の割れ目4が認められる。割れ目の介在物としては、割れ目4にカルサイトが認められる。花崗岩には、変質はほとんど認められず、有色鉱物はほとんど残存している。岩はハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

WNW走向高角度南傾斜の割れ目が30~60cm程度の間隔で認められる。割れ目にはクロライトを介在している。花崗岩には、程度の弱い変質が認められ、カリ長石が淡褐色に変色している。有色鉱物の一部がクロライトに置き換わっている。岩はハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。



可視画像



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	B/CH B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、灰色、淡褐色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	93 93
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R103-1 (花崗岩), 500mアクセス北R103-2 (花崗岩)	
変質	1	採水試料番号	-	
湧水	無し			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々に最大φ15mm程度のカリ長石が認められる。また、東側壁から鏡右側にかけ、最大幅100~150mm程度のアブライト脈が認められる。
切羽の大部分の花崗岩には変質がほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目5付近から北東側の花崗岩には程度の弱い変質が認められ、カリ長石が淡褐色に変色し黒雲母の一部がクロライトに置き換わっている。
割れ目の走向傾斜は、割れ目5付近から南西側では、NNE走向高角度西傾斜とNW走向高角度南傾斜が認められる。割れ目5付近から北東側では、WNW走向高角度南傾斜が認められる。

割れ目の介在物としてクロライトとカルサイトが認められた。
湧水は認められなかった。
岩級区分は、割れ目5付近から南西側では、割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。また、割れ目5付近から北東側では、割れ目間隔が30~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(A・III・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

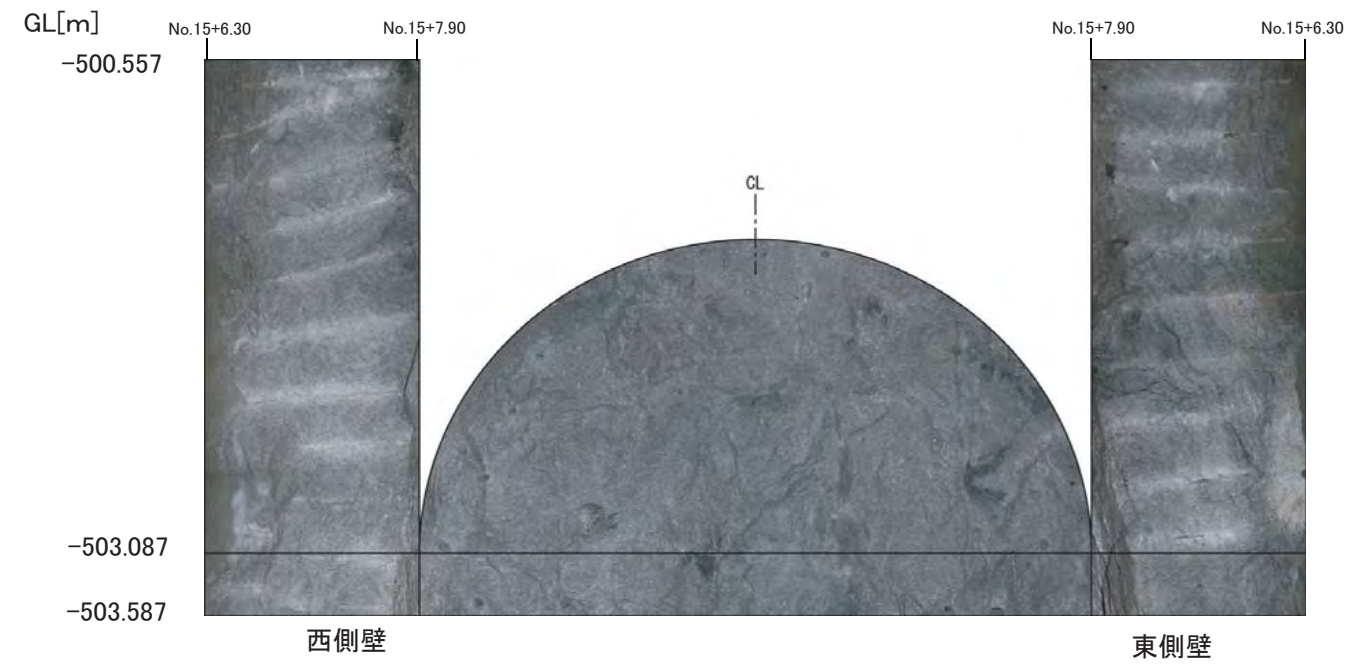
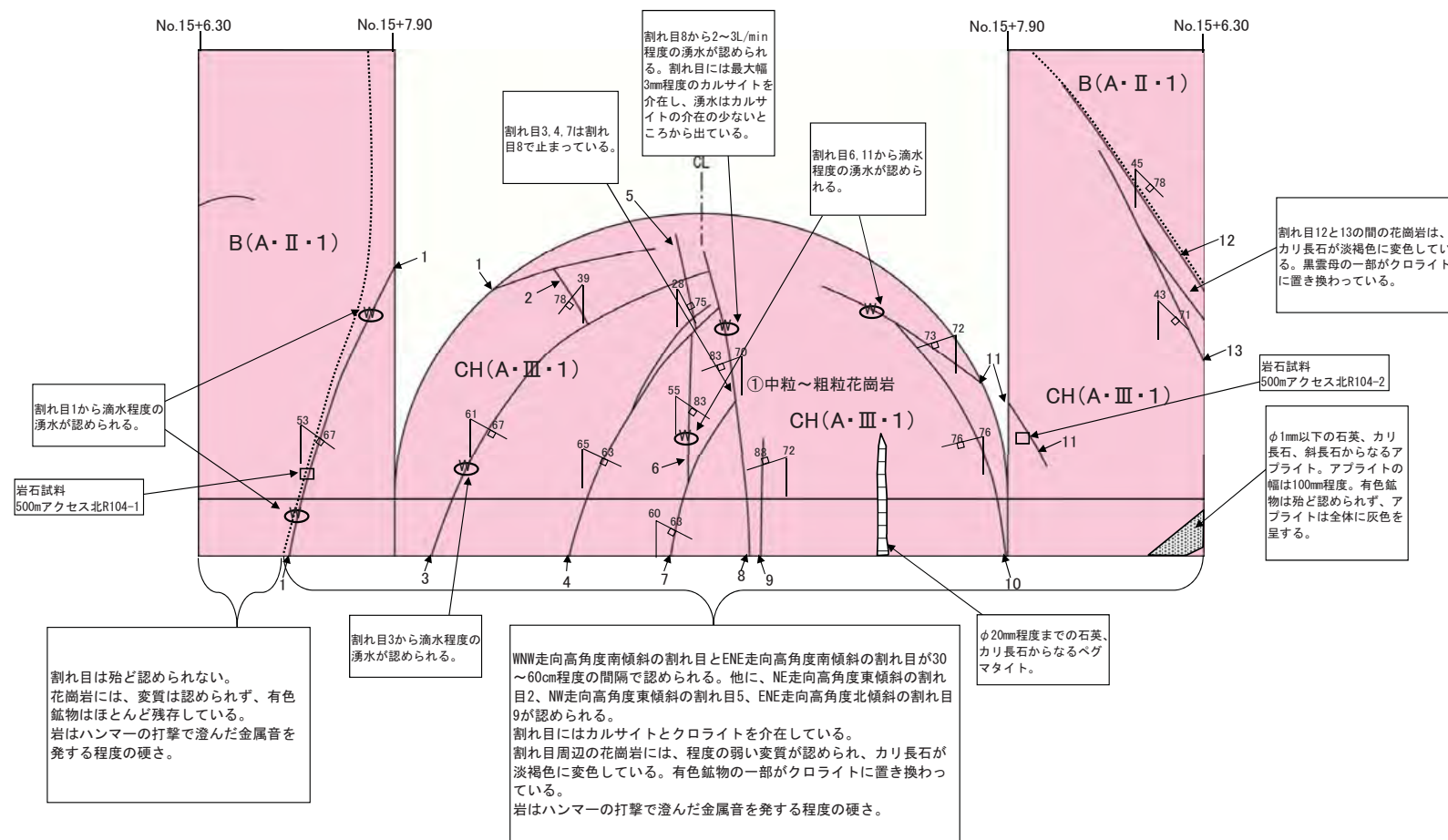
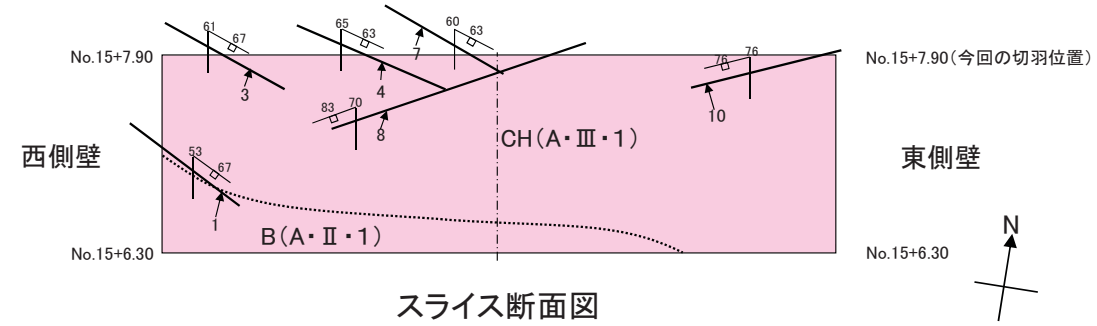
A5-請負-計測工(地質)-130910

シート番号	500mアクセス 北坑道104	日時	2013/9/10 16:30~18:00	位置・深度	500mアクセス北坑道104 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	--------------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 70 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 アブライト脈 ベグマタイト



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m B/CH G.L. -502.807m~-503.587m B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、灰色、淡褐色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m 60 G.L. -502.807m~-503.587m 64
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R104-1 (花崗岩), 500mアクセス北R104-2 (花崗岩)
変質	1	採水試料番号	-
湧水	2~3L/min		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。

岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々に最大φ15mm程度のカリ長石が認められる。また、東側壁下部には、幅100mm程度のアブライト脈が認められる。

切羽の大部分の花崗岩には変質がほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目12から13の間と、割れ目2,3,8周辺の花崗岩には程度の弱い変質が認められ、カリ長石が淡褐色に変色し黒雲母の一部がクロライトに置き換わっている。

割れ目の走向傾斜は、WNW走向高角度南傾斜とENE走向高角度南傾斜が主体で、他に、NE走向高角度東傾斜、NW走向高角度東傾斜、ENE走向高角度北傾斜が認められる。

割れ目の介在物としてクロライトとカルサイトを認められた。湧水は割れ目8から2~3L/min程度、割れ目1,3,6,11から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目1付近から南西側では、割れ目が認められず、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A-II-1)級と評価した。また、割れ目1付近から北東側では、割れ目間隔が30~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(A-III-1)級と評価した。

A工区地質記載シート

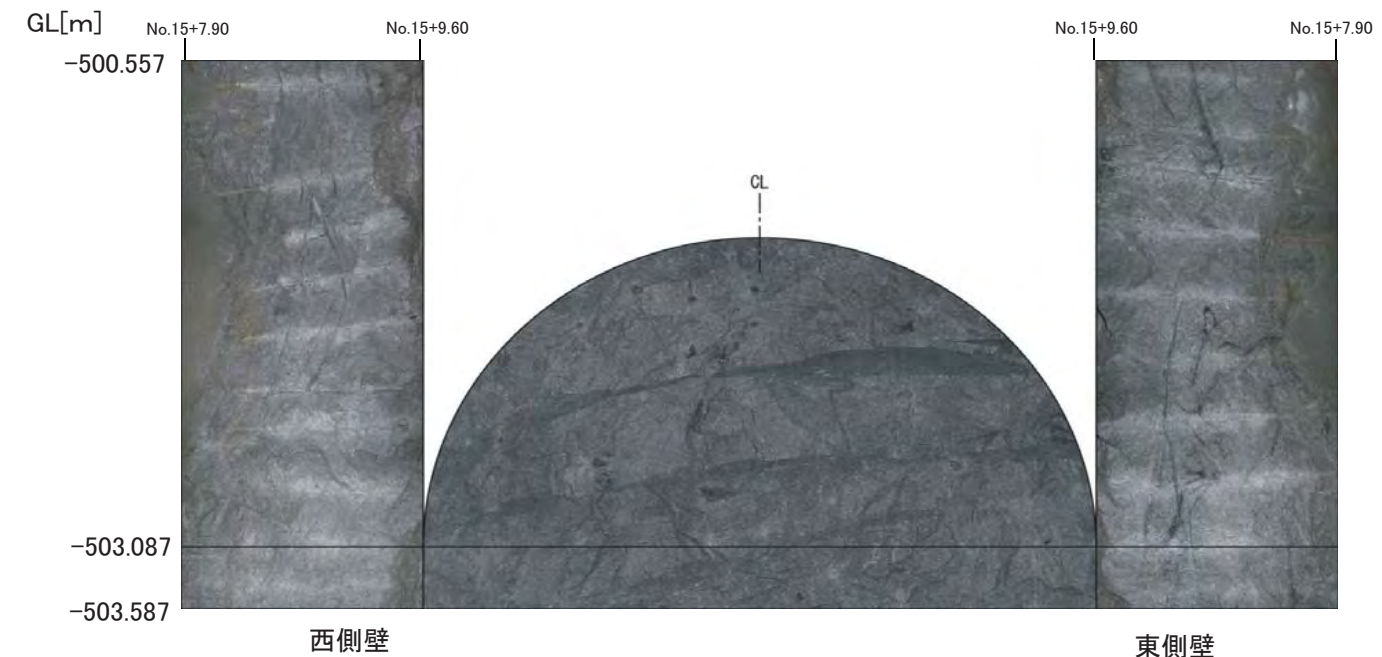
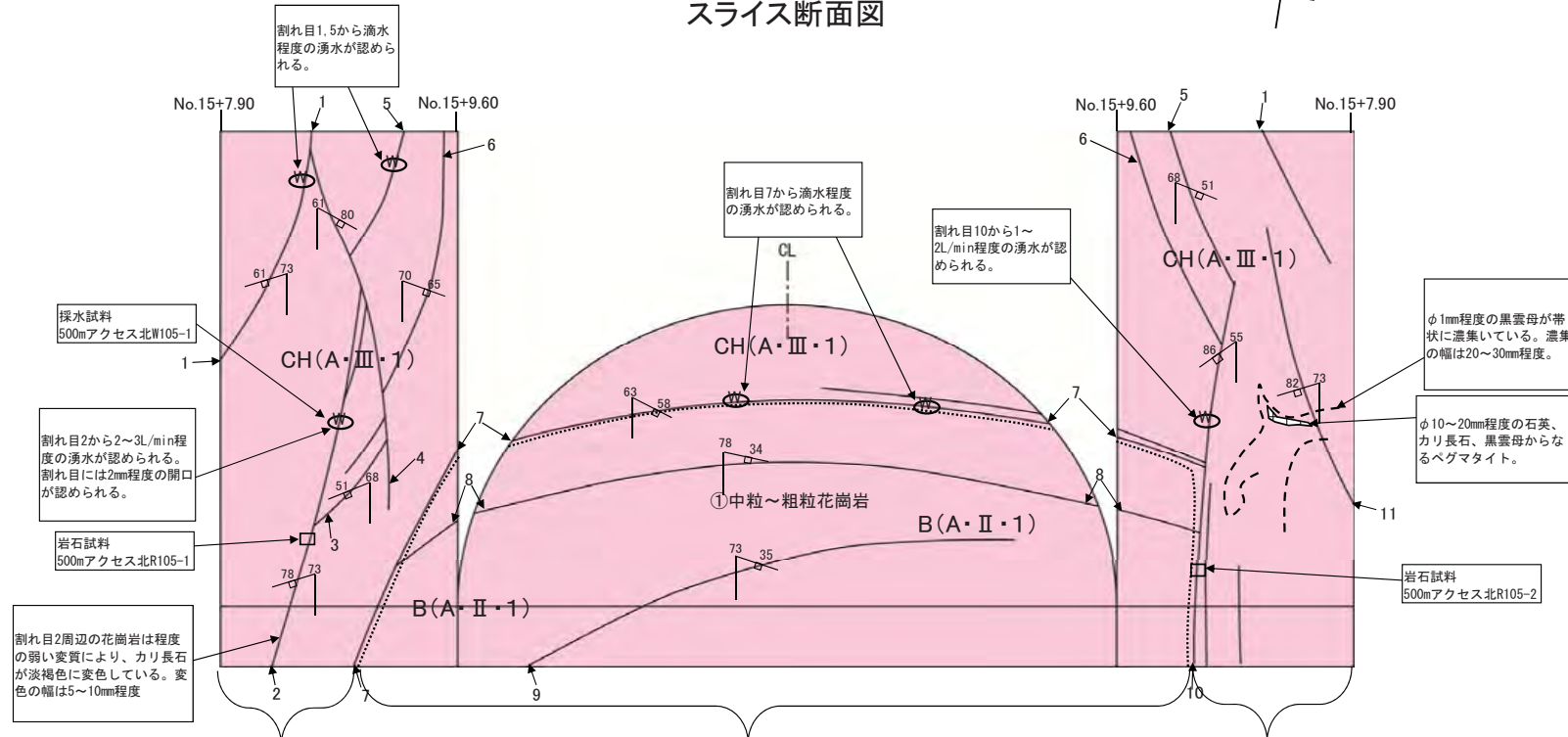
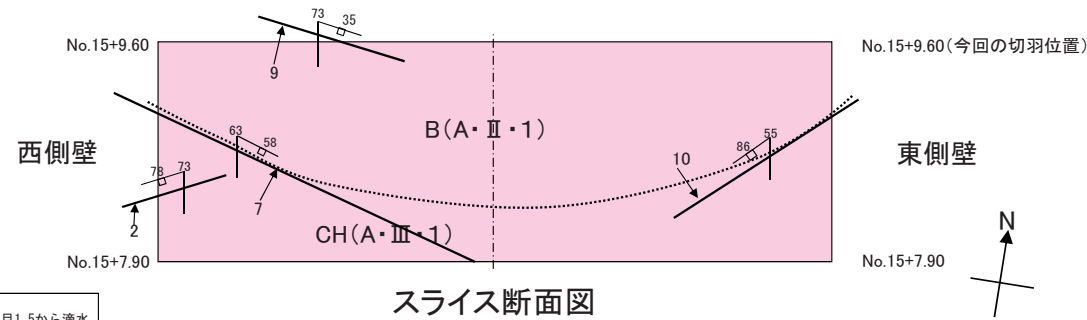
A5-請負-計測工(地質)-130918

シート番号	500mアクセス 北坑道105	日時	2013/9/18 16:30~18:00	位置・深度	500mアクセス北坑道105 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	--------------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 79 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 ベグマタイト



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	B/CH B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(淡桃色、淡褐色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	60 64
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R105-1(花崗岩), 500mアクセス北R105-2(花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	500mアクセス北W105-1	
湧水	2~3L/min			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.7m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々に最大φ15mm程度のカリ長石が認められる。切羽の大部分の花崗岩には変質がほとんど認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目2周辺の花崗岩には程度の弱い変質が認められ、カリ長石が淡褐色に変色し黒雲母の一部がクォーartzに置き換わっている。割れ目の走向傾斜は、割れ目7と10から南側では、NE走向高角度南傾斜とWNW走向中~高角度南傾斜が認められる。割れ目7から10より北側は、WNW走向中角度南傾斜が認められる。

割れ目の介在物としてカルサイトが認められる。湧水は割れ目2から2~3L/min程度、割れ目10から1~2L/min程度、割れ目1,5,7から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目7から10付近より北側では、割れ目間隔が60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。また、割れ目7から10付近より南側では、割れ目間隔が30~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(A・III・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

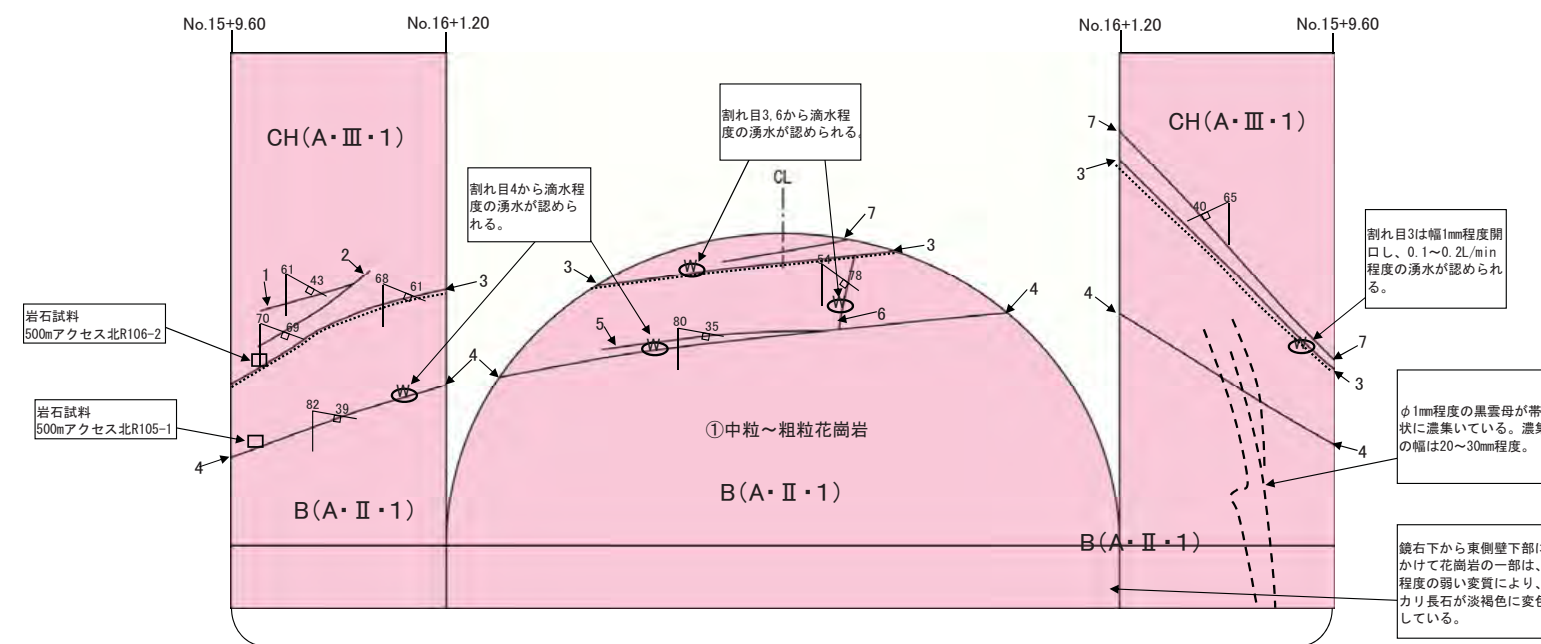
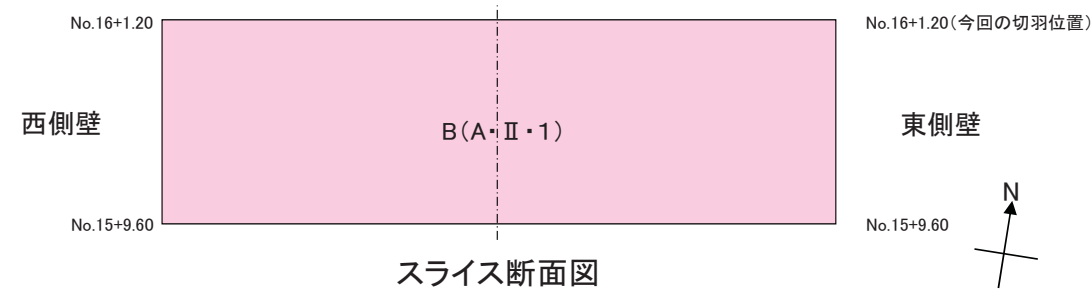
A5-請負-計測工(地質)-130920

シート番号	500mアクセス 北坑道106	日時	2013/9/20 16:30~18:00	位置・深度	500mアクセス北坑道106 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	--------------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

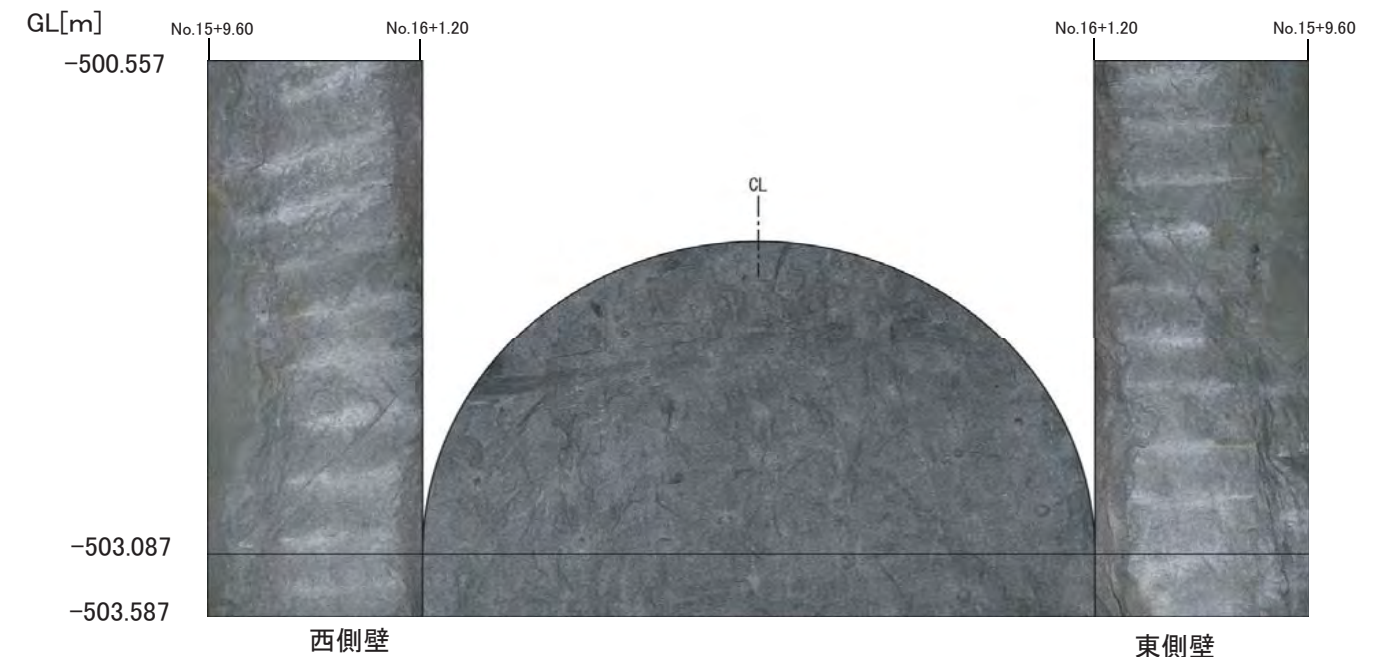
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

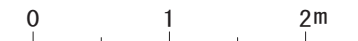
凡例	花崗岩	割れ目	割れ目の走向傾斜	岩級区分境界	湧水	黒雲母の濃集
----	-----	-----	----------	--------	----	--------



WNW走向中~高角度南傾斜の割れ目が60~100cm以上の間隔で認められる。他に、ENE走向中角度南傾斜の割れ目4、NE走向中角度南傾斜の割れ目7が認められる。
割れ目にはカルサイトとクロライトを介在している。花崗岩に変質は認められず、有色鉱物は残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。
岩はハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。



可視画像



スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	B/CH B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡褐色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	65 77
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R106-1(花崗岩), 500mアクセス北R106-2(花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	0.1~0.2L/min			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々に最大φ15mm程度のカリ長石が認められる。
花崗岩にはほとんど変質が認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。鏡右下から東側壁下部にかけて花崗岩の一部は、程度の弱い変質により、カリ長石が淡褐色に変色している。
割れ目の走向傾斜は、WNW走向中~高角度南傾斜の割れ目が主体で、他に、ENE走向中角度南傾斜やNE走向中角度南傾斜が認められる。

割れ目の介在物としてカルサイトとクロライトが認められる。
湧水は割れ目3から0.1~0.2L/min程度、割れ目10から1~2L/min程度、割れ目4,6から滴水程度で認められた。
岩級区分は、割れ目3より北側では、割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。また、割れ目3から南側では、割れ目間隔が30~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(A・III・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

A5-請負-計測工(地質)-130921

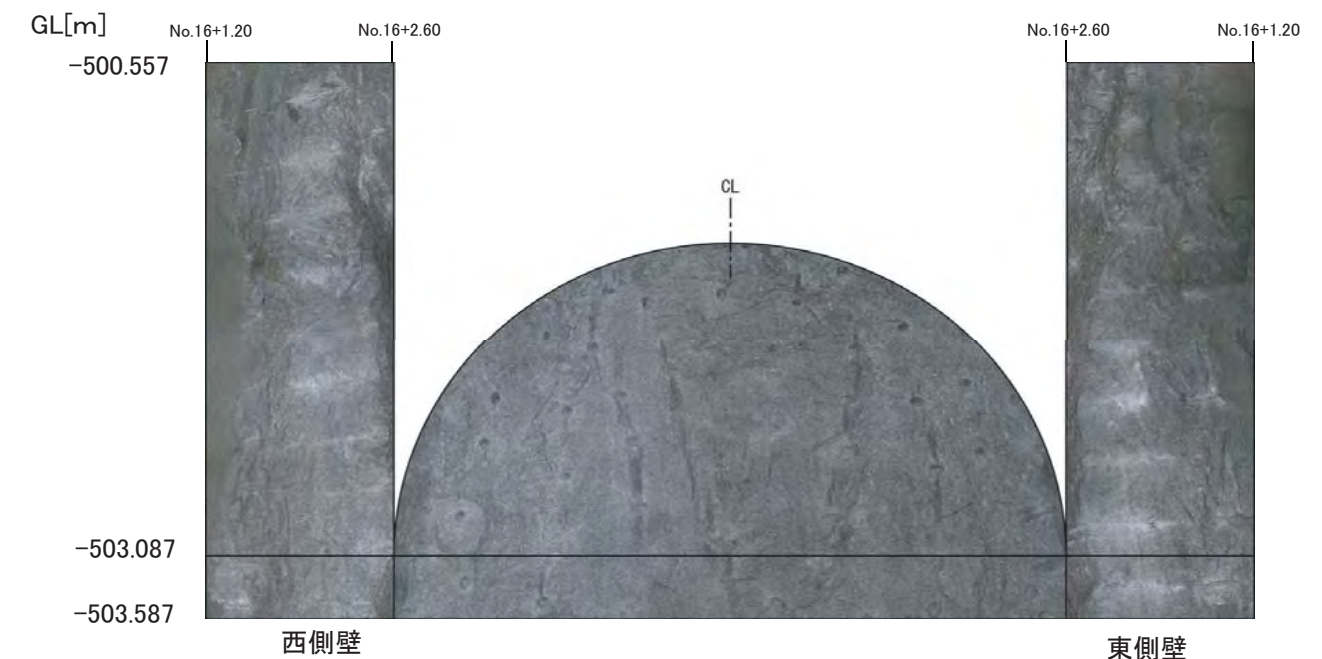
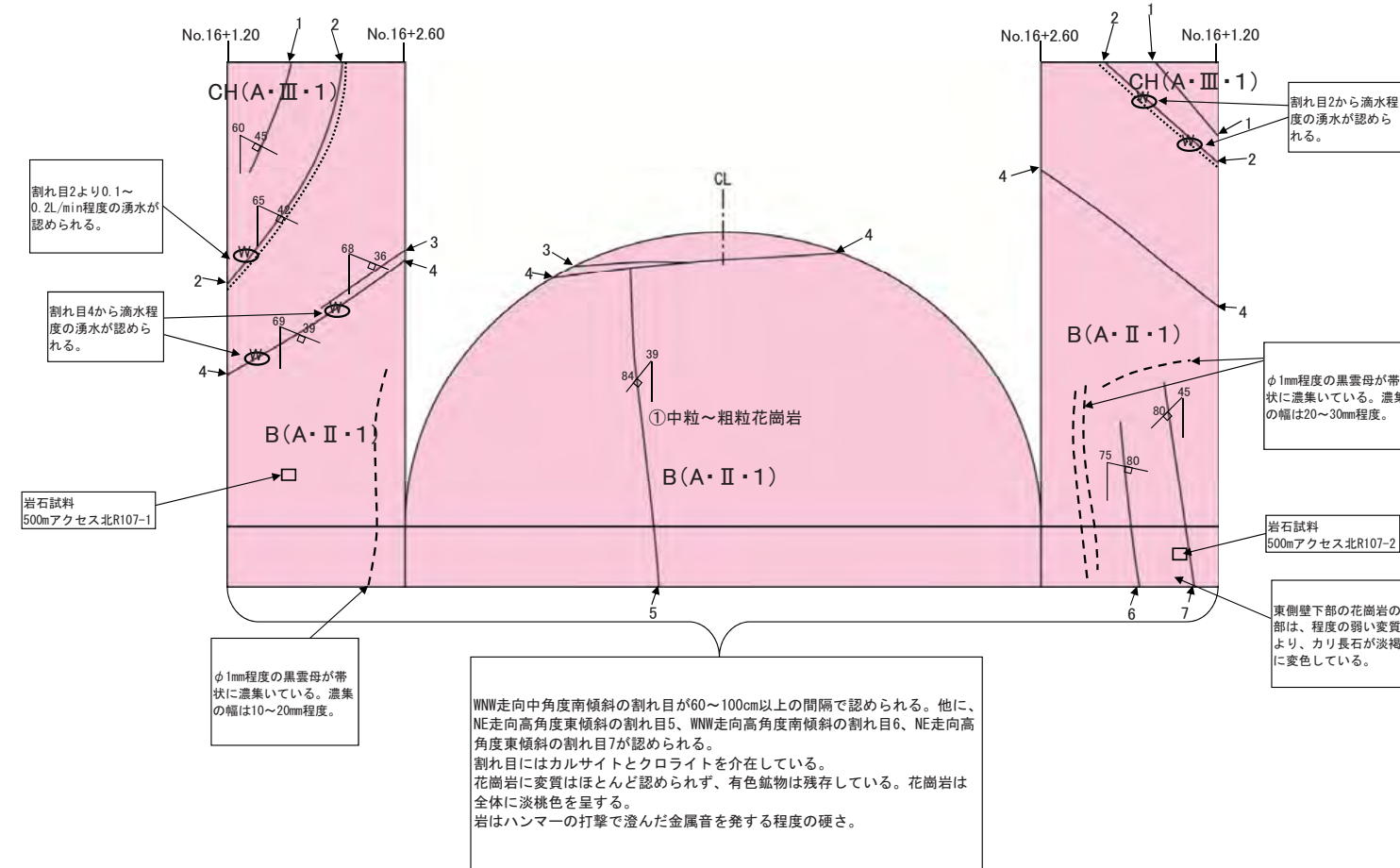
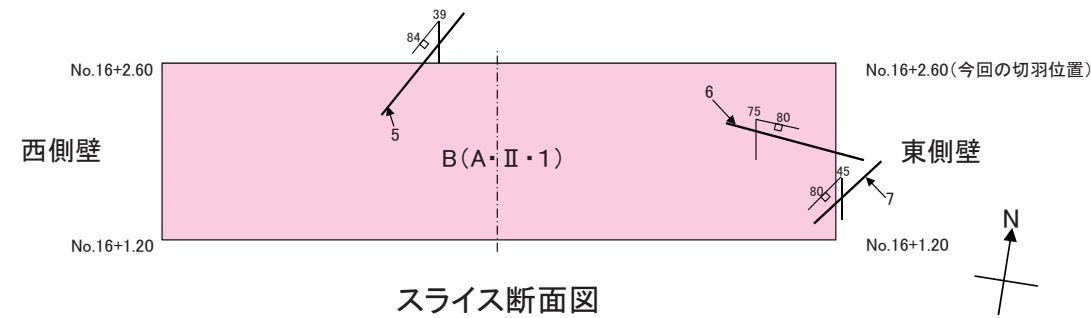
シート番号	500mアクセス 北坑道107	日時	2013/9/21 14:30~16:00	位置・深度	500mアクセス北坑道107 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	--------------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

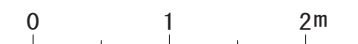
請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

	花崗岩		割れ目		割れ目の走向傾斜		岩級区分境界		湧水		黒雲母の濃集
--	-----	--	-----	--	----------	--	--------	--	----	--	--------



可視画像



スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	B/CH B	特記事項 当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.4m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々に最大φ15mm程度のカリ長石が認められる。花崗岩にはほとんど変質が認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。東側壁下部の花崗岩の一部には、程度の弱い変質が認められ、カリ長石が淡褐色に変色している。割れ目の走向傾斜は、WNW走向中角度南傾斜が主体で、他に、NE走向高角度東傾斜、WNW走向高角度南傾斜、NE走向高角度東傾斜が認められる。
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(淡桃色、淡褐色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	70 83	
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R107-1(花崗岩)、500mアクセス北R107-2(花崗岩)		
変質	1~2	採水試料番号	-		
湧水	0.1~0.2L/min				

割れ目の介在物としてカルサイトとクォーライトが認められる。湧水は西側壁上部の割れ目2から0.1~0.2L/min程度、西側壁の割れ目4と東側壁上部の割れ目2から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目2より北側では、割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。また、割れ目2から南側では、割れ目間隔が30~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(A・III・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

A5-請負-計測工(地質)-130923

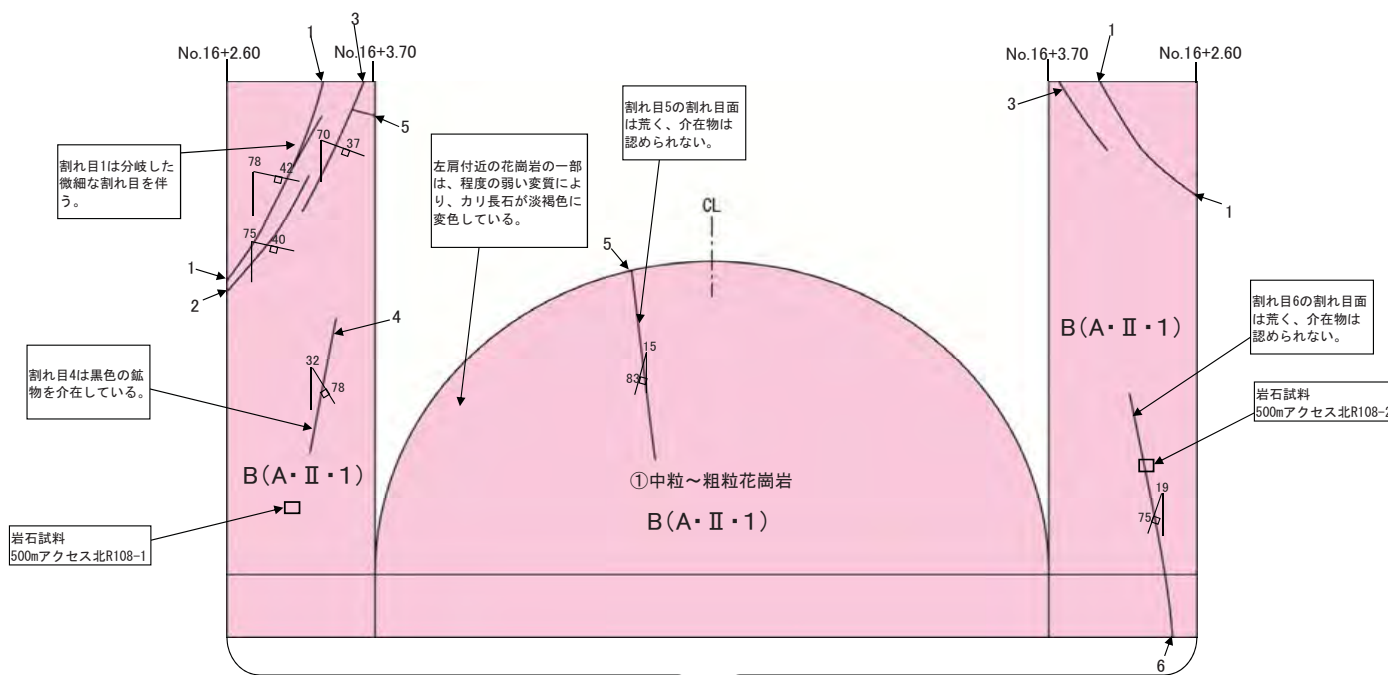
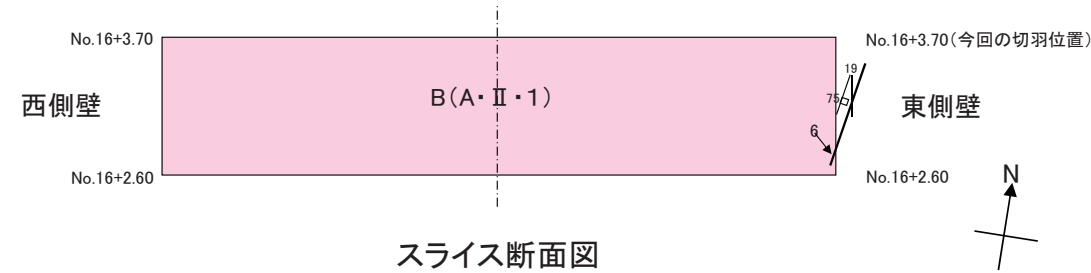
シート番号	500mアクセス 北坑道108	日時	2013/9/23 16:00~17:30	位置・深度	500mアクセス北坑道108 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	--------------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

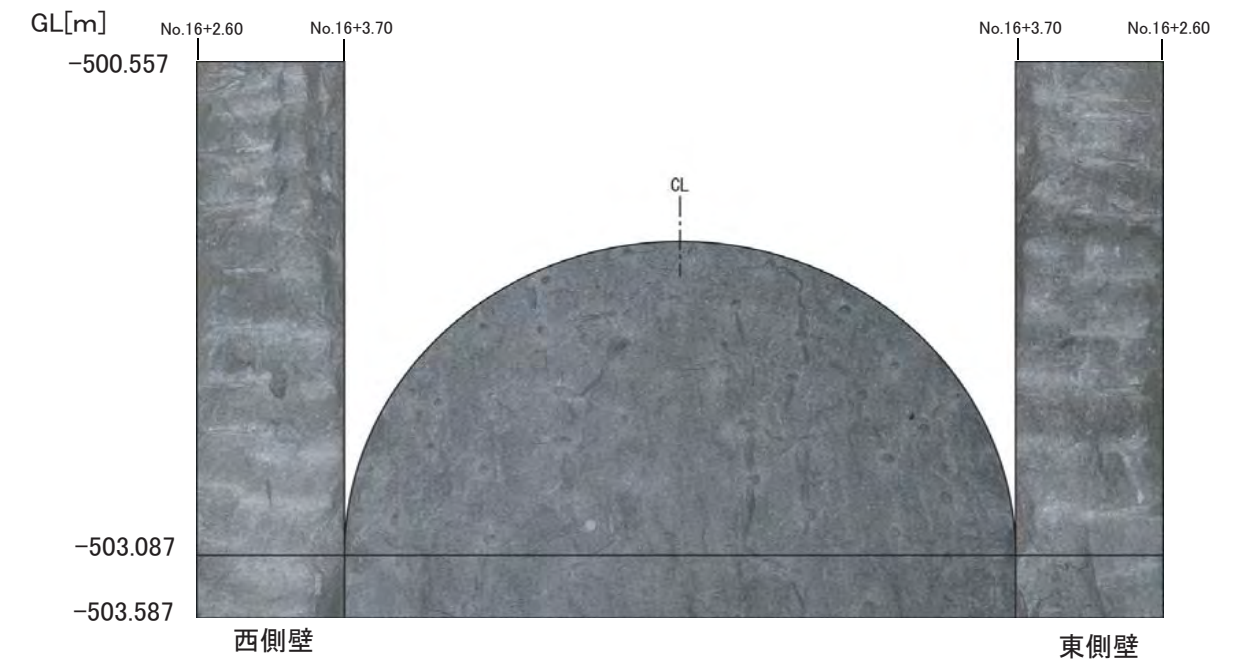
請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

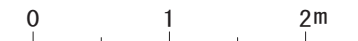
	花崗岩		割れ目		割れ目の走向傾斜		岩級区分境界		湧水		黒雲母の濃集
--	-----	--	-----	--	----------	--	--------	--	----	--	--------



WNW走向中角度南傾斜の割れ目が60~100cm以上の間隔で認められる。他に、NW走向高角度西傾斜の割れ目4、NNE走向高角度東傾斜の割れ目5,6が認められる。
割れ目にはカルサイトを介在している。
花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物は残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。
岩はハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。



可視画像



スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m B G.L. -502.807m~-503.587m B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡褐色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m 83 G.L. -502.807m~-503.587m 88
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R108-1(花崗岩), 500mアクセス北R108-2(花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	無し		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.1m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々に最大φ20mm程度のカリ長石が認められる。
花崗岩にはほとんど変質が認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。鏡左肩の花崗岩の一部には、程度の弱い変質が認められ、カリ長石が淡褐色に変色している。
割れ目の走向傾斜は、WNW走向中角度南傾斜が主体で、他に、NW走向高角度西傾斜、NNE走向高角度東傾斜が認められる。

割れ目の介在物としてカルサイトが認められる。
湧水は認められなかった。
岩級区分は、割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

A5-請負-計測工(地質)-130925

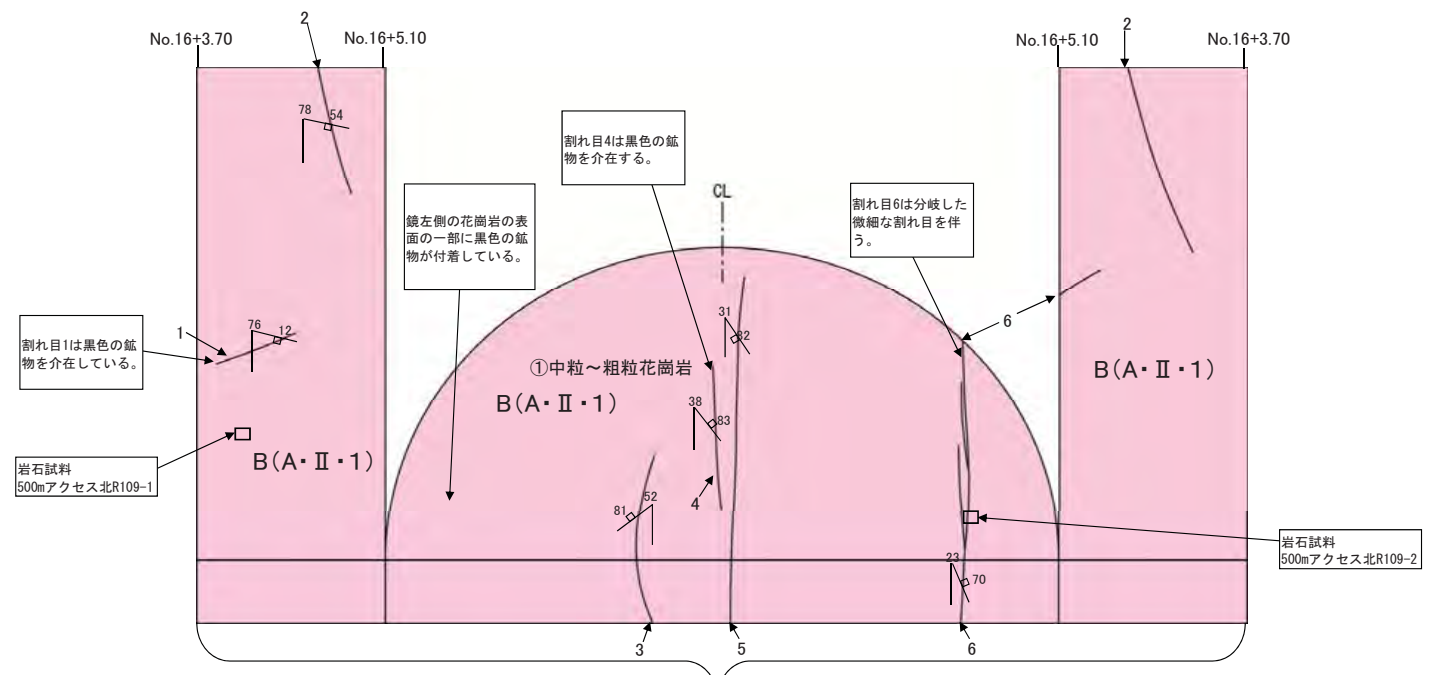
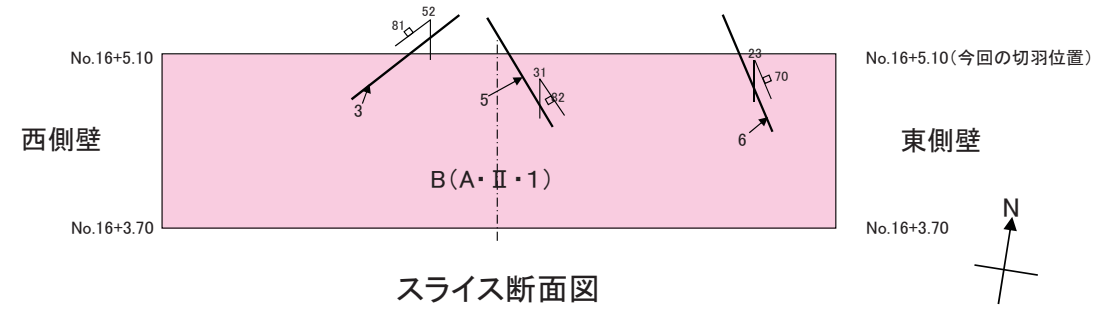
シート番号	500mアクセス 北坑道109	日時	2013/9/25 9:00~10:30	位置・深度	500mアクセス北坑道109 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	--------------------	----	-------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

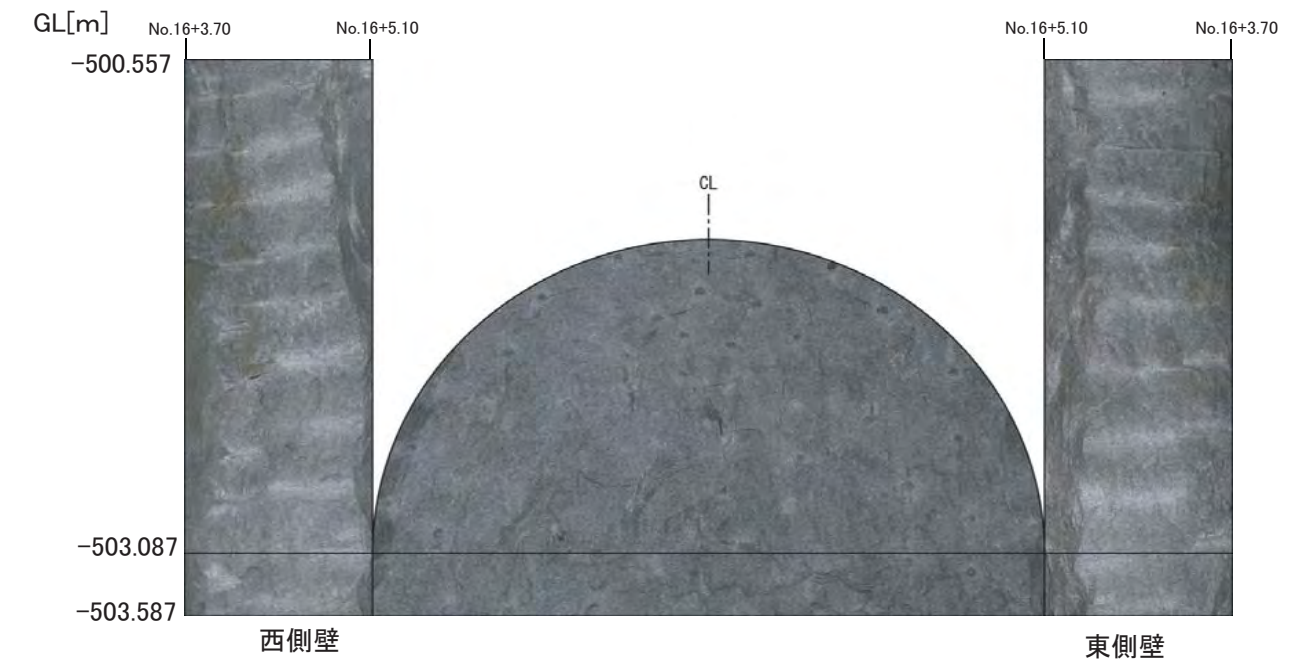
請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

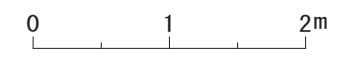
	花崗岩		割れ目		割れ目の走向傾斜		岩級区分境界		湧水		黒雲母の濃集
--	-----	--	-----	--	----------	--	--------	--	----	--	--------



WNW走向低~中角度南傾斜の割れ目が60~100cm以上の間隔で認められる。他に、NW走向高角度西傾斜の割れ目3, 5、NW走向高角度北~東傾斜の割れ目4, 6が認められる。割れ目は1~2m程度の長さのもの。割れ目にはカルサイトと黒色の鉱物を介在している。花崗岩に変質はほとんど認められず、有色鉱物は残存している。花崗岩は全体に淡桃色を呈する。岩はハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。



可視画像



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	B B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m G.L. -502.807m~-503.587m	90 90
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R109-1(花崗岩), 500mアクセス北R109-2(花崗岩)	
変質	1	採水試料番号	-	
湧水	無し			

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9° W方向である。横坑観察は切羽から1.4m離れた場所より目視観察を実施した。湧水は認められなかった。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々に最大φ25mm程度のカリ長石が認められる。花崗岩にはほとんど変質が認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目の走向傾斜は、WNW走向低~中角度南傾斜が主体で、他に、NW走向高角度西傾斜、NW走向高角度北~東傾斜が認められる。割れ目はいずれも1~2m程度の長さのものである。

割れ目の介在物としてカルサイトと黒色の鉱物が認められる。湧水は認められなかった。岩級区分は、割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

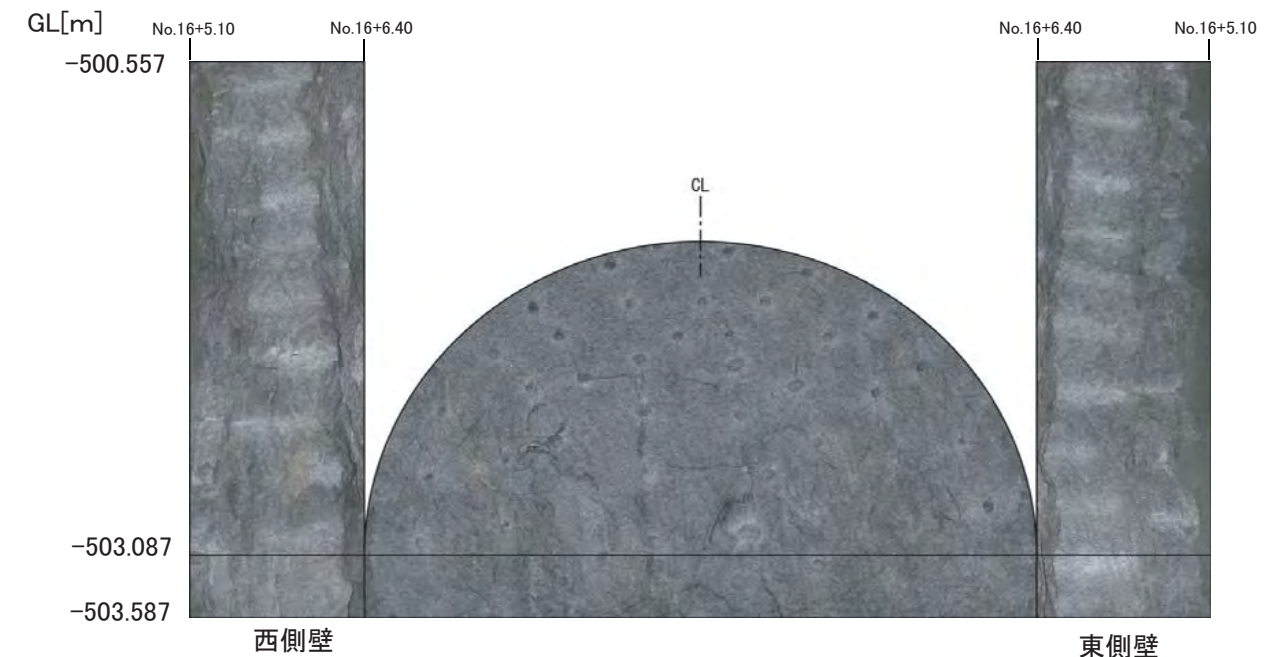
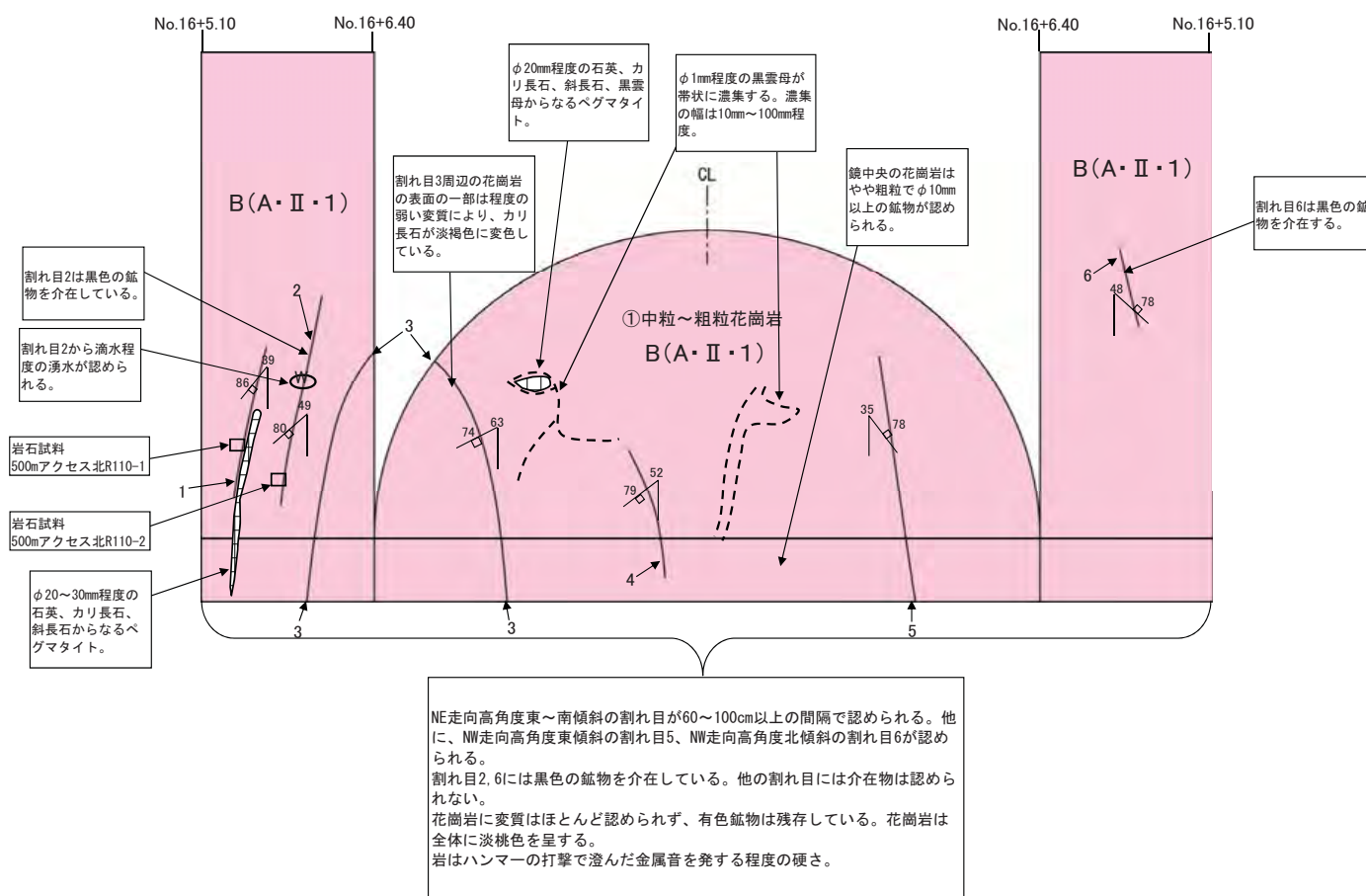
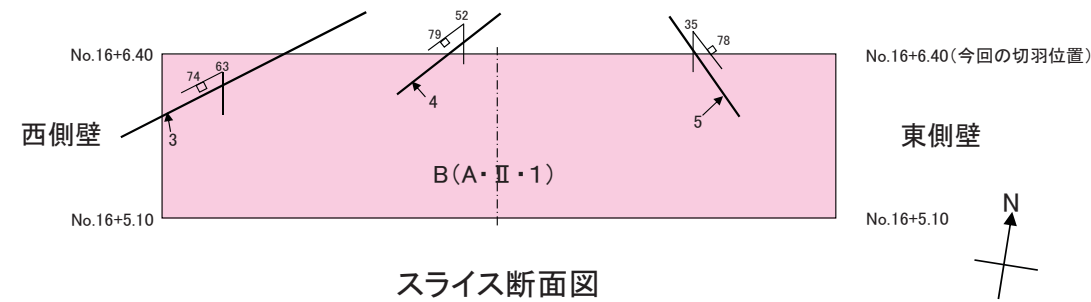
A5-請負-計測工(地質)-130926

シート番号	500mアクセス 北坑道110	日時	2013/9/26 9:00~10:30	位置・深度	500mアクセス北坑道110 G.L. -500.557 m~G.L. -503.587 m	観察・撮影者	
-------	--------------------	----	-------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 割れ目 割れ目の走向傾斜 岩級区分境界 湧水 黒雲母の濃集 ベグマタイト



可視画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -500.557m~-502.807m B G.L. -502.807m~-503.587m B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡褐色)	RMR値	G.L. -500.557m~-502.807m 79 G.L. -502.807m~-503.587m 90
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北R110-1 (花崗岩), 500mアクセス北R110-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所はアクセス北坑道であり、掘進方向はN9°W方向である。横坑観察は切羽から1.3m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々に最大φ20~30mm程度の石英、斜長石、カリ長石、黒雲母からなるベグマタイトが認められる。花崗岩にはほとんど変質が認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目3の周辺では、花崗岩は程度の弱い変質をうけ、カリ長石が淡褐色に変色している。割れ目の走向傾斜は、NE走向高角度東~南傾斜が主体で、他に、NW走向高角度東傾斜、NW走向高角度北傾斜が認められる。割れ目の介在物として黒色の鉱物が認められる。湧水は割れ目2から滴水程度で認められた。岩級区分は、割れ目間隔が60~100cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。